

Endeavor

MT7900

ユーザーズマニュアル

ご使用
の前に

設置
・
準備

1

基本
操作

2

装置の
増設

3

BIOS
設定

4

再
インス
トール

5

困った
ときに

6

付録

Windows Vista

ご使用前に

- ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

障害や事故の発生を防止するための禁止事項の内容を表しています。



製品の取り扱いにおいて、してはいけない行為（禁止行為）を示しています。

障害や事故の発生を防止するための指示事項の内容を表しています。



必ず行う事項（指示、行為）を示しています。



電源プラグをコンセントから必ず抜くことを示しています。



アース端子を接地（アース）することを示しています。

⚠ 警告

	<p>交流100V以外の電源は、使用しないでください。 交流100V以外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。</p>
	<p>ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電の原因となります。</p>
	<p>雷が鳴りだしたら、電源プラグを触らないでください。 感電の原因となります。</p>
	<p>電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。 取り扱いを誤ると、火災の原因となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。 ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。 ・電源プラグを長期間コンセントに差したままにしない。 <p>電源プラグは、定期的にコンセントから抜いて、刃の根元や刃と刃の間を清掃してください。</p>
	<p>電源コードのたこ足配線はしないでください。 発熱し、火災の原因となります。 家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。</p>
	<p>破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。 電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源コードを加工しない。 ・無理に曲げたり、ねじったり、引っばったりしない。 ・電源コードの上に重いものを載せない。 ・発熱器具の近くに配線しない。 <p>電源コードが破損したら、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。</p>
	<p>本機から異臭や異音がする、発煙するなど、異常状態のまま使用しないでください。 感電・火災のおそれがあります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。 お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。</p>
	<p>通風孔など開口部から、本機内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。 感電・火災の原因となります。</p>

警告

 	水などの液体や異物が本機内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。 感電・火災の原因となります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。
 	光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。 飛び散って、けがをする危険があります。
 	本機の分解・改造や、マニュアルで指示されている以外の増設・交換はしないでください。 けが・感電・火災の原因となります。
	装置の増設・交換などをするときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。 電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
 	小さなお子様の手の届く所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。 飲み込むと化学物質による被害の原因となります。 万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
	電源プラグのアース端子を接地（アース）してください。 接地しないで使用すると、感電の危険性があります。 アースは必ず電源プラグをコンセントに差し込む前に行ってください。また、アースを外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。
	アース端子は、絶対にガス管に接続しないでください。 火災の原因となります。
	アース端子は、コンセントに挿入または接触させないでください。 感電の危険があります。

⚠ 注意

 	小さなお子様の手の届く所に設置、保管しないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
 	不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
 	湿気やホコリの多い場所に置かないでください。 感電・火災の危険があります。
 	本機の通風孔をふさがないでください。 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。 設置する際は、次の点を守ってください。 <ul style="list-style-type: none">・押し入れや本箱など風通しの悪い所に設置しない。・じゅうたんや布団の上に設置しない。・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。
 	各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。 配線を誤ると、火災の危険があります。
 	装置の増設・交換は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。 本機の電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから作業を行ってください。
 	マウス底面にある光学式センサーの光を直接見つめないでください。 強い光により、視覚障害の原因となります。
 	ヘッドフォンやスピーカーは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。 ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。
 	光ディスクドライブのディスクトレイに手を挟まれないようにしてください。 けがの原因となります。
 	長時間または不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。 肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となります。
	本機を移動する場合は、電源を切り、本機からすべての配線を取り外してください。

注意



連休や旅行などで本機を長期間使用しないときは、安全のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。

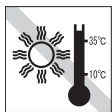


本機を廃棄する場合は、法律に従って正しく処理してください。

製品保護上の注意

▶使用・保管時の注意

コンピュータ（本機）は精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。



温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。故障、誤動作の原因となります。適切な温度の目安は10℃～35℃です。



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。誤動作やデータ破損の原因となることがあります。逆に、本機の影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。故障、誤動作の原因となります。また、直射日光などの紫外線は、変色の原因となります。



電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎざぎざの所など）に本機を置かないでください。電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えてしまいます。



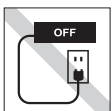
コンピュータ本体を横置きにしないでください。故障、誤動作の原因となります。本機は縦置き専用に設計されています。



本機の上には重い物を載せないでください。重圧により、故障や誤動作の原因となります。



本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



コンセントに電源プラグを接続したまま、本体カバーを外して作業しないでください。電源を切っても、本機内部に微小な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



本機を梱包しない状態で、遠隔地への輸送や保管をしないでください。衝撃や振動、ホコリなどから本機を守るため、専用の梱包箱に入れてください。



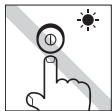
移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。内蔵の周辺機器（HDD、光ディスクドライブなど）も含めて、故障、誤動作の原因となります。



輸送や保管をするときは、付属物をセットしたままにしないでください。配線ケーブルはすべて取り外し、光ディスクメディアなどは取り出してください。



他の機械の振動が伝わる所など、振動しやすい場所には置かないでください。故障、誤動作の原因となります。



アクセスランプ点灯・点滅中は、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



ホコリの多い所には置かないでください。故障、誤動作の原因となります。

▶記録メディア

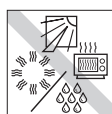
記録メディアは、次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、記録メディアに収録されているデータが破損するおそれがあります。

<記録メディアの種類>

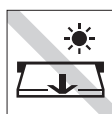
FD FD

CD 光ディスクメディア

記録メディアの種類を指定していない注意事項は、すべての記録メディアに適用されます。



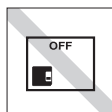
直射日光が当たる所、発熱器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



アクセスランプ点灯・点滅中は、記録メディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



上に物を載せないでください。



使用後は、本機にセットしたままにしたり、ケースに入れずに放置したりしないでください。



キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多い所では、使用したり保管したりしないでください。



クリップで挟む、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。

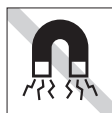


アクセスカバーを開けたり、磁性面あるいは金属端子に触れたりしないでください。

FD



磁性面や金属端子にホコリや水を付けないでください。
シンナーやアルコールなどの溶剤を近づけないでください。



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。

FD



何度も読み書きしたFDは使わないでください。

摩耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。

FD



信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。

CD



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。

CD



レコードのように回転させて拭かないでください。内側から外側に向かって拭いてください。

CD



光ディスクドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。

CD



シールを貼らないでください。

CD



信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。

CD



温度差の激しい場所に置かないでください。結露する可能性があります。

CD

▶マウス

マウスは精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。



落としたり、ぶつけたりして強い衝撃を与えないでください。



持ち運びの際は、マウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。



レンズ部分に触れないでください。



ゴミやホコリの多い所で使用したり、保管したりしないでください。レンズにゴミやホコリが付いたまま使用すると、誤動作の原因となります。

目次

製品保護上の注意	7
使用・保管時の注意	7
記録メディア	8
マウス	9

はじめに

マニュアル中の表記	14
本製品の仕様とカスタマイズ	18

使い始めるまでの準備

ご使用の前に	20
本機を使い始めるまでの手順	20
ご使用前の確認事項	21
添付されているソフトウェア	22
本機でできること	24
各部の名称と働き	25
本体前面	25
本体背面	26
コンピュータの設置	27
電源の入れ方とWindowsのセットアップ	35
Windowsが使用できるようになるまでの作業	35
電源を入れる前に	36
電源の入れ方とWindowsの起動	37
Windowsのセットアップ	38
初期設定ツール	40
セットアップ完了後の作業	42
Windows使用時の確認事項	43
Windows Vistaの使用方法	43
音量の調節	44
インフォメーションメニューを使う	44
Windowsの修復	46
復元ポイントを作成する	46
セキュリティ対策を行う	46
画面表示が消えたときは（省電力機能）	47
コントロールパネルの表示	47
フォルダメニューの表示	48
ユーザーアカウントを作る	48
ユーザーアカウント制御画面	49
本機の終了方法	50
通常の終了（スリープ）	51
電源を切る（シャットダウン）	52
再起動	53
ハングアップしたときは	54

コンピュータの基本操作

キーボードを使う	56
キーの種類と役割	56
文字を入力するには	57
日本語を入力するには	57
キーロック表示ランプ	58
ホットキーを使用する	59
USBハブ機能	61
マウスを使う	62
マウスの操作	62
マウスの設定変更	62
FDD・マルチカードリーダーを使う（オプション）	63
FDDの仕様	63
FDのセットと取り出し	64
FDのフォーマット	65
ライトプロテクト（書き込み禁止）	66
HDDを使う	67
データのバックアップ	67
購入時のHDD領域	68
HDDを分割して使用する	69
HDDを増設・交換したら	69
HDDの暗号化	70
RAID機能	71
RAIDの構成・削除・修復	71
光ディスクドライブを使う	79
使用可能な光ディスクメディア	79
光ディスクメディアのセットと取り出し	80
強制的な光ディスクメディアの取り出し	82
CDメディアの読み込み・再生	82
DVDメディアの読み込み・再生	83
光ディスクメディアへの書き込み	84
Nero 8 Essentialsの使い方	85
USB機器を使う	86
USB機器の接続と取り外し	86
画面表示機能を使う	88
表示に関する各種設定	88
表示できる解像度と表示色	89
表示装置に関する設定	90
サウンド機能を使う	91
外部オーディオ機器などの接続	91
音量の調節	93
音声の再生・録音	93
サウンドユーティリティを使う	94
ネットワーク機能を使う	95
ネットワークの構築	95

インターネットへの接続	95
そのほかの機能	96
インターネットに接続するには	97
接続するまでの流れ	97
接続方法の選択とプロバイダとの契約 ...	97
インターネットに接続する	98
インターネットを使う上での注意	99
インターネットや電子メールを利用する ...	99
インターネットを使用する際のセキュリティ対策 ...	102
Windows Update	102
セキュリティソフトウェア	104
ファイアウォール	105
Windows Defender	106
フィッシング詐欺検出機能	106
Webフィルタリングソフトウェア	107
電源設定を行う（省電力機能を使う）	110
電源プランの設定	110
本機を省電力状態にする	111
省電力状態に移行する方法	114
そのほかの機能	117
パラレルコネクタ	117
シリアルコネクタ	117
セキュリティロックスロット	118

システムの拡張

拡張できる装置	120
作業時の注意	121
拡張時の準備作業	122
本体カバーの取り外し・取り付け	122
フロントパネルの取り外し・取り付け ...	125
3.5型フェイスプレートの取り外し・取り付け ...	127
5.25型フェイスプレートの取り外し・取り付け ...	128
メモリの装着	129
メモリの仕様	129
メモリ装着の組み合わせ	130
メモリの取り付け・取り外し	130
メモリの増設・交換後の作業	133
拡張ボードの装着	134
拡張スロットの仕様	134
拡張ボードの取り付け・取り外し	135
拡張ボードの取り付け・取り外し後の作業 ...	138
ドライブ装置とコネクタの接続	139
マザーボード上のコネクタの仕様	139
ドライブ装置の接続例	140
3.5型ドライブの装着	142

3.5型ドライブの取り付け・取り外し ...	142
3.5型ドライブの取り付け・取り外し後の作業 ...	146
5.25型ドライブの装着	147
5.25型ドライブの取り付け・取り外し ...	147
5.25型ドライブの取り付け・取り外し後の作業 ...	150
HDDの装着	151
HDDの取り付け・取り外し	151
HDDの取り付け・取り外し後の作業	156

BIOSの設定

BIOSの設定を始める前に	158
BIOS Setupユーティリティの操作	159
BIOS Setupユーティリティの起動	159
BIOS Setupユーティリティの操作	160
BIOS Setupユーティリティの終了	163
設定値を元に戻す	164
パスワードを設定する	165
HDDアクセス制限	168
起動 (Boot) デバイスの順番を変更する ...	169
BIOS Setupユーティリティの設定項目	171
Mainメニュー画面	172
Advancedメニュー画面	174
Power メニュー画面	176
Bootメニュー画面	178
Securityメニュー画面	179
Exitメニュー画面	180
BIOSの設定値	181

ソフトウェアの再インストール

再インストールする前に必ずお読みください	184
再インストールが必要な場合	184
重要事項	184
ソフトウェアの再インストールを行う	186
必要なメディア	186
インストールの順番	186
インストール作業における確認事項	188
Windowsのインストール	189
Windows Vistaをインストールする ...	190
本体ドライバのインストール	194
拡張ボードのドライバのインストール ...	195
Adobe Readerのインストール	195
セキュリティソフトウェアのインストール ...	196
Webフィルタリングソフトウェアの インストール	196

Nero 8 Essentialsのインストール	198
WinDVDのインストール	199
109 USBキーボードユーティリティの インストール	199
JWord Pluginのインストール	199
gooスティックのインストール	200
マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版の インストール	200
そのほかのインストール	202
再インストール後の作業	203

こんなときは

トラブルが発生したら	206
困ったときに	207
コンピュータ本体の不具合（起動時）	208
コンピュータ本体の不具合	216
メモリの不具合	219
記憶装置の不具合	219
入力装置の不具合	225
表示装置の不具合	227
サウンドの不具合	228
ソフトウェアの不具合	229
システム診断ツールを使う	233
システム診断を実行する	233
トラブル時に役立つ機能	234

セーフモードでの起動	234
システムの復元	234
Windows回復環境（Windows RE）を使う	236
警告メッセージが表示されたら	239

付録

お手入れ	242
本機のお手入れ	242
データのバックアップ	243
バックアップ方法	243
電子マニュアルのダウンロード	245
ダウンロードできるその他のデータ	245
セキュリティチップ（TPM）によるデータの暗号化	246
HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成	247
HDD領域を分割して使用する（概要）	247
Cドライブを分割・変更する	248
Cドライブ以外のドライブを作成・変更する	251
Cドライブ以外のドライブを削除する	254
リチウム電池の交換	255
CMOS RAMの初期化	258
コンピュータ内部のケーブル接続	260
コンピュータを廃棄するときは	261
HDDのデータを消去する	261
機能仕様一覧	263
索引	264

はじめに

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項について説明します。

「マニュアル中の表記」	14
「本製品の仕様とカスタマイズ」	18

マニュアル中の表記

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号



制限事項です。
機能または操作上の制限事項を記載しています。



参考事項です。
覚えておくと便利なことを記載しています。



本書とは別のマニュアルを示します。
例) 『梱包品の確認』: 本機に添付の『梱包品の確認』を示します。




参照先を示します。




1 2



操作手順です。
ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。



 で困んだマークはキーボード上のキーを表します。



 はEnterキーを表します。また、 は  のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。

+の前のキーを押したまま+の後のキーを押します。
この例では、 を押したまま  を押します。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ
光ディスクメディア	CDメディア、DVDメディアなど
光ディスクドライブ	光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称

オペレーティングシステム（OS）に関する記述

本書では、オペレーティングシステム（OS）の名称を次のように略して表記します。

Windows Vista	Windows Vista [®] Ultimate Windows Vista [®] Business Windows Vista [®] Home Premium Windows Vista [®] Home Basic
---------------	--

HDD 容量の記述

本書では、HDD 容量を1GB（ギガバイト）=1000MBとして記載しています。

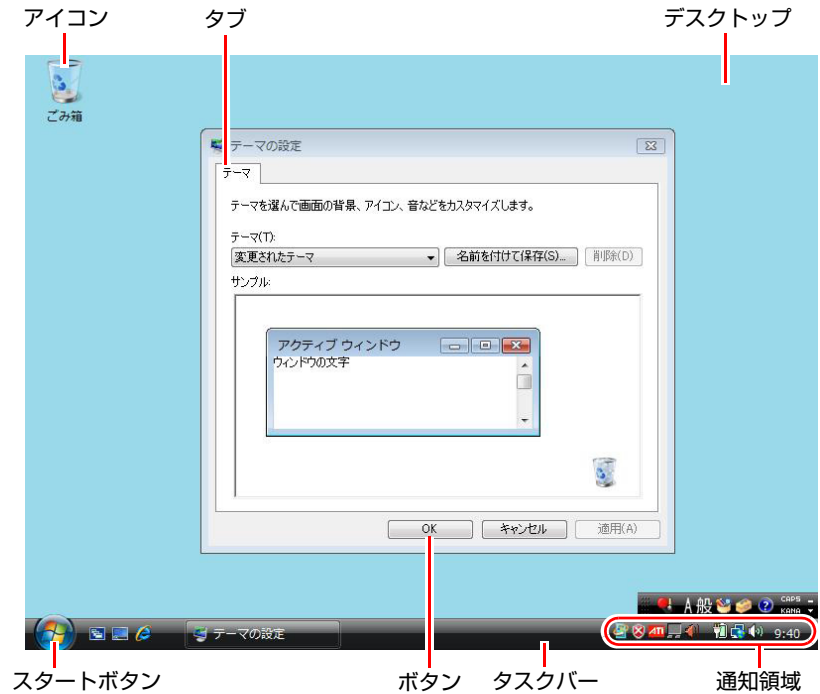
メモリ容量の記述

本書では、メモリ容量を1GB（ギガバイト）=1024MBとして記載しています。

Windowsの画面表示に関する記載方法

デスクトップ画面

本書では、Windowsの画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



ボタン

ボタンは [] で囲んで記載します。

例)  : [OK]

スタートメニュー

スタートメニューのボタン類は、次のように記載します。



画面操作

本書では、Windows Vistaの画面上で行う操作手順を次のように記載します。

● 記載例

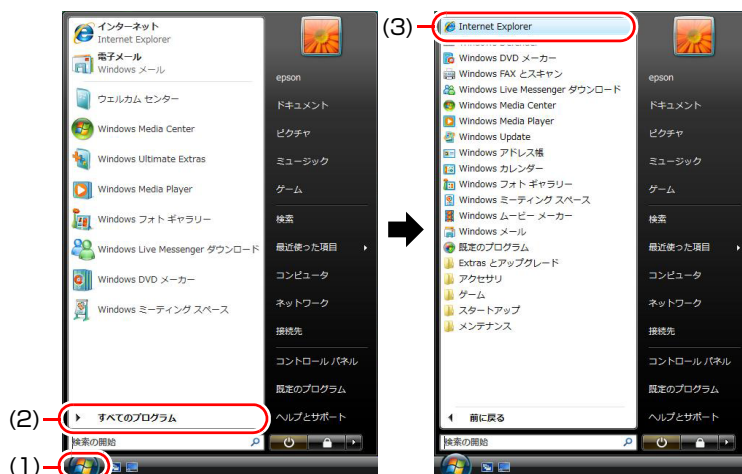
[スタート] – [すべてのプログラム] – [Internet Explorer] をクリックします。

● 実際の操作

(1) [スタート] をクリックします。

(2) 表示されたメニューから [すべてのプログラム] をクリックします。

(3) 表示されたメニューから [Internet Explorer] をクリックします。



※表示される項目は、システム構成によって異なります。

本製品の仕様とカスタマイズ

本製品は、ご購入時にお客様が選択されたオプションによって、仕様がカスタマイズされています。CPUの種類・メモリ容量・光ディスクドライブなど、選択した仕様に合わせて、お客様オリジナルのコンピュータとして組み立て、納品されています。

本書で記載しているコンピュータの製品仕様

本書では特に記載がない限り、下記の製品仕様で説明を行っています。お客様が購入された製品の仕様が下記と異なる場合、それらの使用方法やドライバのインストール方法などは、購入時に選択された各装置に添付のマニュアルを参照してください。

メモリ	: 1枚
HDD	: 1台 (シリアルATA)
FDD/マルチカードリーダー	: なし
光ディスクドライブ	: 1台 (シリアルATA)
ディスプレイ機能	: マザーボードの機能を使用
ネットワーク機能	: マザーボードの機能を使用
サウンド機能	: マザーボードの機能を使用
FAXモデム機能	: なし
キーボード	: 109 USBキーボード
マウス	: ホイール付USBオプティカルマウス

仕様によって必要なマニュアル

本製品の操作に必要なマニュアルは、お客様が選択された仕様によって、『ユーザーズマニュアル』（本書）とは別に添付されている場合があります。お使いになる仕様によって必要となるマニュアルは、下記のとおり別冊や電子マニュアルなどの形式で添付されています。ご確認ください。

- 本製品に同梱されている別冊マニュアル
- CD-ROMなどに収録されている電子マニュアル（PDFファイルなど）
- コンピュータに収録されている電子マニュアル（「マニュアルびゅーわ」から閲覧）

第1章 使い始めるまでの準備

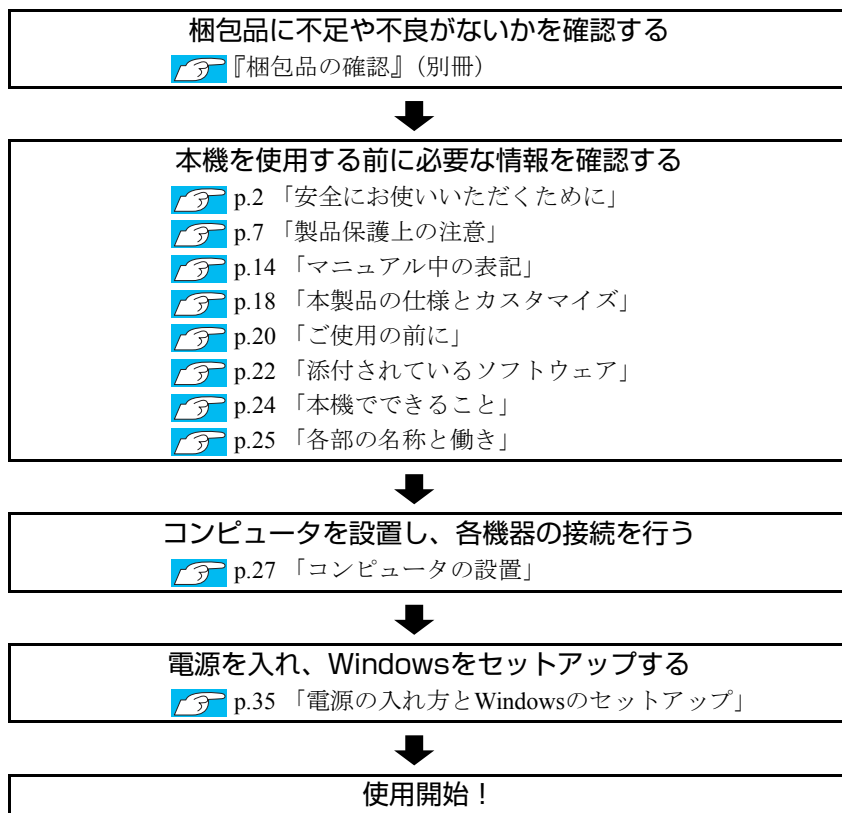
本機の接続方法、電源の入れ方や切り方、Windowsのセットアップについて説明します。

「ご使用前に」	20
「添付されているソフトウェア」	22
「本機でできること」	24
「各部の名称と働き」	25
「コンピュータの設置」	27
「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」	35
「Windows使用時の確認事項」	43
「本機の終了方法」	50

ご使用前に

▶本機を使い始めるまでの手順

購入後にはじめて本機を使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。



▶ご使用前の確認事項

貼付ラベルの確認

本機には、製品情報が記載された次のラベルが貼られています。本機をご使用前の前に、ラベルが貼られていることを確認してください。ラベルは絶対にはがさないでください。

- お問い合わせ情報シール

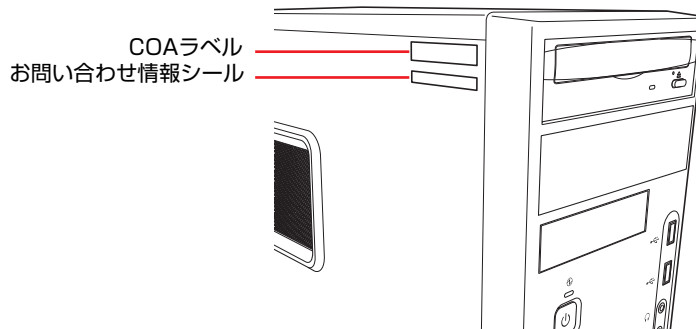
お問い合わせ情報シールには、型番や製造番号が記載されています。当社にサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

お問い合わせ情報シールに記載されている製造番号は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）の表紙に書き写しておいてください。

- COAラベル

COAラベル（Certificate of Authenticityラベル）は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。

万一、COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。



サポート・サービスのご案内

『サポート・サービスのご案内』には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。

困ったときや、万一の場合に備えてお読みいただくことをおすすめします。

添付されているソフトウェア

購入時、本機にインストールされているソフトウェアと、購入後、必要に応じてインストールするソフトウェアは次のとおりです。


本機にインストールされているソフトウェア


購入時、次のソフトウェアは、本機にインストールされています。

本機にインストールされているソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none">● Windows Vista 本機のオペレーティングシステム (OS) です。	 Windows VistaリカバリDVD
<ul style="list-style-type: none">● チップセットドライバ マザーボード上のデバイスを使用するためのドライバです。● Intel Matrix Storage Manager Windows 上でHDDの状態を確認するためのユーティリティです。● ビデオドライバ マザーボード上のディスプレイ機能を使用するためのドライバです。● サウンドドライバ マザーボード上のサウンド機能を使用するためのドライバです。	 ドライバCD
<ul style="list-style-type: none">● ネットワークドライバ ネットワーク機能 (有線LAN) を使用するためのドライバです。	
<ul style="list-style-type: none">● Java2 Runtime Environment Javaアプリケーションを実行するためのソフトウェアです。	
<ul style="list-style-type: none">● インフォメーションメニュー 本機に添付のマニュアルやサポートページを閲覧するためのユーティリティです。	
<ul style="list-style-type: none">● Adobe Reader PDF (Portable Document Format) 形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。	
<ul style="list-style-type: none">● Nero 8 Essentials (書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ) 光ディスクメディアに書き込みを行うためのソフトウェアです。	 Nero 8 Essentials CD-ROM
<ul style="list-style-type: none">● WinDVD DVD VIDEOを再生するためのソフトウェアです。DVD-ROMドライブを搭載している場合、購入時の選択によっては添付されていません。	 WinDVD CD-ROM
<ul style="list-style-type: none">● 109 USBキーボードユーティリティ (109 USBキーボード選択時のみ) 109 USBキーボードのホットキーを使用するためのユーティリティです。	 109 USBキーボードユーティリティ CD
<ul style="list-style-type: none">● マニュアルびゅうわ 本機に添付されている電子マニュアルを閲覧するためのツールです。マニュアルびゅうわのデータは、Cドライブの「お知らせ」フォルダにあり、Windowsを再インストールすると削除されます。Windowsを再インストールする際は、必ずバックアップを取ってください。	—

必要に応じてインストールするソフトウェア


購入時、次のソフトウェアは、本機にインストールされていません。Windowsのセットアップ後に必要に応じてインストールしてください。


 p.40 「初期設定ツール」

本機にインストールされていないソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none"> ● Norton Internet Security 90日版 ウイルス駆除機能、不正アクセス防止機能、フィッシング詐欺検出機能などを備えたセキュリティソフトウェアです。 	 ドライバCD
<ul style="list-style-type: none"> ● i-フィルター 5 30日版 インターネット上の有害な Web ページへのアクセスを防止する Web フィルタリングソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版 Webサイトの安全性評価を表示し、危険なサイトへのアクセスを防ぐ Web セーフティツールです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● JWord Plugin Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索するためのソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● gooスティック Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するためのソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● セキュリティチップユーティリティ セキュリティチップ (TPM) の設定を行うためのユーティリティです。 	

その他のソフトウェア

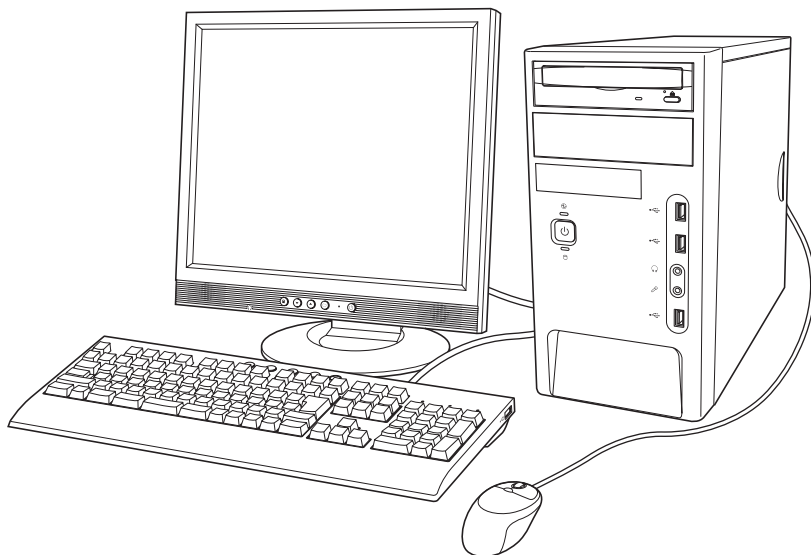
次のソフトウェアは、CDから起動して実行します。インストールは必要ありません。

 p.233 「システム診断ツールを使う」

その他のソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none"> ● システム診断ツール 本機の調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。HDD内のデータを消去することもできます。 	 ドライバCD

本機でできること

本機は内蔵装置の増設・交換が可能なタワー型コンピュータです。
本機では、次のようなことができます。



インターネットやメールを利用する

 p.97

光ディスクを再生する
光ディスクにデータを保存する
(オプション)

 p.79

ネットワークに接続する

 p.95

USB機器を使う

 p.86

音声の入力・出力をする

 p.91

RAID機能を使う

 p.71

装置 (メモリ・拡張ボード・ドライブ装置)
を増設・交換する

 p.119

省電力機能を使う

 p.110

パラレル接続の機器を使う

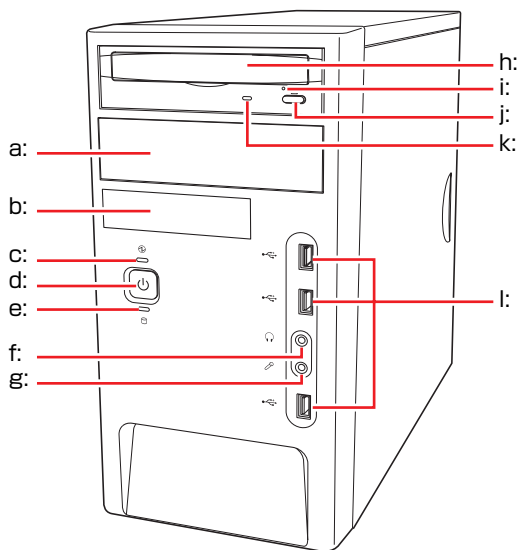
 p.117

シリアル接続の機器を使う

 p.117

各部の名称と働き

▶ 本体前面

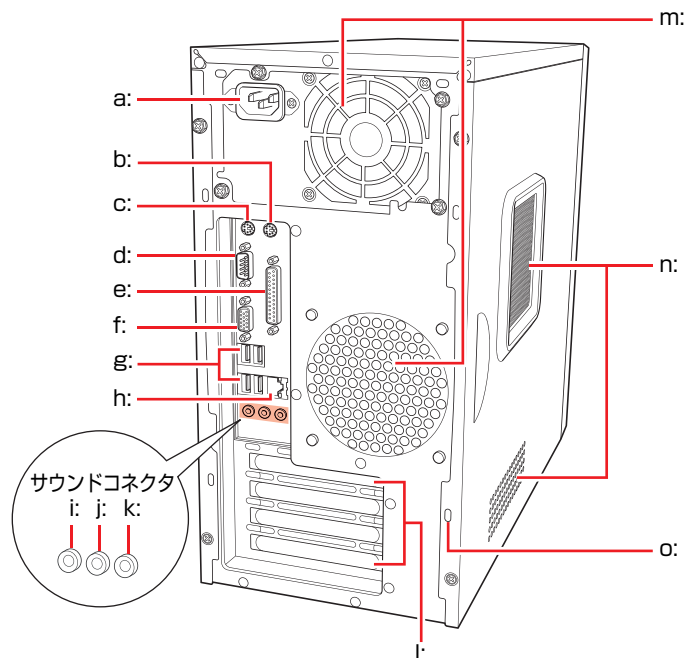












- a: 5.25型ドライブベイ
5.25型のドライブ装置を取り付けます。
- b: 3.5型ドライブベイ
3.5型のドライブ装置を取り付けます。
- c: 電源ランプ
電源を入れると緑色に点灯し、スリープ状態ではオレンジ色に点灯します (購入時の設定)。
- d: 電源スイッチ
本機の電源の入切を行います。
また、スリープ状態や休止状態からの復帰にも使用します。
- e: HDDアクセスランプ
HDDへのアクセス中に点灯・点滅します。
- f: ヘッドフォン出力コネクタ
スピーカーやヘッドフォンと接続して音声を出力します。
- g: マイク入力コネクタ
マイクと接続して音声を入力します。
- h: 光ディスクドライブ
光ディスクメディアの読み込みや書き込みなどを行います (光ディスクドライブにより使用できるメディアや機能は異なります)。
- i: 光ディスクドライブイジェクトホール
ディスクトレイが開閉しなくなったときに使用します。
- j: 光ディスクドライブイジェクトボタン
ディスクトレイの開閉を行います。
- k: 光ディスクドライブアクセスランプ
光ディスクメディアへのアクセス中に点灯・点滅します。
- l: USBコネクタ
USB対応機器を接続します。



アクセスランプが点灯・点滅しているときに本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。データが破損するおそれがあります。

▶ 本体背面



- a: 電源コネクタ**
添付の電源コードを接続して電気を供給します。
- b: マウスコネクタ** 
マウスを接続します。
- c: キーボードコネクタ** 
キーボードを接続します。
- d: シリアルコネクタ** 
モデムなど、RS-232Cインタフェースに対応した装置を接続します。
- e: パラレルコネクタ** 
プリンタやスキャナなど、パラレルコネクタに対応した装置を接続します。
- f: VGAコネクタ** 
アナログ方式のディスプレイとVGA（アナログ）ケーブルで接続します。
- g: USBコネクタ** 
USB対応機器を接続します。
- h: LANコネクタ** 
LANケーブルを接続します。
- i: マイク入力コネクタ** 
マイクと接続して音声を入力します。
- j: ライン出力コネクタ** 
フロントスピーカやヘッドフォンなどと接続して音声を出力します。
- k: ライン入力コネクタ** 
オーディオ機器と接続して音声を入力します。
- l: 拡張スロット**
拡張ボードを装着します。購入時のシステム構成によっては、あらかじめ拡張ボードが装着されています。
- m: 冷却ファン**
内部で発生する熱を逃したり、冷ましたりします。
- n: 通風孔**
外気を取り入れます。
- o: セキュリティロックスロット**
市販の盗難抑止用ケーブル（ワイヤー）を取り付けます。

コンピュータの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続して使用できる状態にする手順を説明します。

ここでの説明は、標準的なシステム構成で行っています。プリンタなどの周辺機器の接続は、Windowsのセットアップ完了後に、周辺機器に添付のマニュアルを参照して行ってください。




1

設置における注意



注意

- 不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置する際は、次の点を守ってください。
 - ・ 押し入れや本箱などの風通しの悪い所に設置しない。
 - ・ じゅうたんや布団の上に設置しない。
 - ・ 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、 p.7「製品保護上の注意」にある注意事項を守って設置場所を決めてください。

各種コード（ケーブル）接続時の注意



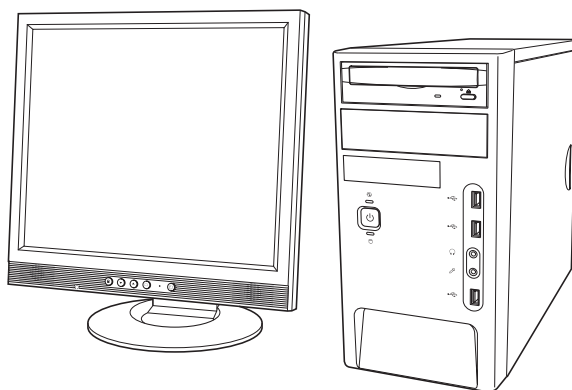
- めれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
 - ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
 - ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



- 各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。
- ヘッドフォンやスピーカを使用するときは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

設置する

- 1** 本機とディスプレイを設置場所（机などの丈夫で水平な台の上）に置きます。本機は横置きで使用できません。必ず縦置きでお使いください。設置した際に通風孔をふさがないようにしてください。



ディスプレイを接続する

ディスプレイ側の接続方法や注意事項などの詳細は、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

2 ディ스플레이のVGAケーブルを、本機背面のVGAコネクタ（青色）に接続します。

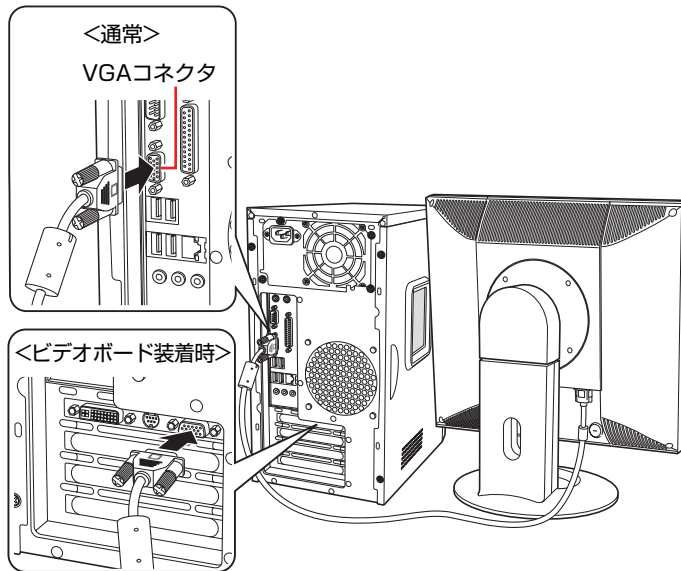
<ビデオボード装着時>

ディスプレイのケーブルをビデオボードのコネクタに接続します。ビデオボードのコネクタは、選択されたビデオボードにより異なります。ビデオボード側の接続方法や注意事項などの詳細は、ビデオボードに添付のマニュアルをご覧ください。

アナログ接続の場合：VGAケーブルをVGAコネクタに接続

デジタル接続の場合：DVI-DまたはDVI-IケーブルをDVI-DまたはDVI-Iコネクタに接続

ディスプレイがデジタル/アナログ両用の場合は、デジタル接続で使用します。



キーボードを接続する


ここでは一般的な接続方法を説明しています。お使いになるキーボードにマニュアルが添付されている場合は、そちらをご覧ください。

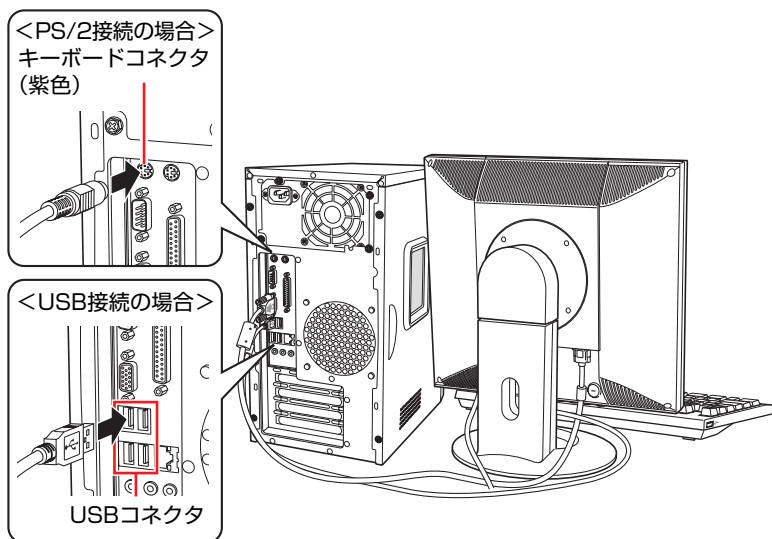
3 キーボードを接続します。

<PS/2接続の場合>

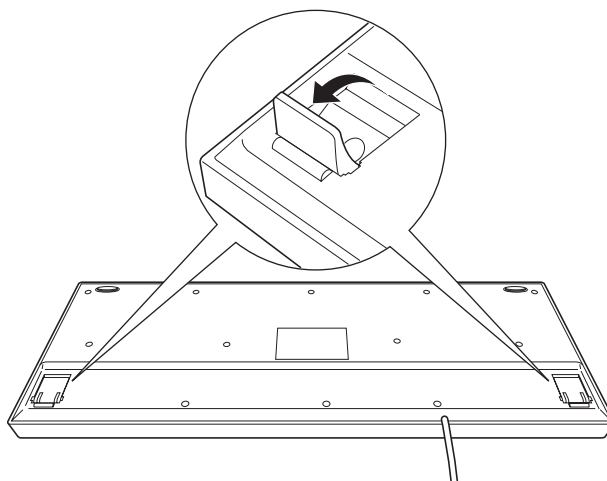
キーボードケーブルのコネクタを本機背面のキーボードコネクタ（紫色）に接続します。

<USB接続の場合>

キーボードケーブルのコネクタを本機背面のUSBコネクタ（)に接続します。4つのUSBコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用しても構いません。



キーボードは操作しやすい位置に置き、傾斜させるときはキーボード底面の両端の脚を起こします。



マウスを接続する


ここでは一般的な接続方法を説明しています。お使いになるマウスにマニュアルが添付されている場合は、そちらをご覧ください。

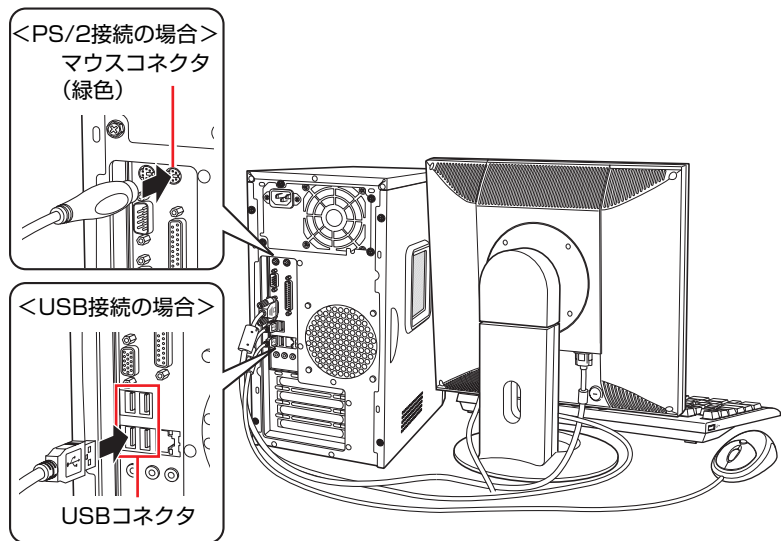
4 マウスを接続します。

<PS/2接続の場合>


マウスケーブルのコネクタを本機背面のマウスコネクタ（緑色）に接続します。

<USB接続の場合>

マウスケーブルのコネクタを本体背面のUSBコネクタ（)に接続します。



マウスを左利き用で使う場合は、Windowsのセットアップ後にマウスを左利き用に設定します。

 p.62 「マウスの設定変更」

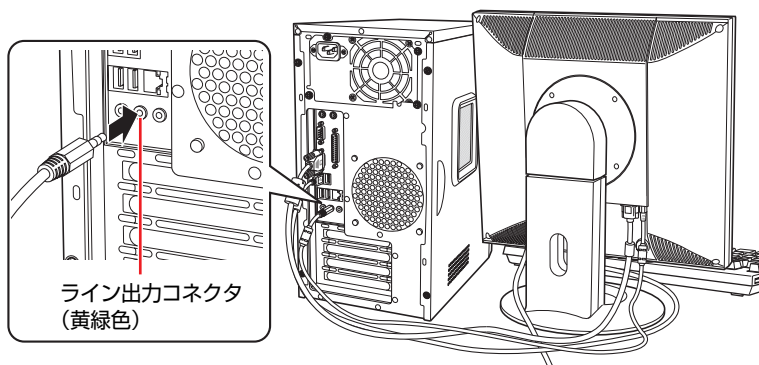
スピーカを接続する

本機にスピーカは内蔵されていません。音声を出力したい場合は、スピーカやスピーカが搭載されているディスプレイなどを接続してください。

ここでは一般的な接続方法を説明します。

詳しくはディスプレイやスピーカに添付のマニュアルをご覧ください。

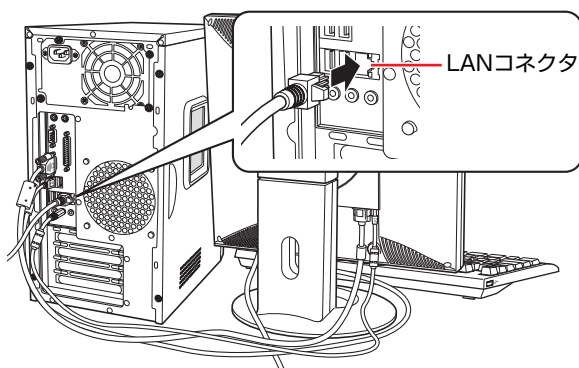
- 5 ディスプレイやスピーカのオーディオケーブルを本機背面のライン出力コネクタに接続します。



ネットワークへ接続する

- 6 ネットワーク機能を使用する場合は、市販のLANケーブルを本体背面のLANコネクタ (LAN) に接続します。

インターネットへの接続作業はWindowsのセットアップ後に行います。接続方法は、通信サービス会社やプロバイダから提供されたマニュアルをご覧ください。



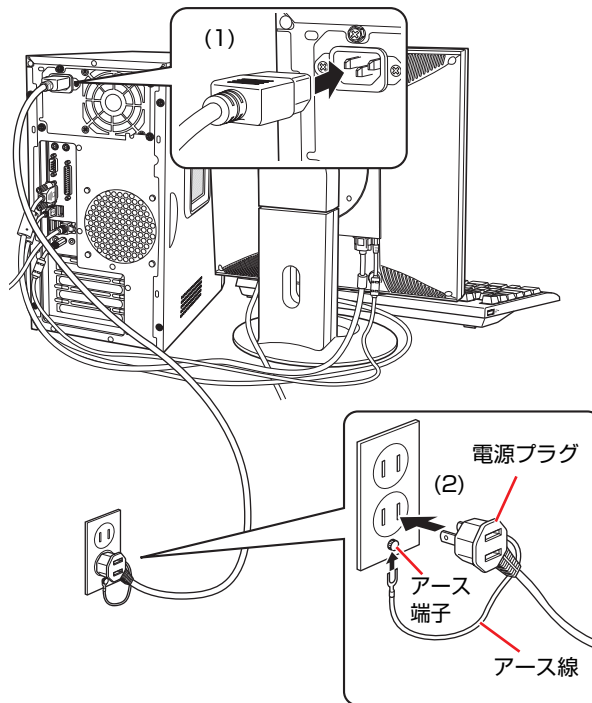
電源コードを接続する

7 電源コードを接続します。

(1) 電源コードを本機背面の電源コネクタに接続します。

(2) 電源プラグを家庭用電源コンセントに接続します。

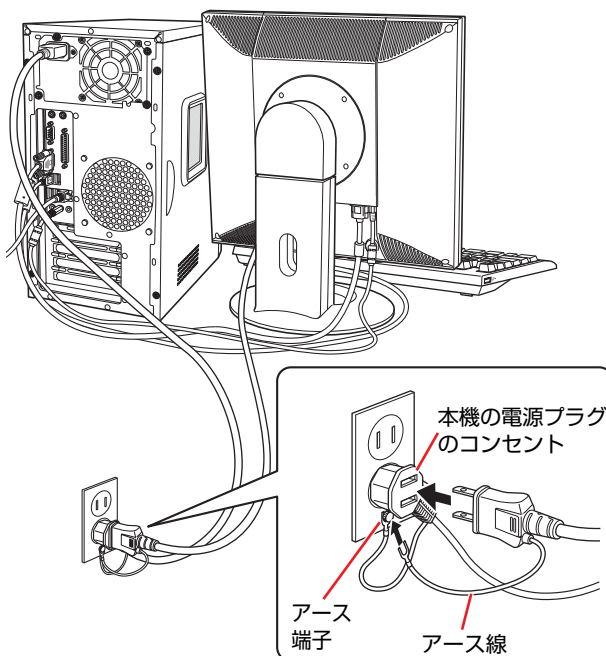
アース線は、必ずコンセントのアース端子に接続してください。



- 8** ディスプレイの電源プラグを、手順7で接続した本機の電源プラグのコンセントに接続します。



本機の電源プラグのコンセント（定格 8A）には、コンピュータ用ディスプレイ以外の機器を接続しないでください。
発熱し、火災の危険があります。



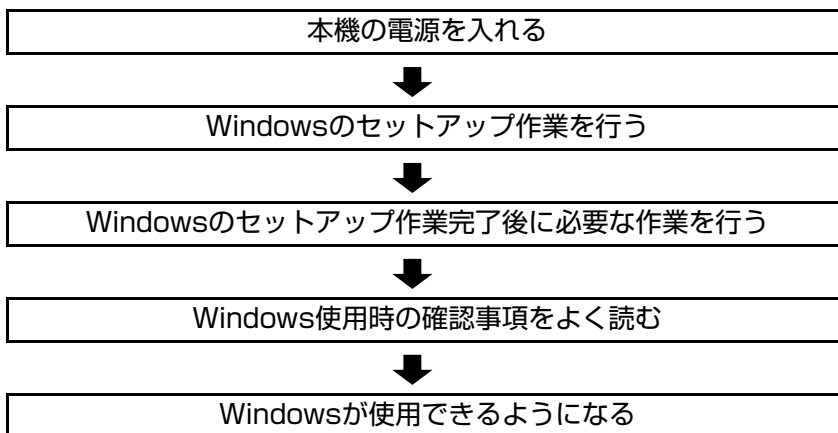
これでコンピュータの設置は完了です。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

ここでは、本機にはじめて電源を入れて、Windowsを使用できる状態にするまでの作業について説明します。

▶Windowsが使用できるようになるまでの作業

作業の流れは、次のとおりです。



▶電源を入れる前に

Windowsのセットアップとは

「Windowsのセットアップ」は、コンピュータが届いてから、はじめて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って、セットアップを簡単に行うことができます。

マウスの使い方

Windowsのセットアップは、マウスを使用して行います。セットアップに必要なマウスの基本操作は、次のとおりです。

- マウスポインタを動かす

マウスを前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているマウスポインタもマウスを動かした方向に動きます。

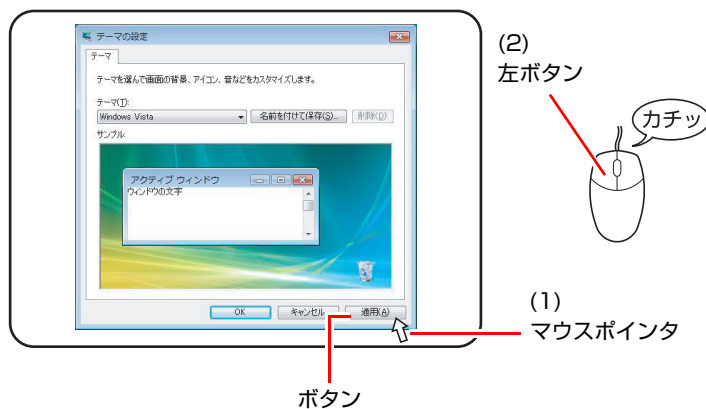


- ボタンをクリックする

- (1) マウスを動かして、マウスポインタを画面のボタンの上に重ねます。
- (2) マウスの左ボタンを、1回「カチッ」と押して離します。

この動作を「クリック」と言います。

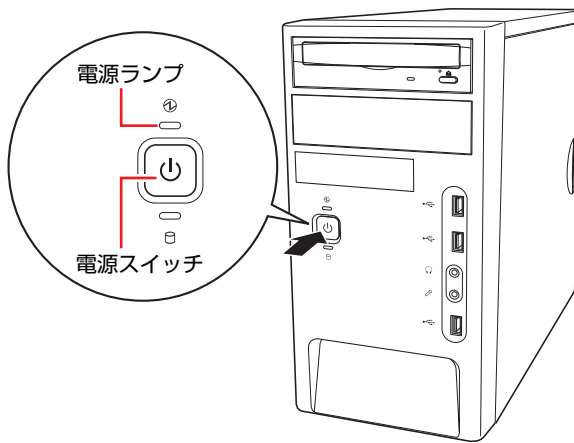
画面のボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。



▶電源の入れ方とWindowsの起動


本機の電源の入れ方は、次のとおりです。

- 1** ディスプレイやスピーカなどの電源を入れます。
- 2** 本機の電源スイッチ (⏻) を押して、本機の電源を入れます。
電源ランプ (①) が点灯します。
電源を入れたときに電源ランプが点灯しない場合は、電源コードが正しく接続されているか確認してください。



- 3** 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、しばらくするとWindowsが起動します。
画面に何も表示されない場合は、ディスプレイが正しく接続されているか、ディスプレイの電源が入っているか確認してください。

続いて、Windowsのセットアップを行います。

 p.38 「Windowsのセットアップ」

▶Windowsのセットアップ

電源を入れたあと、しばらくすると自動的に「Windowsセットアップ」が実行されます。画面の指示に従ってセットアップを行ってください。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。

Windowsのセットアップ

次のように表示されていることを確認し、[次へ] をクリックします。

国または地域：日本

時刻と通貨の形式：日本語（日本）

キーボードレイアウト：Microsoft IME



ライセンス条項をお読みになってください

画面に表示された条項を確認し、「ライセンス条項に同意します」にチェックを付けて、[次へ] をクリックします。



ユーザー名と画像の選択

ユーザー名、パスワードを入力し、画像を選択したら、[次へ] をクリックします。

※「パスワード」は必要に応じて入力してください。

パスワードを設定すると、設定したユーザー名（アカウント）でログオン時にパスワードの入力が要求されます。パスワードを設定した場合は、絶対に忘れないようにしてください。



コンピュータ名を入力してデスクトップの背景を選択してください

コンピュータ名を入力し、背景を選択したら、[次へ] をクリックします。

※「コンピュータ名」は、本機をネットワーク（家庭内LANや社内LAN）に接続して使用する場合などに必要です。

- ネットワークに接続しない場合は、セットアップ時にコンピュータ名を変更する必要はありません。
- ネットワークに接続する場合は、ネットワーク上にあるほかのコンピュータ名と重複しないように、コンピュータ名を変更してください。




Windowsを自動的に保護するよう設定してください

保護の設定をクリックして選択します。

「推奨設定を使用します」を選択することをおすすめします。

※「推奨設定を使用します」を選択すると、Windows Updateが自動で行われるようになります。

 p.102 「Windows Update」



時刻と日付の設定の確認

「タイムゾーン」が「大阪、札幌、東京」になっていることを確認し、「日付」、「時刻」を設定して、「次へ」をクリックします。



お使いのコンピュータの現在の場所を選択してください

ネットワークに接続している場合、表示されます。使用する場所を選択します。



ありがとうございます

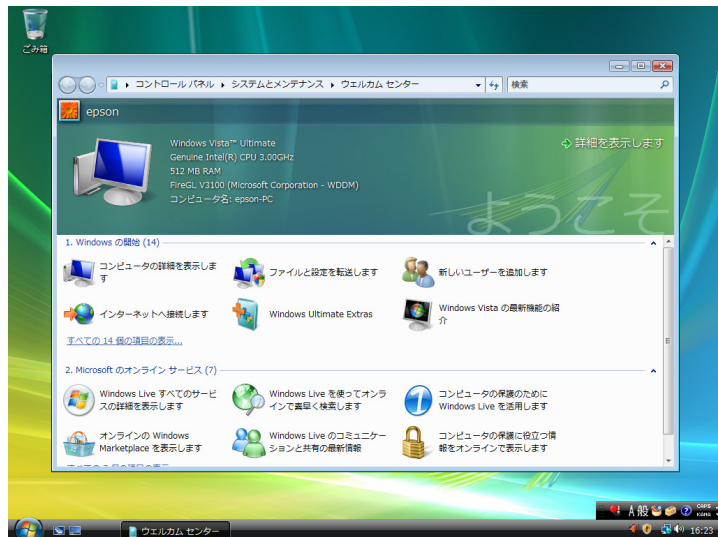
[開始] をクリックします。デスクトップ画面が表示されるまで、約5分かかります。



デスクトップ画面の表示

Windowsのデスクトップ画面が表示されます。


※パスワードを設定した場合は、パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力すると、デスクトップ画面が表示されます。



<壁紙は予告なく変更する場合があります>

これでWindowsのセットアップは完了です。

続いて、初期設定ツールでソフトウェアのインストールなどを行います。

 p.40 「初期設定ツール」



ライセンス認証

購入時に本機にインストールされているWindowsや、「WindowsリカバリDVD」から再インストールを行ったWindowsは、ライセンス認証を行う必要はありません。

▶初期設定ツール


Windowsのセットアップが完了すると、「初期設定ツール」が自動的に起動します。初期設定ツールは、本機を使用する前に必要な設定を行ったり、ソフトウェアをインストールしたりするためのツールです。画面の指示に従って設定を行ってください。



<イメージ>

「有害サイト対策」画面

「有害サイト対策」画面では、本機に標準添付の「i-フィルター 30日版」をインストールします。「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行]をクリックします。次回Windowsを起動したときに「i-フィルター・・・」画面が表示されたら、ユーザー登録を行ってください。

 p.197 「i-フィルター 30日版のユーザー登録」


i-フィルター 30日版の使用方法は、 p.107 「i-フィルター 30日版を使う」をご覧ください。

本機購入時に、Webフィルタリングソフトウェアの製品版（オプション）を購入された場合は、画面の指示に従って製品版をインストールしてください。

「セキュリティ設定」画面

「セキュリティ設定」画面では、次のソフトウェアをインストールします。


● Norton Internet Security 90日版


本機に標準添付の「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。Norton Internet Security 90日版の使用方法は、 『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。

本機購入時に、セキュリティソフトウェアの製品版（オプション）を購入された場合は、画面の指示に従って製品版をインストールしてください。

- マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版

本機に標準添付の「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版」をインストールします。マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版を使用するには、インストール完了後にユーザー登録を行う必要があります。

 p.201 「ユーザー登録」


「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版」の使用方法は、 p.101 「Internet Explorerの便利な追加機能」をご覧ください。

「お薦めソフトウェア」画面


「お薦めソフトウェア」画面では、必要に応じて次のソフトウェアをインストールします。

- JWord

本機に標準添付の「JWord」をインストールします。JWordの使用方法は

 p.101 「Internet Explorerの便利な追加機能」をご覧ください。

- gooスティック

本機に標準添付の「gooスティック」をインストールします。gooスティックの使用方法は  p.101 「Internet Explorerの便利な追加機能」をご覧ください。



初期設定ツールの起動方法

初期設定ツールが自動的に起動しない場合や、初期設定ツールを再実行したい場合などは、次の方法で起動することができます。


【スタート】 - 「すべてのプログラム」 - 「初期設定ツール」

▶セットアップ完了後の作業

Windows のセットアップと初期設定ツールの作業が完了したら、次の作業を行います。


ネットワークに接続する

ネットワーク機能（有線LAN）を使用する場合は、ネットワークに関する情報が必要です。お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

 p.95 「ネットワーク機能を使う」

マニュアルびゅうわのバックアップ

「マニュアルびゅうわ」とは、本機に添付されているマニュアルやお知らせをコンピュータ上で見ることができるソフトウェアです。「マニュアルびゅうわ」は、インフォメーションメニューから起動することができます。

 p.44 「インフォメーションメニューを使う」

「マニュアルびゅうわ」は、Windowsを再インストールすると消去されます。あらかじめバックアップを行ってください。

 p.244 「マニュアルびゅうわのバックアップ」

そのほかの設定

購入時にFAXモデムボードなどを選択している場合は、設定や接続を行います。詳しくは各機器に添付のマニュアルをご覧ください。

Windows使用時の確認事項


「セットアップ完了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用の前に次の事項を確認してください。

▶ Windows Vistaの使用方法

Windows Vistaの使用方法は、次をご覧ください。

● ヘルプとサポート


「ヘルプとサポート」は次の場所から開きます。

[スタート] () - 「ヘルプとサポート」



● PCお役立ち情報

「PCお役立ち情報」は「インフォメーションメニュー」から開きます。

 p.44 「インフォメーションメニューを使う」



▶音量の調節

スピーカを接続していて、Windows起動時に音が鳴らなかったり、音が小さすぎたり、大きすぎたりする場合には、音量を調節します。


 p.93 「音量の調節」


▶インフォメーションメニューを使う

本機には、本機に添付されているマニュアルを見たり、サポートページに簡単にリンクしたりすることができる「インフォメーションメニュー」が搭載されています。

起動方法

インフォメーションメニューの起動方法は、次のとおりです。

- キーボードのインフォメーションボタン  を押す

 p.56 「キーボードを使う」

- デスクトップ上の「インフォメーションメニュー」アイコンをダブルクリックする



- スタートメニューから起動する

「インフォメーションメニュー」が起動すると次の画面が表示されます。



 参考**マニュアルびゅーわをご使用の前に**

はじめて「マニュアルびゅーわ」からPDFマニュアルを起動する場合に、「使用許諾契約書」画面が表示されたときは、「同意する」をクリックしてください。


インフォメーションメニューの項目

インフォメーションメニューの各項目の内容は、次のとおりです。

● マニュアルびゅーわ

本機に添付されている電子マニュアルを閲覧するためのツールです。ユーザーズマニュアル（本書）のHTMLマニュアルや光ディスクドライブのPDFマニュアル、「Nero 8 Essentials」などのソフトウェアに添付されているマニュアルを見ることができます。

「マニュアルびゅーわ」はWindowsを再インストールすると削除されてしまいます。Windowsの再インストールをする際は、必ず「マニュアルびゅーわ」のバックアップを行ってください。

 p.244 「マニュアルびゅーわのバックアップ」

 参考**「警告」が表示された場合は**

電子マニュアルを閲覧しようとする、情報バーと呼ばれるInternet Explorerのアドレスバーの下方に「セキュリティ保護のため、このコンピュータにアクセスする可能性のあるスクリプトやActiveXコントロールを実行しないよう・・・」と警告が表示される場合があります。

この場合は、情報バーをクリックし、「ブロックされているコンテンツを許可」をクリックしてください。

● PCお役立ち情報

コンピュータに関する便利で役立つ情報や用語集を掲載しています。マニュアルとあわせてご覧になり、コンピュータを使用する際の参考にしてください。

● とらぶる解決ナビ

技術的な情報やトラブルの解決方法を収録しています。本機の調子が悪い場合に、本書の「困ったときに」とあわせてご覧ください。

 p.206 「トラブルが発生したら」

- ユーザーサポート

技術的な情報やトラブルの解決方法、保証サービスなどについてご案内しています。マニュアルやドライバ、BIOSの最新バージョンもダウンロードできます。



p.245 「電子マニュアルのダウンロード」

「ユーザーサポートページ」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。

- サポート情報検索

「とらぶる解決ナビ」に収録されていない最新のサポート情報を掲載しています。とらぶる解決ナビで本機の不具合が解決できなかった場合にご覧ください。

「サポート情報検索」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。

- トラブルが解決しなかったら

技術的なご質問や修理依頼などの問い合わせ先を掲載しています。マニュアルや当社のユーザーサポートページを参照しても、トラブルが解決しない場合にご覧ください。

▶ Windowsの修復

本機のHDDには「Windows回復環境」が設定されています。これは、「Windowsが起動できない」などの不具合を修復する機能です。

Windowsが起動できないときなどに実行してみてください。



p.236 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」

▶ 復元ポイントを作成する

Windowsの「システムの復元」機能で「復元ポイント」を作成しておくことで、本機の動作が不安定になった場合、システムの復元機能を使用して、作成しておいた復元ポイントまでシステムの状態を戻すことができます。

復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。



p.235 「復元ポイントを手動で作成する」

▶ セキュリティ対策を行う

本機には、外部と接続することで高まる危険から、本機を守るためのセキュリティ機能が搭載されています。


インターネットに接続する場合は、セキュリティ対策を行ってください。



p.102 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」

▶画面表示が消えたときは（省電力機能）

本機は、一定時間マウスやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えるように設定されています。画面表示が消えて、本機の電源ランプがオレンジ色に点灯している場合は、スリープ状態になっています（購入時の設定）。この場合は、電源スイッチを押すと元に戻ります。

 p.116 「省電力状態からの復帰方法」

▶コントロールパネルの表示

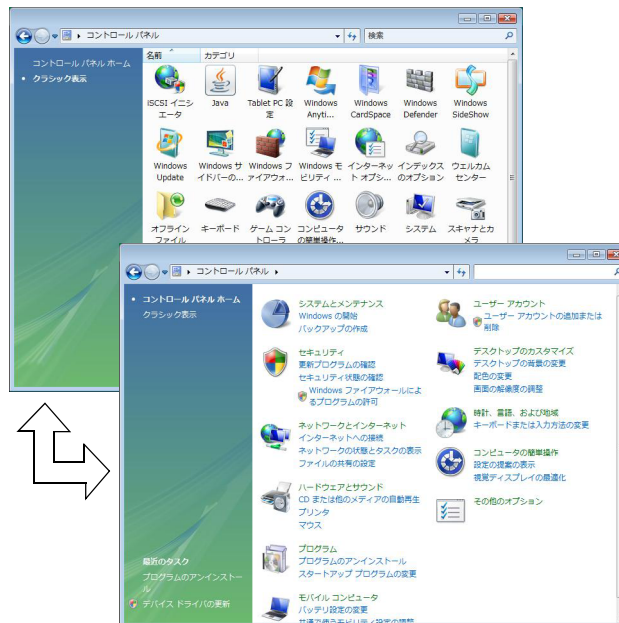
コントロールパネルの表示には、次の2種類があります。

- カテゴリーの表示（コントロールパネルホーム）
項目をカテゴリごとにまとめて表示します（初期設定）。
- クラシック表示
項目をすべて表示します。

表示の切り替えは、画面左側にある、「クラシック表示」、「コントロールパネルホーム」をクリックして行います。

本書では、「カテゴリーの表示」形式を前提に記載しています。

<クラシック表示>



<カテゴリーの表示>

▶フォルダメニューの表示

Windows Vistaでは、「ファイル」や「ツール」などのフォルダメニューが標準では表示されません。

フォルダメニューを表示したい場合は、**[Alt]**を押します。もう一度**[Alt]**を押すと、フォルダメニューは表示されなくなります。



常にフォルダメニューを表示する

常にフォルダメニューを表示したい場合は、次の設定を行ってください。

- 1 【スタート】 - 【コントロールパネル】 - 【デスクトップのカスタマイズ】 - 【フォルダオプション】 - 【表示】タブ - 【常にメニューを表示する】にチェックを付けます。

▶ユーザーアカウントを作る

本機を何人かで共同で使用する場合は、ユーザーアカウントを作成します。ユーザーアカウントをいくつか作成すると、Windowsをユーザーごとに切り替えて、各ユーザーの構成で本機を使用することができます。

ユーザーアカウントの作成

ユーザーアカウントの作成は、次の場所で行います。

- 【スタート】 - 【コントロールパネル】 - 【ユーザーアカウント（と家族のための安全設定）】 - 【ユーザーアカウント】 - 【別のアカウントの管理】 - 【新しいアカウントの作成】

ユーザーアカウントの種類（権限）は、ユーザーに応じて設定してください。

ユーザーアカウントの種類

ユーザーアカウントの種類（権限）には、次の2つがあります。

- 管理者


すべてのシステム項目にアクセスし、設定を変更したり、ドライバ、ソフトウェアのインストールをすることができます。

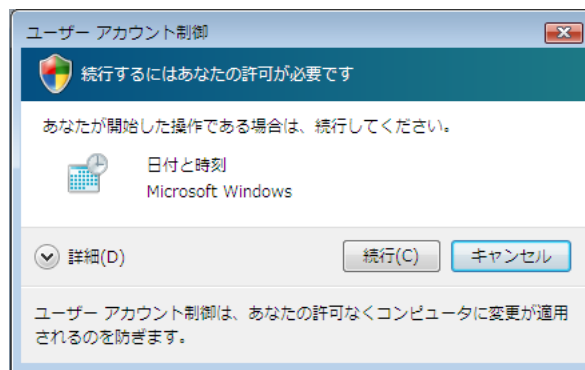
購入時やリカバリ時のWindowsのセットアップで入力したユーザー名（アカウント）は、「管理者」になります。

- 標準ユーザー

一部のシステム項目の変更や、ドライバ、ソフトウェアのインストールは行うことができません。管理者のパスワードを入力すれば、変更やインストールが可能になります。

▶ユーザーアカウント制御画面

コントロールパネルなどで  が表示されているシステム項目にアクセスしようとしたら、ドライバやソフトウェアのインストールをしようすると、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。これは、項目にアクセス制限がかけられているためです。




表示される「ユーザーアカウント制御」画面は、ユーザーアカウント（管理者または標準ユーザー）により異なります。本書の手順は、管理者アカウントでログオンした状態を前提に記載しています。

本機の終了方法


ここでは、本機の終了方法や再起動方法について説明します。
本機の終了方法には次の2つがあります。

● 通常の終了（スリープ）

通常は、本機を「スリープ状態」にして終了します。


 p.51 「通常の終了（スリープ）」

スリープ状態にすると、作業内容がメモリとHDDに保存され、画面表示が消えて本機は低電力の状態になります。スリープ状態からは、数秒で通常の状態に復帰することができます。

スリープ状態についての詳しい説明は、 p.112 「省電力状態の種類」をご覧ください。

● 電源を切る（シャットダウン）

次のような場合は、本機の電源を切って終了します。

 p.52 「電源を切る（シャットダウン）」

- 完全に電源を切りたいとき
- 数日使用しないとき
- 周辺機器の取り付け、取り外しをするとき



Windowsをロックする

一時的に席を外す場合は、[スタート] – [🔒] をクリックしてWindowsをロックしておくと、コンピュータを他人に操作されるのを防ぐことができます。

ロックをするには、事前にパスワードの設定が必要です。

ロックについての詳しい説明は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」– 「PCお役立ち情報」– 「コンピュータの基本操作」

▶通常の終了（スリープ）

本機をスリープ状態にして終了する方法、スリープ状態から復帰させる方法について説明します。

終了方法

本機をスリープ状態にして終了する方法は、次のとおりです。


1 [スタート] () - [⏻] をクリックします。

本機が「スリープ状態」になります。画面表示が消え、電源ランプがオレンジ色に点灯します。



ほかの方法でスリープ状態にする

次の方法でも、本機をスリープ状態にすることができます。

- [スタート] - [▶] - 「スリープ」をクリックする
- キーボードのスリープボタン () を押す

復帰方法

本機をスリープ状態から復帰させる方法は、次のとおりです。



復帰の際、周辺機器はスリープ状態に入る前と同じ状態にしてください。スリープ中に周辺機器を取り外すなどして状態が異なると、正常に復帰できない場合があります。

1 電源スイッチ () を押します。

本機が通常状態に復帰します。

▶電源を切る（シャットダウン）

本機の電源の切り方、入れ方について説明します。

電源の切り方

本機の電源を切る（シャットダウンする）方法は、次のとおりです。



- 電源を切って、もう一度入れる場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電氣的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を空けてください。
- HDDなどのアクセスランプ点灯中に本機の電源を切ると、収録されているデータが破損するおそれがあります。
- 本機は、電源を切っても、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。

- 1** [スタート] - [▶] - 「シャットダウン」をクリックします。
Windowsが終了し、自動的に本機の電源が切れます。
- 2** ディスプレイなど、接続している周辺機器の電源を切ります。



[⏻] をクリックしたときシャットダウンするように設定する
[スタート] - [⏻] をクリックしたときシャットダウンするようにボタンの機能を変更することができます。
設定は次の場所で行います。
[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとメンテナンス」 - 「電源オプション」 - 「プラン設定の変更」 - 「詳細な電源設定の変更」 - 「電源ボタンとLID」 - 「[スタート] メニューの電源ボタンの操作」

シャットダウン時の注意

Windowsを複数のユーザーが使用している状態で電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は [いいえ] をクリックし、ログオンしているすべてのユーザーの画面に切り替えて、それぞれログオフを行ってからシャットダウンをしてください。

電源の入れ方

シャットダウン状態から本機の電源を入れる方法は、次のとおりです。



- 周辺機器の電源をいつ入れるかは、周辺機器に添付のマニュアルで確認してください。電源を入れるタイミングがコンピュータより先か後かは、周辺機器により決まっています。
- USBフラッシュメモリやUSB HDDなどを接続していたり、USB FDDにFDがセットされている状態で本機の電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。USB記憶装置は、Windows起動後に接続してください。
- 電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。電気回路に与える電氣的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

1 電源スイッチ (⏻) を押します。

本機の電源が入り、Windowsが起動します。

▶再起動

電源が入っている状態で、本機を起動しなおすことを「再起動」といいます。

再起動方法

本機の再起動方法は、次のとおりです。

1 [スタート] - [▶] - 「再起動」をクリックします。

次のような場合には、本機を再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windowsの動作が不安定になった場合

再起動しても状態が改善されない場合は、本機の電源を切り、しばらくしてから電源を入れてみてください。

▶ハングアップしたときは

ソフトウェアやWindowsがキーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態を「ハングアップ」といいます。

ハングアップした場合は、ソフトウェアの強制終了を行います。ソフトウェアの強制終了をしても状態が改善されない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

ソフトウェアの強制終了

ソフトウェアの強制終了方法は、次のとおりです。

- 1** **Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押します。
- 2** 表示された項目から「タスクマネージャの起動」をクリックします。
「Windowsタスクマネージャ」が起動します。
- 3** 「アプリケーション」タブからハングアップしているソフトウェアを選択して「タスクの終了」をクリックします。
- 4** 「プログラムの終了」画面が表示されたら、「すぐに終了」をクリックします。

強制的に電源を切る

Ctrl + **Alt** + **Delete** を押しても反応がない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

強制的に電源を切る方法は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源スイッチ (⏻) を5秒以上押し続けます。
本機の電源が切れます。

第2章 コンピュータの基本操作

キーボードやマウス、光ディスクドライブの使い方など、本機の基本
的な操作方法について説明します。

「キーボードを使う」	56
「マウスを使う」	62
「FDD・マルチカードリーダーを使う（オプション）」	63
「HDDを使う」	67
「RAID機能」	71
「光ディスクドライブを使う」	79
「USB機器を使う」	86
「画面表示機能を使う」	88
「サウンド機能を使う」	91
「ネットワーク機能を使う」	95
「インターネットに接続するには」	97
「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」	102
「電源設定を行う（省電力機能を使う）」	110
「そのほかの機能」	117

キーボードを使う

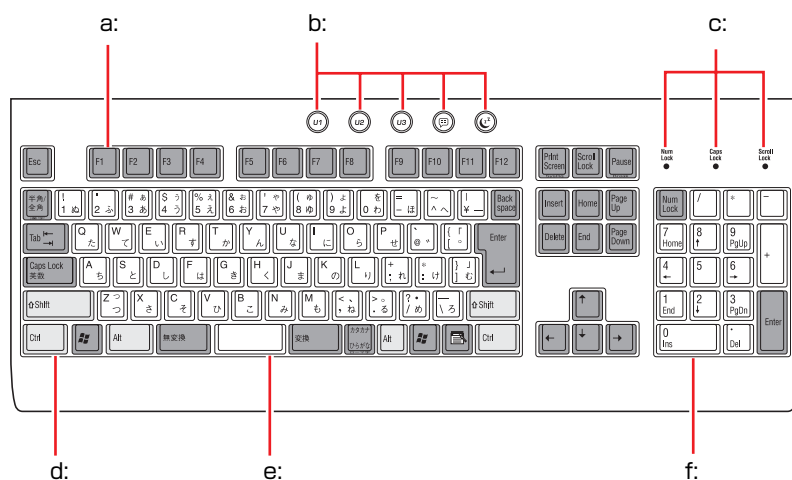
ここでは日本語対応109 USBキーボードについて説明します。キーボードの接続方法は、[p.27](#) 「コンピュータの設置」をご覧ください。

購入時にこのほかのキーボードを選択し、キーボードにマニュアルが添付されている場合は、本書とあわせてご確認ください。

▶キーの種類と役割

109個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。

入力キー



a: 機能キー

文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。機能キーの役割はソフトウェアによって異なります。

b: ホットキー

[p.59](#) 「ホットキーを使用する」

c: キーロック表示ランプ

[p.58](#) 「キーロック表示ランプ」

d: 制御キー


文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

e: 文字キー

英数字、記号の入力や日本語入力システムを利用して漢字やひらがななどの日本語を入力します。

f: 数値キー

数字、演算子などを入力します。


 の状態によりキーの機能が変わります。

▶文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字された文字が入力されます。入力モードによって、入力される文字は異なります。

直接入力モード		キートップのアルファベットをそのまま入力します。
日本語入力モード	ローマ字入力	キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
	かな入力	キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やカタカナに変換します。

入力モードの切り替え

 を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。

日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

▶日本語を入力するには

ひらがなや漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。本機には日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方

MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは、次のとおりです。ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。



a: 入力モード

入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。

b: ヘルプ

MS-IMEの詳しい説明を見ることができます。

c: かなキーロック

日本語入力モードの切り替えを行います。








ボタンが押されていない状態：ローマ字入力

ボタンが押されている状態：かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

▶キーロック表示ランプ

キーボード右上の3つのランプは、キーボードの入力状態を表示しています。


Num Lock	役割	数値キーの状態を切り替え
	切り替え	 を押します。
	点灯時	数値を入力
	消灯時	カーソルの位置を制御 数値キーの    などが使えます。
Caps Lock	役割	アルファベットの大文字/小文字の切り替え
	切り替え	 +  を押します。
	点灯時	大文字を入力
	消灯時	小文字を入力
Scroll Lock	役割	ソフトウェアによって異なります。
	切り替え	 を押します。

▶ホットキーを使用する


109 USBキーボードには、3種類のホットキーが搭載されています。


- Uボタン   

Uボタンには、お好きな機能を割り当てることができます。


 p.59 「Uボタンの設定」


Uボタンは、キーボードユーティリティが起動していないと使用できません。

 p.61 「キーボードユーティリティの起動」


- インフォメーションボタン 

押すと、インフォメーションメニューが開きます。

 p.44 「インフォメーションメニューを使う」

- スリープボタン 

押すと、本機がスリープ状態になります。

 p.111 「本機を省電力状態にする」

Uボタンの設定


Uボタンに機能を割り当てる方法は次のとおりです。

ここでは、U1ボタンに機能を割り当てる方法を説明します。U2、U3ボタンの場合も、割り当て方法は同様です。

- 1 画面右下の通知領域に表示されている「Hotkey Setup」アイコンを右クリックします。



<Hotkey Setupアイコン>

「Hotkey Setup」アイコンが表示されていない場合は、 p.61 「キーボードユーティリティの起動」をご覧ください。

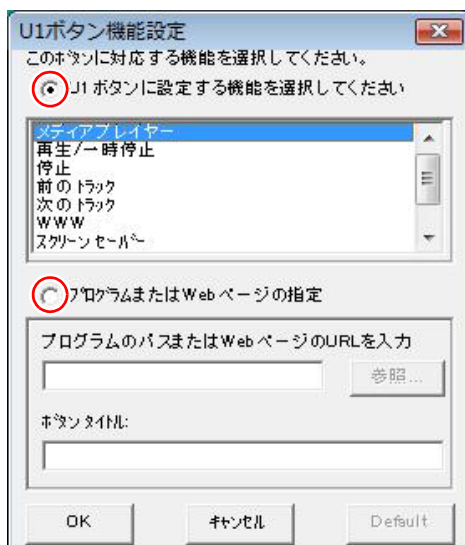
- 2 表示されたメニューから「Config」をクリックします。



- 3 「ホットキー設定ユーティリティ」画面が表示されたら、画面のU1ボタンをクリックします。



- 4** 「U1ボタン機能設定」画面が表示されたら、「U1ボタンに設定する機能を選択してください」か「プログラムまたはWebページの指定」を選択します。



< 「U1ボタンに設定する機能を選択してください」を選択した場合 >
「U1ボタン機能設定」画面に表示されている機能を選択します。

< 「プログラムまたはWebページの指定」を選択した場合 >
「プログラムのパスまたはWebページのURLを入力」欄に、直接パスまたはURLを入力するか、[参照] をクリックし、プログラムまたはURLのショートカットなどを選択します。

- 5** 設定が完了したら、[OK] をクリックします。
- 6** 「ホットキー設定ユーティリティ」画面を閉じます。
これで、ボタンの設定は完了です。ボタンを押すと、割り当てた機能を使用することができます。

キーボードユーティリティの起動

通知領域に「Hotkey Setup」アイコンが表示されていない場合は、キーボードユーティリティが起動していません。次の方法で、キーボードユーティリティを起動します。

- 1 [スタート] - 「検索の開始」に「MHOTKEY」と入力し、を押します。通知領域にHotkey Setupアイコンが表示されます。

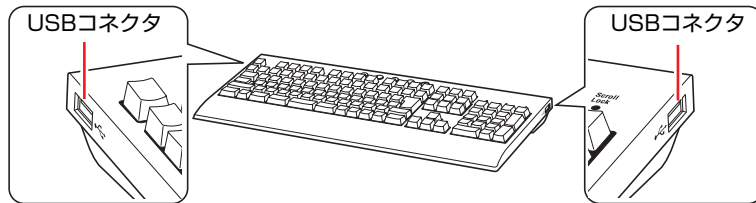


<Hotkey Setupアイコン>

以上の操作を行ってもアイコンが表示されない場合は、Windowsを再起動してみてください。

▶USBハブ機能

109 USBキーボードの側面には、USB1.1に対応した2個のUSBコネクタが搭載されています。キーボードをコンピュータに接続することにより、USBハブのようにキーボードのUSBコネクタを使用することができます。




片方のUSBコネクタには、マウスを接続します。もう一方には、USB機器を接続して使用することができます。



制限

- キーボードのUSBコネクタは、USB1.1対応のため、USB2.0機器を接続した場合でも、USB1.1の転送速度で動作します。
- キーボードのUSBコネクタは、100mA以上の電力を必要とするUSB機器を接続して使用することはできません。USB機器に添付のマニュアルをご覧ください。

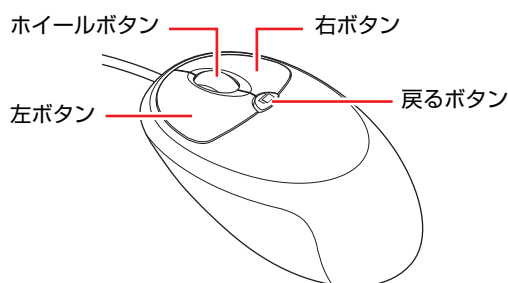
マウスを使う

ここでは、ホイール付USB光学マウスについて説明します。マウスの接続方法は、 p.27 「コンピュータの設置」をご覧ください。購入時にこのほかのマウスを選択し、マウスにマニュアルが添付されている場合は、マウスに添付のマニュアルで使用方法をご確認ください。

▶マウスの操作



- 表面が反射する場所やざらざらした場所、複雑なイラスト入りのマウスパッドの上で使用しないでください。マウスの動きがコンピュータに伝わりません。
- アプリケーションソフトによっては、ホイールボタン、戻るボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを1回カチッと押します。
ダブルクリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。
右クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、右ボタンを1回カチッと押します。
ドラッグアンドドロップ	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを押したままの状態でもうすを移動し、離します。
スクロール	ホイールボタンを指先で前後に動かすと、縦スクロール操作を行うことができます。ホイールボタンをクリックすると、マウスを動かしてオートスクロールを行うこともできます。
戻る	戻るボタンを押すと、Internet Explorerやエクスペローラなどで「戻る」の操作を行うことができます。

▶マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境の変更は、次の場所で行います。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「ハードウェアとサウンド」 - 「マウス」

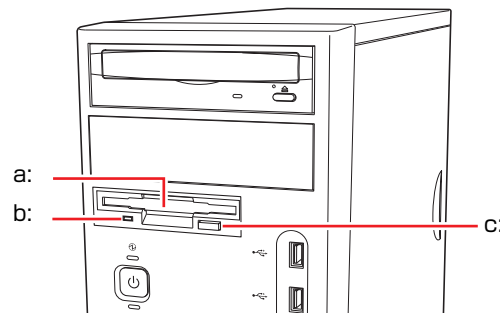
FDD・マルチカードリーダーを使う (オプション)

購入時にオプション選択された場合、本機には、FDDまたはマルチカードリーダーが装着されています。

ここでは、FDD (フロッピーディスクドライブ) について説明します。購入時にマルチカードリーダーを選択した場合は、マルチカードリーダーに添付のマニュアルを本書とあわせてご覧ください。

▶ FDDの仕様

FDD (フロッピーディスクドライブ) は、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする装置です。本機購入時にFDDをオプション選択された場合、本機にはあらかじめFDDが装着されています。



a: 3.5型FDD

3.5型FDのデータの読み込み、書き込みを行います。

b: FDDアクセスランプ

FDに読み書きを行っているときに点灯します。

c: FDDイジェクトボタン

FDDにセットしたFDを取り出すときに押します。

使用できるFDの種類

本機内蔵のFDDでは、次のFDが使用できます。

- 3.5型2HD
1.44MBの記憶容量のメディアとして使用できます。
- 3.5型2DD
720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。



制限

FDは消耗品です。読み書きを繰り返すと、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。

▶FDDのセットと取り出し

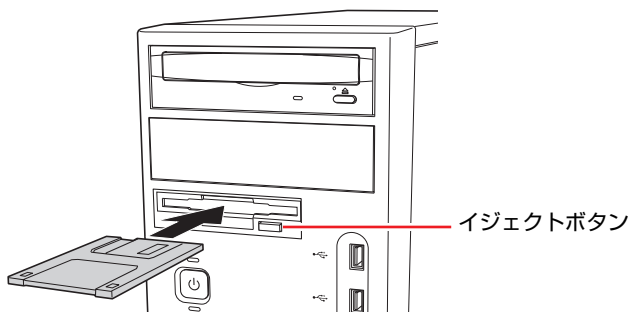


制限

- FDDアクセスランプ点灯中にFDを取り出したり、コンピュータの電源を切ったり、再起動したりしないでください。FD内のデータが破損するおそれがあります。
- コンピュータの電源を切る場合やコンピュータを再起動する場合は、必ずFDを取り出してから行ってください。

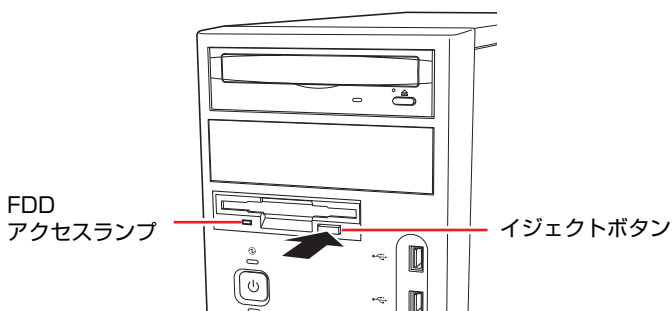
セット方法

- 1 ラベル面を上にして、FDをFDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。正しくセットされると、イジェクトボタンが飛び出します。

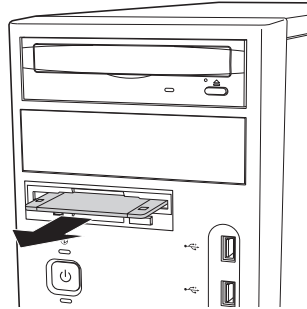


取り出し方法

- 1 アクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。



- 2 FDが飛び出したら、静かに引き抜きます。



▶FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することです。新しいFDを使用する場合や、登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットを行います。



制限

FDをフォーマットすると、FD内のデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

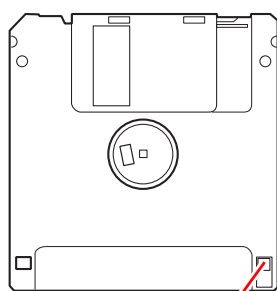
フォーマット方法

Windowsのフォーマットユーティリティを使った通常のFDのフォーマット方法は、次のとおりです。

- 1 FDDにFDをセットします。
- 2 [スタート] - 「コンピュータ」をクリックします。
- 3 「フロッピーディスクドライブ」を右クリックし、「フォーマット」をクリックします。
- 4 「フォーマット・フロッピーディスクドライブ」画面が表示されたら、[開始]をクリックします。「警告」が表示された場合は、[OK]をクリックします。
- 5 「フォーマットが完了しました。」と表示されたら、[OK]をクリックします。続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れ替えて手順4~5をくり返します。
- 6 [閉じる]をクリックし、「フォーマット・フロッピーディスクドライブ」画面を閉じます。
これでFDのフォーマットは完了です。

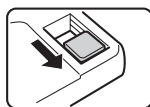
▶ライトプロテクト（書き込み禁止）

ライトプロテクトとは、データを書き込めなくすることです。ライトプロテクトをしたFDは、データの書き込み、削除、フォーマットをすることができなくなります。重要なデータを登録したFDは、ライトプロテクトをしておく安心です。ライトプロテクトは、FD裏面のライトプロテクトタブで行います。



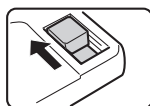
ライトプロテクトタブ

・書き込み禁止状態



窓が開いているとライトプロテクト状態です。

・書き込み可能状態



窓が閉じているとデータを書き込むことができる状態です。

HDDを使う

本機には、シリアルATA仕様のHDD（ハードディスクドライブ）が搭載されています。HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。




制限

- HDDアクセスランプ点灯中に、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破損するおそれがあります。
- 本機を落としたり、ぶつけたりして衝撃を与えるとHDDが故障するおそれがあります。衝撃を与えないように注意してください。
- HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

▶データのバックアップ

HDDに記録されている重要なデータは、CDメディアや外付けHDDなどにバックアップしておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。

バックアップの方法は、 p.243 「データのバックアップ」をご覧ください。

▶購入時のHDD領域

購入時のHDDは、お客様の選択により次のように設定されています。

<通常>

HDDの台数	HDD	ドライブ (領域)	容量
1台の場合	1台目	消去禁止領域	約700MB
		C	残り
複数台の場合	1台目	消去禁止領域	約700MB
		C	残り
	2台目以降	D～	1台につき1台すべて
RAIDモデルの場合	RAID	消去禁止領域	約700MB
		C	残り

<HDD設定変更サービスを選択された場合>

HDDの台数	HDD	ドライブ (領域)	容量
1台の場合	1台目	消去禁止領域	約700MB
		C	購入時に選択した容量
		D	残り
複数台の場合	1台目	消去禁止領域	約700MB
		C	購入時に選択した容量
		D	残り
	2台目以降	E～	1台につき1台すべて
RAIDモデルの場合	RAID	消去禁止領域	約700MB
		C	購入時に選択した容量
		D	残り

すべてのドライブはNTFSファイルシステムでフォーマットされています。



参考

HDD設定変更サービス

HDD設定変更サービスとは、1台目のHDDの領域をCドライブ、Dドライブに分割した状態でコンピュータをお届けするサービスのことです。

消去禁止領域とは

「消去禁止領域」には、「Windows回復環境 (Windows RE)」が設定されています。Windows REについての詳細は、次をご覧ください。



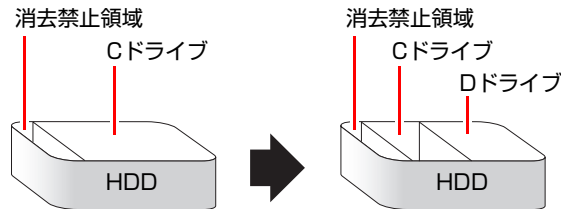
p.236 「Windows回復環境 (Windows RE) を使う」

▶HDDを分割して使用する

1台のHDDは、いくつかに分割してそれぞれ別々のドライブとして使用することができます。

<1台のHDDを分割する>

例：1つのHDD領域（Cドライブ）を2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割することができます。



Cドライブを分割する場合は、Windowsの再インストールが必要です。詳しくは、[📖](#) p.248 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

▶HDDを増設・交換したら

HDDを増設・交換した場合は、[📖](#) p.251 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。ドライブの作成を行ってください。

RAIDを構成する場合は、増設・交換したHDDにドライブを作成する必要はありません。



制限

すでにデータが収録されている HDD にドライブを作成すると、その HDD に収録されていたすべてのデータが消失します。ドライブを作成する前に、重要なデータが収録されていないことを確認してください。

▶HDDの暗号化

<Windows Vista Ultimate 使用時>

Windows Vista Ultimate では、HDD 暗号化機能「BitLocker」を使用することができます。

BitLocker の使用方法は、当社ユーザーサポートページのサポート情報をご覧ください。

アドレスは次のとおりです。

<http://www.epsondirect.co.jp/support/redirect.htm?content=BitLocker>



参考

BitLocker とは

BitLockerは、HDD内のドライブを暗号化するツールです。Windows Vista Ultimate とWindows Vista Enterpriseのみに搭載されています。

ドライブを暗号化することで、第三者がWindowsを不正に起動したり、HDD内のデータが漏洩したりすることを抑止することができます。

RAID機能

RAIDとは、同一容量のHDDを複数台組み合わせて使用するシステムのことで、ここでは、RAIDの種類やRAIDの構成・削除方法などについて説明します。本機では、次の場合にRAID機能を使用することができます。

- 購入時、RAIDモデルを選択された場合
RAIDモデルの場合、搭載のHDDであらかじめRAIDが構成されています。
- 同一容量のHDDを2台以上装着している場合
購入時、RAIDは構成されていません。必要に応じて、HDD2台または3台でRAIDを構成して使用することができます。

RAIDの種類

本機で使用できるRAIDは、RAID0、RAID1、RAID5の3種類です。



種類	別名	HDD 必要台数	特徴
RAID0	ストライピング	2台または 3台	複数のHDDを1つに結合して使用。大容量のデータを高速に書き込むことができる。
RAID1	ミラーリング	2台	2台のHDDに同時に同じデータを書き込む。 一方のHDDが破損しても、もう一方のHDDからデータを復旧することができる。
RAID5	パリティ付 ストライピング	3台	データからパリティ（誤り訂正符号）を生成し、データとパリティを複数のHDDに分散して記録。 どれか1つHDDが破損しても、パリティによりデータを復旧することができる。

▶ RAIDの構成・削除・修復

RAIDの構成・削除・修復方法を説明します。

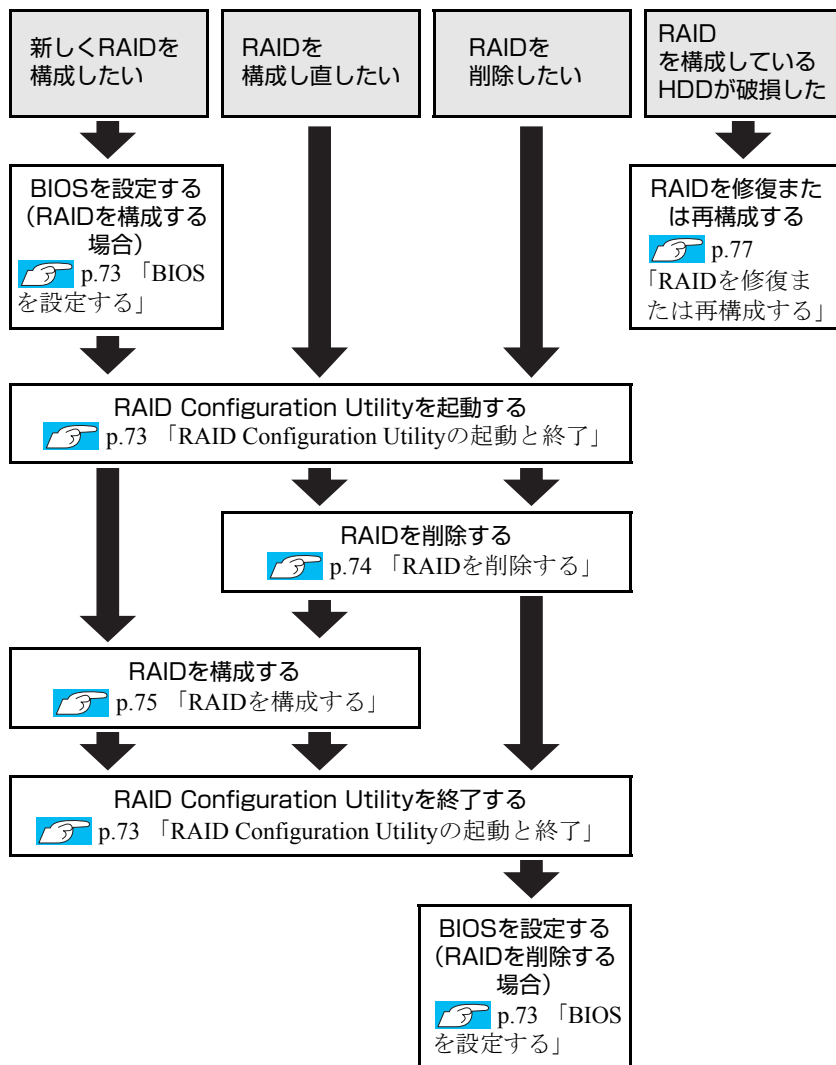


制限

- RAIDの構成・削除をすると、HDDに収録されているデータはすべて消失します。RAIDの構成・削除をする前に、重要なデータをバックアップしてください。また、RAIDを構成・削除すると、「消去禁止領域」も消失し、復元することはできません。「消去禁止領域」には、Windows回復環境（Windows RE）が設定されています。Windows REは、「Windows リカバリDVD」から使用することができます。Windows REについての詳細は、次をご覧ください。
 p.236 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」
- RAID構成時、HDDアクセス制限は使用できません。
 p.168 「HDDアクセス制限」

RAIDの構成・削除・修復の流れ

次の流れに従って、RAIDの構成・削除・修復を行ってください。




BIOSを設定する


RAIDを構成・削除する場合は、BIOSの設定が必要です。

RAIDを構成する場合

RAIDを構成する場合は、「BIOS Setupユーティリティ」で設定値を次のように変更してください。RAIDモデルの場合は、あらかじめ「RAID」に設定されています。

[Main] メニュー画面 - 「SATA Configuration」
Configure SATA as : RAID
Onboard SATA BOOT ROM : Enabled


 p.159 「BIOS Setupユーティリティの操作」


 p.172 「Mainメニュー画面」

RAIDを削除する場合

RAIDを削除した後、RAID機能を使用しない場合は、「BIOS Setupユーティリティ」で設定値を次のように変更します。

[Main] メニュー画面 - 「SATA Configuration」
Configure SATA as : AHCI

 p.159 「BIOS Setupユーティリティの操作」

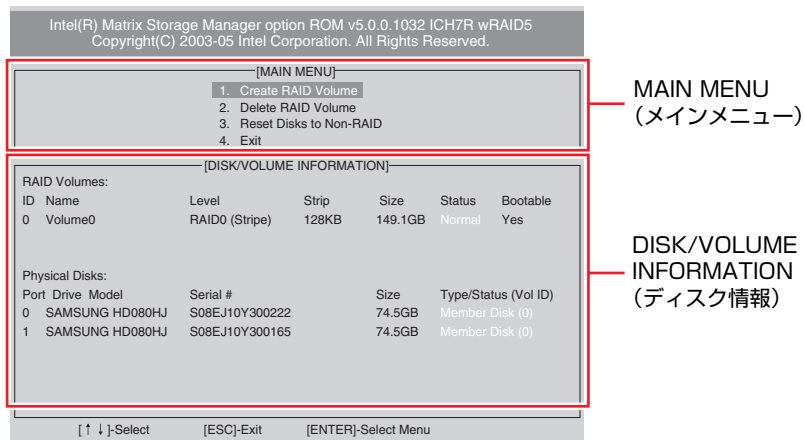
 p.172 「Mainメニュー画面」

RAID Configuration Utilityの起動と終了

RAID Configuration Utilityの起動、終了方法は次のとおりです。

起動

- 1** キーボードの **Ctrl** と **I** の位置を確認します。
手順3では、「Press <CTRL-I> to…」のメッセージが表示されている間に、すばやく **Ctrl** + **I** を押す必要があります。
- 2** 本機の電源を入れます。
すでに電源が入っている場合は、再起動します。
- 3** 画面に「EPSON」と表示された直後に「Press <CTRL-I> to enter Configuration…」と表示されたら、すぐに **Ctrl** + **I** を押します。
RAID Configuration Utilityが起動します。
Windowsが起動した場合は、再起動してやりなおしてください。



<画面はイメージです>



終了

- 1 「MAIN MENU」項目で「4.Exit」を選択し、を押します。
項目の移動は で行います。
- 2 次の確認メッセージが表示されたら、を押します。
Are you sure you want to exit ? (Y/N)
RAID Configuration Utilityが終了します。

RAIDを削除する

RAIDを構成しなす場合や、RAID機能を使用しない場合は、RAIDを削除します。

RAIDを削除する手順は、次のとおりです。

- 1 RAID Configuration Utilityを起動します。
 p.73 「RAID Configuration Utilityの起動と終了」
- 2 「MAIN MENU」画面で「2.Delete RAID Volume」を選択し、を押します。
- 3 「DELETE VOLUME MENU」画面で、削除したいRAIDを選択し、を押します。
- 4 次の確認メッセージが表示されたら、を押します。
Are you sure you want to delete volume "XXX" ? (Y/N)
RAIDが削除され、「MAIN MENU」画面が表示されます。「DISK/VOLUME INFORMATION」の「RAID Volumes:」でRAIDが削除されたことを確認します。
- 5 RAID Configuration Utilityを終了します。
 p.73 「RAID Configuration Utilityの起動と終了」
これで、RAIDの削除は完了です。

RAIDを構成する

本機で構成できるRAIDは、RAID0、RAID1、RAID5です。
RAIDを構成する手順は、次のとおりです。




RAID を構成すると、HDD に収録されているデータはすべて消失します。
RAID を構成する前に、重要なデータをバックアップしてください。

- 1 RAID Configuration Utilityを起動します。
 p.73 「RAID Configuration Utilityの起動と終了」
- 2 「MAIN MENU」画面で「1.Create RAID Volume」を選択し、 を押します。
- 3 「CREATE VOLUME MENU」画面が表示されたら、[Name] に任意の名前を入力し、 を押します。
RAIDの名前を変更しない場合は、そのまま  を押します。
- 4 「RAID Level」で「RAID0 (Stripe)」、「RAID1 (Mirror)」、「RAID5 (Parity)」のいずれかを選択し、 を押します。
- 5 RAIDを作成するHDDを選択します。
RAIDの種類やHDDの台数によっては、この手順はありません。
 (1) 「Disks」で  を押します。
 (2) 「SELECT DISKS」画面が表示されたら、 (スペースキー) で1台目のHDDを選択します。
 (3) 手順(2)と同様に2台目のHDDを選択します。
必ず手順(2)で選択したHDDと同容量のHDDを選択してください。
RAID0で3台目を選択する場合は、同様にHDDを選択します。
 (4)  を押してHDDを確定します。
- 6 「Strip Size」で  を押します。
RAIDの種類によっては、この手順はありません。
- 7 「Capacity」で  を押します。
- 8 「Create Volume」が選択されている状態で  を押します。
- 9 次の確認メッセージが表示されたら、 を押します。
Are you sure you want to create this volume? (Y/N)
RAIDが構成され、「MAIN MENU」画面が表示されます。構成したRAIDの情報を「DISK/VOLUME INFORMATION」で確認することができます。
- 10 RAID Configuration Utilityを終了します。
 p.73 「RAID Configuration Utilityの起動と終了」


- 11** 「BIOS Setup ユーティリティ」が表示されたら、「Boot」メニュー画面→「Boot Device Priority」で、「Boot Device」が「RAID:Intel XXXX*」になっていることを確認します。

* XXXXは、手順3で設定した名前です。

- 12**  を押し、「Exit」メニュー画面→「Exit & Save Changes」で [Ok] を選択し、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

これでRAIDの構成は完了です。

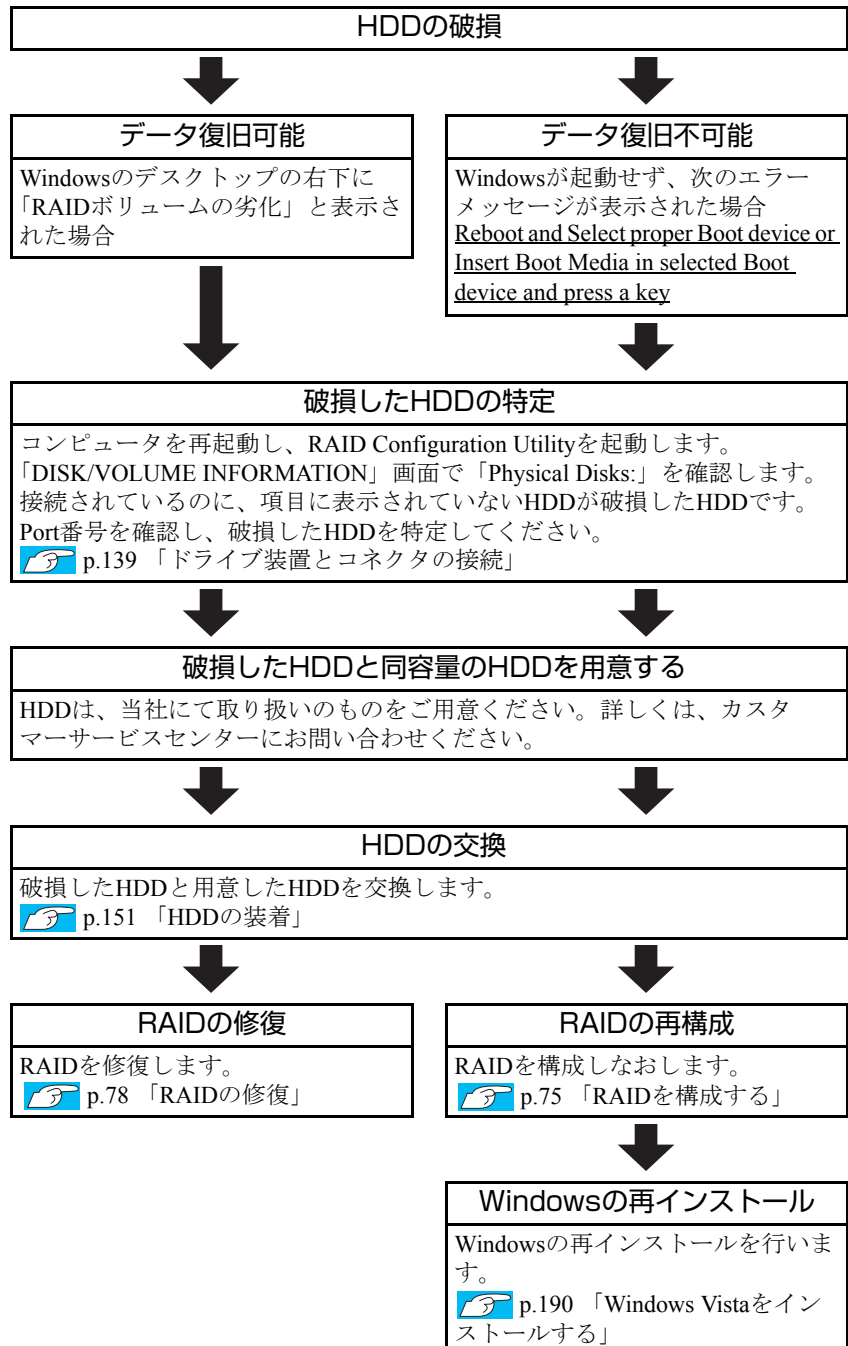
続いてWindowsのインストールを行います。

 p.190 「Windows Vistaをインストールする」

RAIDを修復または再構成する

RAID構成時にHDDが破損した場合は、データの状態によってRAIDの修復または再構成が必要です。


次の流れに従って、RAIDを修復または再構成してください。




RAIDの修復

RAIDの修復は、RAID Configuration Utilityで行います。
RAIDの修復方法は、次のとおりです。


1 RAID Configuration Utilityを起動します。

 p.73 「RAID Configuration Utilityの起動と終了」

2 「DEGRADED VOLUME DETECTED」画面が表示されたら、新しく接続したHDDを選択し、を押します。

3 「DISK/VOLUME INFORMATION」項目で、「RAID Volumes:」の「Status」項目が「Rebuild」になっていることを確認します。

4 RAID Configuration Utilityを終了します。

 p.73 「RAID Configuration Utilityの起動と終了」

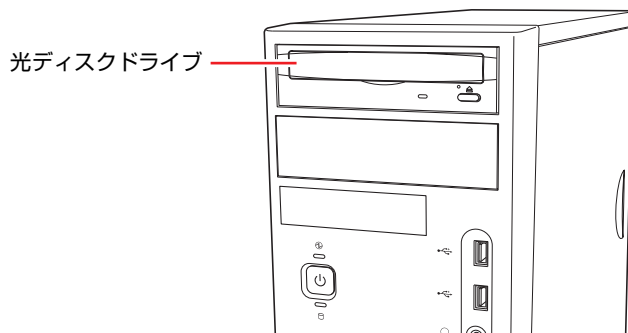
これでRAIDの修復は完了です。

Windowsが起動すると、画面右下に「RAIDボリュームの復元」と表示されます。

光ディスクドライブを使う

本機には、購入時に選択されたシリアルATA仕様の光ディスクドライブが搭載されています。光ディスクドライブは、CD-ROMなどの光ディスクメディアを使用するための機器です。

ここでは、光ディスクドライブの基本的な使い方について説明します。



警告

光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。飛び散って、けがをする危険があります。



注意

光ディスクドライブのディスクトレイに手を入れないでください。挟まれると、けがの原因になります。



制限

本機では、CD（コンパクトディスク）の規格に準拠しない「コピーコントロールCD」などの特殊ディスクは、動作保証していません。本機で動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

▶使用可能な光ディスクメディア

光ディスクドライブの種類によって、メディアへの書き込みやDVDの再生など、使える機能が異なります。

お使いの光ディスクドライブで使える機能とメディアの種類は、光ディスクドライブのマニュアル（PDF）をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅうわ」

光ディスクメディアの違いについての簡単な説明は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」

▶光ディスクメディアのセットと取り出し

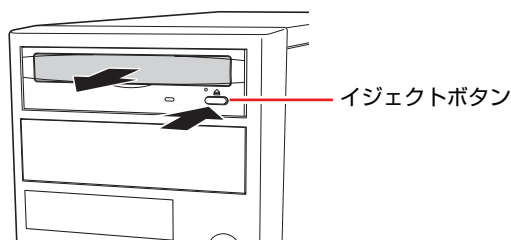
光ディスクメディアのセットと取り出し方法について説明します。



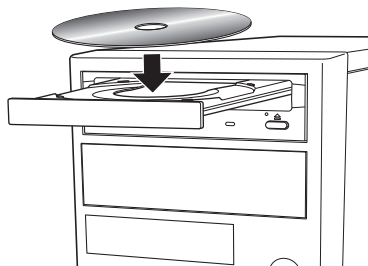
- 光ディスクドライブアクセス中にメディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。
- メディアの出し入れのとき以外は、ディスクトレイの開閉をしないでください。
- 開いているディスクトレイの上に物を置かないでください。また、上から強く押さないでください。
- メディアの再生中や書き込み中に振動や衝撃を与えないでください。
- 結露した状態のメディアを使用しないでください。メディアを寒いところから暖かいところへ急に持ち込むと、結露（水滴が付着する状態）します。使用すると、誤動作や故障の原因になります。
- 本機では、楕円などの通常と異なった形状のメディアは使用できません。

セット方法

- 1 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



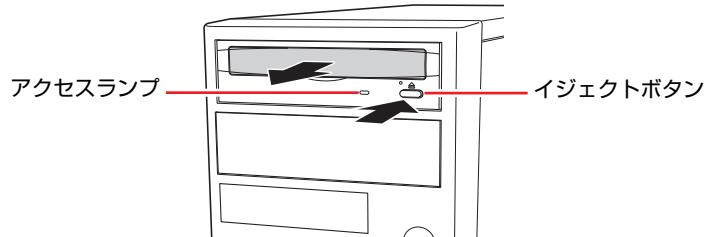
- 2 印刷面を上にして、光ディスクメディアをディスクトレイのくぼみにセットします。



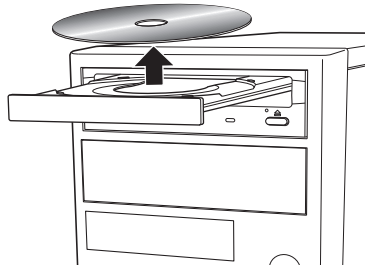
- 3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

取り出し方法

- 1 アクセスランプが点灯・点滅していないことを確認し、イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



- 2 光ディスクメディアをディスクトレイから取り出します。



- 3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

**イジェクトボタンを押してもメディアが取り出せない場合**


ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくはお使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

▶強制的な光ディスクメディアの取り出し

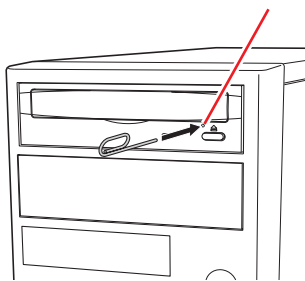
次のような場合には、強制的に光ディスクメディアを取り出すことができます。

- 光ディスクドライブの動作が不安定になったり、故障したりして、光ディスクメディアが取り出せない場合
- 光ディスクメディアをセットしたまま、本機の電源を切ってしまった場合

強制的な光ディスクメディアの取り出し方法は次のとおりです。

- 1** 本機の電源が入っている場合は、電源を切ります。
 p.52 「電源を切る（シャットダウン）」
- 2** イジェクトホールに先の細い丈夫なもの（ゼムクリップを引きのばしたものなど）を差し込みます。
お使いの光ディスクドライブによりイジェクトホールの位置は異なります。

イジェクトホール



- 3** ディスクトレイが少し飛び出したら、ディスクトレイを引き出し、光ディスクメディアを取り出します。

▶CDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データCDを読み込めるほかに、音楽CDやビデオCD、フォトCDなどの再生を行うことができます。これらのメディアの中には、再生時に別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

▶DVDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データが収録されたDVDメディアを読み込めるほかに、ビデオ編集ソフトで作成したDVDなどの再生ができます。再生には、DVD VIDEO再生のためのソフトウェアが必要です。

DVD VIDEO再生ソフト

DVD VIDEOの再生には、「WinDVD」を使用します。



DVD-ROM ドライブを搭載している場合、購入時の選択によっては WinDVD は添付されていません。



WinDVDは、次の場所から起動します。

【スタート】 - 【すべてのプログラム】 - 【InterVideo WinDVD】 -
【InterVideo WinDVD for EPSON】

WinDVDの詳しい使用方法は、WinDVDのヘルプをご覧ください。

DVD VIDEO再生時の不具合

WinDVDでDVD VIDEOの再生をすると、次のような不具合が発生する場合があります。

- 解像度や色数、リフレッシュレートの設定により、DVD VIDEOの再生ができないことがあります。
DVD VIDEOの再生ができない場合は、解像度や色数、リフレッシュレートを調節してみてください。
 p.88 「表示に関する各種設定」
 p.90 「リフレッシュレートの設定」
- ビデオボードを装着している場合に、ディスプレイを2台接続してクローン表示をしていると、「使用しているディスプレイ環境は保護されているコンテンツの再生をサポートしていません。」というメッセージが表示され、DVD VIDEOの再生が中断されます。このような場合は、クローン表示を無効にしてください。

▶光ディスクメディアへの書き込み

<書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時>

書き込み機能のある光ディスクドライブでは、データ、音楽、画像などを光ディスクメディアに書き込むことができます。

書き込み可能なメディアは、お使いの光ディスクドライブにより異なります。書き込み可能なメディアについては、光ディスクドライブのマニュアル（PDF）をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」 - 「マニュアルびゅうわ」



作成した DVD VIDEO は、一部の DVD プレイヤーでは再生できない場合があります。

ライティングソフト

光ディスクメディアに書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。本機にはライティングソフト「Nero 8 Essentials」がインストールされています。

 p.85 「Nero 8 Essentialsの使い方」


書き込み時の注意

書き込みを行う場合は、次の点に注意してください。

- 省電力機能を無効にする

メディアへの書き込み時に、Windowsが省電力状態に切り替わると、データ転送エラーが起き、書き込みに失敗して、メディアに記録したデータが失われたり、メディアが使用できなくなる可能性があります。

書き込みを始める前に、省電力状態に移行しないように設定してください。

 p.114 「時間経過で移行させない」

省電力状態に移行する場合は、必ず光ディスクドライブからメディアを取り出してから行ってください。

- 速度に対応した光ディスクメディアを選ぶ

書き込みを行う場合は、お使いの光ディスクドライブの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。

光ディスクドライブの書き込み速度は、光ディスクドライブのマニュアル（PDF）をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」 - 「マニュアルびゅうわ」

▶ Nero 8 Essentialsの使い方

<書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時>

ライティングソフト「Nero 8 Essentials」を使用すると、CDメディアやDVDメディアにデータや音楽、画像などのファイルを書き込むことができます。



Nero 8 Essentials と Windows Vista 標準の書き込み機能を同時に使用しないでください。

使い方

Nero 8 Essentialsを起動するには、デスクトップ上の「Nero」アイコンをダブルクリックします。



<Neroアイコン>

Nero 8 Essentialsの詳しい使用 방법은、次をご覧ください。


- 「インフォメーションメニュー」 - 「PCお役立ち情報」 - 「CD/DVD/BDを使う」
- 「インフォメーションメニュー」 - 「マニュアルびゅーわ」 - 「Neroユーザーガイド」

USB機器を使う

本機にはUSB2.0に対応したUSBコネクタが、前面に3個、背面に4個、合計7個搭載されています。USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。7個のUSBコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用しても構いません。



- USBフラッシュメモリやUSB HDDなどを接続していたり、USB FDDにFDがセットされている状態で本機の電源を入ると、Windowsが起動しないことがあります。USB記憶装置は、Windows起動後に接続してください。
- USB記憶装置を接続した状態でWindowsを起動したい場合は、「BIOS Setupユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。

 p.169 「起動 (Boot) デバイスの順番を変更する」

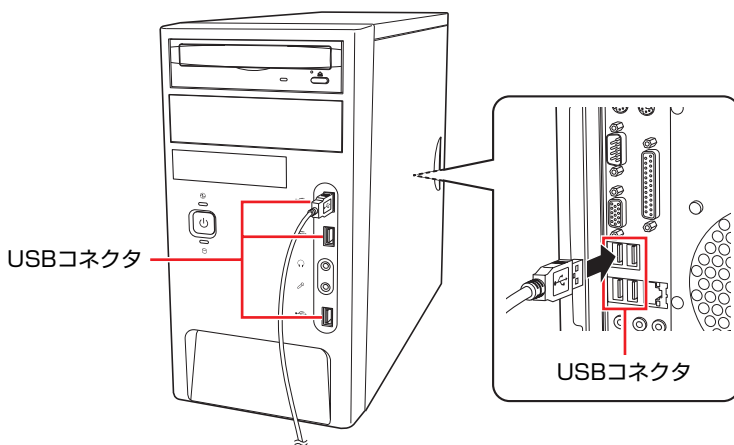
▶ USB機器の接続と取り外し

USB機器の接続・取り外しは、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

接続

USB機器の接続方法は、次のとおりです。

- 1 USB機器のUSBコネクタを、本機前面または背面のUSBコネクタ () に接続します。



- 2** USB 機器によっては、画面右下の通知領域に「取り外し」アイコンが表示されます。



<取り外しアイコン>

接続するUSB機器によっては、専用のデバイスドライバが必要です。詳しくはUSB機器に添付のマニュアルをご覧ください。



参考

接続したUSB機器の確認

接続したUSB機器を確認するには、「取り外し」アイコンをダブルクリックし、「ハードウェアの安全な取り外し」画面で [プロパティ] をクリックします。

USB機器の取り外し

USB機器の取り外しは、コンピュータの状態を確認して、次のどちらかの方法で行います。

● そのまま取り外す

「取り外し」アイコンが表示されていない場合や、本機の電源を切った場合はそのまま取り外せます。

● USB機器の終了処理をして取り外す

「取り外し」アイコンが表示されている場合は、終了処理を行います。

USB機器の終了処理の方法は次のとおりです。

1 開いているファイルを閉じます。

ファイルを閉じないと、終了処理ができません。

2 通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。

3 表示されたメニューから「(取り外したいUSB機器) - - - を安全に取り外します」を選択します。

複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。

USB 大容量記憶装置デバイス - ドライブ (E:) を安全に取り外します



4 「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、[OK] をクリックし、USB機器を本機から取り外します。


画面表示機能を使う

本機のマザーボード上には、画面表示機能が搭載されています。
ここでは、表示するディスプレイや解像度などの設定方法について説明します。
オプションでADD2ボードやビデオボードを購入された場合は、ボードに添付の
マニュアルをご覧ください。



セーフモードでの起動

接続しているディスプレイの設定が正しくない場合や、本機の画面表示機能では表示できない解像度を選択した場合、Windowsが再起動したときに画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで再起動して再設定を行ってください。

 p.234 「セーフモードでの起動」

▶表示に関する各種設定

画面表示に関する設定は「画面の設定」の「モニタ」タブで行います。
「画面の設定」は次の場所にあります。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「デスクトップのカスタマイズ」
- 「個人設定」 - 「画面の設定」



解像度を設定します。

使用しているディスプレイの名称

色を設定します。

表示装置に関する設定を行います。

▶表示できる解像度と表示色

本機の画面表示機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

- 解像度 ピクセル（横×縦）

800×600

1024×768

1280×768

1280×1024

1600×1200

1440×900

1680×1050

1920×1200

- 表示色

中（16ビット） / 最高（32ビット）

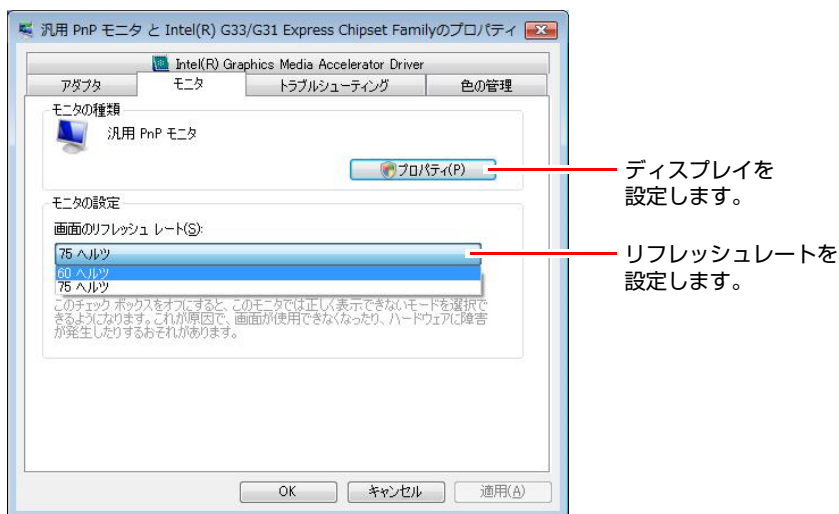


制限

- 記載している解像度は、本機に搭載されたビデオコントローラの出力解像度です。表示モードや接続する外付けディスプレイの仕様によっては、表示できない場合があります。
- ディスプレイを2台接続してクローンモードにした場合、実際に表示できる最大解像度は、コンピュータ側の最大解像度と接続するディスプレイの最大解像度のうち、どちらか低い方になります。
- 解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトで動画を再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてください。

▶表示装置に関する設定

画面の設定の[詳細設定]－「モニタ」タブでは次の設定を行うことができます。



ディスプレイの設定

通常、接続しているディスプレイは自動的に検出されて設定されますが、接続しているディスプレイによっては正しく設定されない場合があります。その場合は [プロパティ] をクリックして設定を行ってください。詳しくは、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

リフレッシュレートの設定

画面がちらつく、文字がにじむといった現象が起こるときは、リフレッシュレートを変更すると問題が解決することがあります。ディスプレイによっては、リフレッシュレートの変更ができない場合もあります。

サウンド機能を使う

本機のマザーボード上には、サウンド機能が搭載されています。



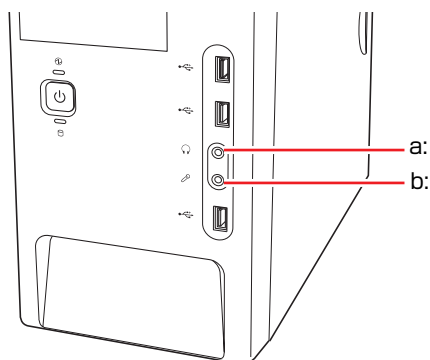
ヘッドフォンやスピーカーを使用する場合は、ボリュームを最小にしてから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。


本機にスピーカーは内蔵されていません。本機からの音声を出力するには、スピーカーを接続する必要があります。


▶外部オーディオ機器などの接続

本機には、スピーカーやマイクなどを接続するためのサウンドコネクタが装備されています。各コネクタの位置は、次のとおりです。

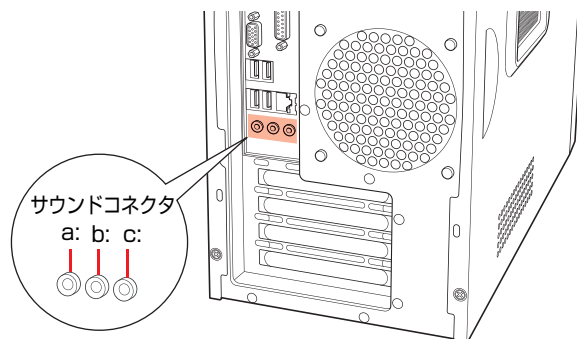
前面側



a: ヘッドフォン出力コネクタ 
スピーカーやヘッドフォンと接続して音声を出力します。

b: マイク入力コネクタ 
マイクと接続して音声を入力します。

背面側



a: マイク入力コネクタ (ピンク色)

マイクと接続して音声を入力します。

b: ライン出力コネクタ (黄緑色)

フロントスピーカやヘッドフォンなどと接続して音声を出します。

c: ライン入力コネクタ (水色)

オーディオ機器と接続して音声を入力します。

オーディオ機器の接続方法は、オーディオ機器に添付のマニュアルをご覧ください。

参考

使用できるマイク

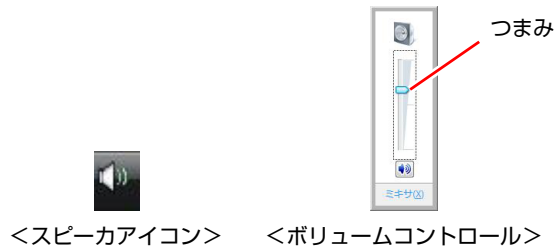
マイク入力コネクタ（前面・背面）に接続して使用できるマイクは、電源を必要とするコンデンサーマイクです。

コンデンサーマイクには、次の2種類があります。

- コンセントなどから、電源供給するタイプ
 - 乾電池やコンピュータから、電源供給するタイプ
-

▶ 音量の調節

スピーカを接続していて、Windows起動時に音が鳴らなかったり、音が小さすぎたり、大きすぎたりする場合は、次の方法で音量を調節します。画面右下の通知領域に表示されている「スピーカ」アイコンをクリックすると、「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。



▶ 音声の再生・録音

Windows標準のサウンドユーティリティを使うと、音声の再生・録音をすることができます。

音声の再生

音声の再生は、「Windows Media Player」を使用します。Windows Media Playerは、次の場所から実行します。


[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Windows Media Player」

音声の録音

音声の録音は、「サウンドレコーダー」を使用します。サウンドレコーダーの実行方法は、次のとおりです。

- 1 本機にマイクを接続します。
- 2 [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「サウンドレコーダー」をクリックします。

録音ボリュームの変更は、「サウンドユーティリティ」の「マイク」タブで行います。

 p.94 「マイク使用時の音量調節」

▶サウンドユーティリティを使う

サウンドユーティリティを使用すると、スピーカの設定やマイク音量の設定、音響効果の設定などができます。

サウンドユーティリティを起動するには、通知領域の「サウンドユーティリティ」アイコン（赤色）をダブルクリックします。



<サウンドユーティリティアイコン>

次の画面が表示されます。



※「スピーカ」タブは、スピーカ接続時のみ表示されます。


マイク使用時の音量調節

本機にマイクを接続して使用する場合、マイクの音量調節はサウンドユーティリティの「マイク」タブで行います。

マイクで録音・再生時の音量を調節 マイクブーストの設定



※「マイク」タブは、マイク接続時のみ表示されます。

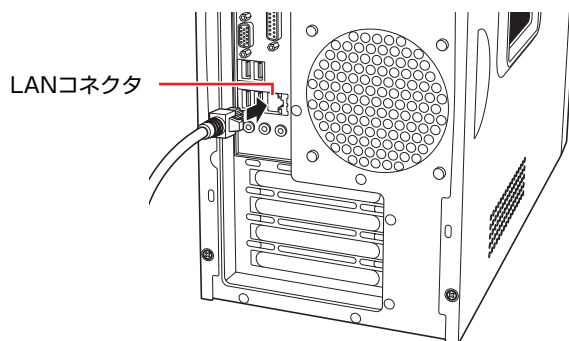
録音時に音量を調節しても音が小さいときは、 をクリックしてマイクブーストのつまみを右へスライドさせて、音量を上げてください。

ネットワーク機能を使う

本機のマザーボード上には、1000 Base-T/100 Base-TX/10 Base-Tに対応したネットワーク機能（LAN機能）が搭載されています。

ネットワーク機能を使用すると、ネットワークを構築したり、インターネットに接続したりすることができます。

ネットワーク機能を使用する場合は、本機背面のLANコネクタに市販のLANケーブルを接続します。




2

▶ネットワークの構築

ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、LANケーブルやハブ（サーバ）などが必要です。そのほか、Windows上でネットワーク接続を行うためには、プロトコルの設定などが必要になります。ネットワークの構築方法は、ネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。



制限

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態になると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
 - ・ 再起動する
 - ・ 省電力状態に移行しないように設定する
-  p.114 「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行すると、正常に通常の状態へ復帰できない場合があります。
- 本機のネットワーク機能では、リピータ・ハブを使用できません。

▶インターネットへの接続

インターネットへ接続する場合は、 p.97 「インターネットに接続するには」をご覧ください。

▶そのほかの機能

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、次のような機能を使用できます。

Wakeup On LAN

Wakeup On LANとは、電源切断時にネットワークからの信号により本機を起動させることができる機能です。電源切断時は、Windowsを正常にシャットダウンした状態でのみ使用可能です。



Wakeup On LANを設定している場合

BIOSの設定で、Wakeup On LAN（Power On By PCI Devices、Power On By PCIE Devices）が有効に設定されているときに、電源コードを抜き、再び接続するとコンピュータが一瞬起動する場合があります。これは、不具合ではありません。

リモートブート

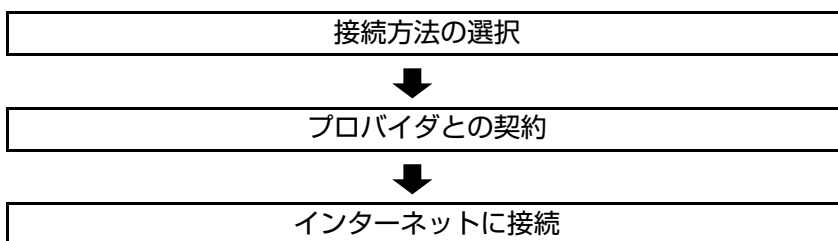
リモートブートを使用すると、ネットワークを介して、あらかじめセットアップされたサーバー上からWindowsなどのOSをインストールすることができます。

インターネットに接続するには

ホームページを見たり、電子メールをやり取りしたりするためには、インターネットへの接続が必要です。ここではインターネットへの接続の概要や、インターネットを利用するためのソフトウェアについて説明します。

▶接続するまでの流れ

インターネット接続までの流れは次のとおりです。



2

▶接続方法の選択とプロバイダとの契約

インターネットへ接続するには、接続方法を決め、その接続方法でサービスを提供しているプロバイダ（インターネットサービスプロバイダ、ISP）と契約します。

接続方法は、目的や使い方に合わせて選択しましょう。また、同じ接続方法でも、通信速度や料金、サポート内容はプロバイダによって異なります。詳しい内容はプロバイダにお問い合わせください。

接続方法の種類

高速なインターネット接続をブロードバンドと言い、光ファイバー、ADSL、CATVなどを利用した接続がそれにあたります。また、アナログ電話回線、ISDNなどでの低速な接続をナローバンドと言います。

接続方法	接続環境	インターネットでの通信速度イメージ
光ファイバー	ブロードバンド	
ADSL		
CATV		
ISDN	ナローバンド	
PHS		
携帯		
アナログ		

遅い 速い

インターネット接続の方法には、主に次のようなものがあります。

- 光ファイバー (FTTH)

ほかのブロードバンド接続と比べても、数段に速く安定しているため、映像などの大量のデータ転送も無理なくできます。また、インターネットと合わせてテレビや電話も利用することができます。

ただし、接続料金が高く、非対応の地域があります。

- ADSL

電話回線を利用します。インターネットをストレスなく使えます。通信速度は、プロバイダのプランから使い方に合わせて選ぶことができます。

利用電話局からの距離が遠くなるにつれ速度が遅くなってしまいますので、事前に速さの確認をする必要があります。

- CATV

ケーブルテレビのケーブルを利用します。インターネットをストレスなく使えます。

- そのほかの接続方法 (ナローバンド)

アナログ電話回線やISDN回線などを使った低速な接続方法があります。



ダイヤルアップ接続

ブロードバンドは常時接続が一般的ですが、ナローバンドでは、必要時に電話回線を通じてインターネットに接続します。この作業をダイヤルアップ接続と言います。

必要な機器

インターネット接続に必要な機器は接続方法によって異なります。詳しくは各プロバイダにお問い合わせください。

▶インターネットに接続する

プロバイダと契約すると、メールアドレスやパスワードなどインターネットへの接続に必要な情報と、接続手順が記載された説明書がプロバイダより提供されます。説明書に従って接続作業を行ってください。



再インストール後のインターネット接続

Windowsを再インストールした場合は、インターネットに接続するための設定作業が再度必要になります。プロバイダからの説明書はなくさないように大切に保管してください。

▶インターネットを使う上での注意

インターネットを使用すると、簡単に情報を得ることができたり、手軽にメッセージを送ったりすることができますが、その反面注意しなければならないことがあります。次の点に気を付けてインターネットを使用してください。

- 電子メールは途中経路の障害などにより、届かない場合もあります。
- 電子メールは世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、第三者に内容を見られる可能性があります。
- インターネット上の情報は、必ずしも正しいとは限りません。正しい情報であるかどうかを十分に見極めて、有効に活用する必要があります。
- 安易に個人情報をホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると、悪用されることがあります。また、他人の個人情報を断りなくホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると法律で罰せられます。
- ホームページからダウンロードするデータによっては、本機が障害を被る可能性があります。
- コンピュータウイルスに感染すると、本機が障害を被る可能性があります。また、無許可のユーザーにインターネットを介して本機にアクセスされる可能性もあります。

ウイルスに感染する主な原因は次のとおりです。

- ・ ウイルスが添付されたメールを受信する
- ・ 悪質なプログラムが起動するホームページを閲覧する

これらの危険から本機を守る方法は、 p.102 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」をご覧ください。

▶インターネットや電子メールを利用する

本機では、次のソフトウェアを使用してインターネットや、電子メールを利用します。

- ホームページの閲覧：Internet Explorer（インターネットエクスプローラ）
- 電子メールの利用：Windowsメール

各ソフトウェアの使用方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」

参考

Officeをインストールしているときは

Officeをインストールしている場合は、電子メールソフトOutlookを使用します。

Outlookの使用方法は、Outlookのヘルプをご覧ください。

Windowsメールの初期設定

Windowsメールをはじめて起動する場合は、初期設定を行います。初期設定では、メールアドレスなどの接続に必要な情報を入力します。これらの情報は、プロバイダから提供された説明書をご覧ください。

初期設定方法は次のとおりです。

- 1** 「スタート」 - 「すべてのプログラム」 - 「Windowsメール」をクリックします。
- 2** 「名前」と表示されたら、名前を入力して「次へ」をクリックします。
- 3** 「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダから取得したメールアドレスを入力して「次へ」をクリックします。
- 4** 「電子メールサーバーのセットアップ」と表示されたら、プロバイダから指定されている受信メールサーバと送信メールサーバを入力して「次へ」をクリックします。
- 5** 「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダから指定されているユーザー名とパスワードを入力して「次へ」をクリックします。
- 6** 「設定完了」と表示されたら、「完了」をクリックします。



参考

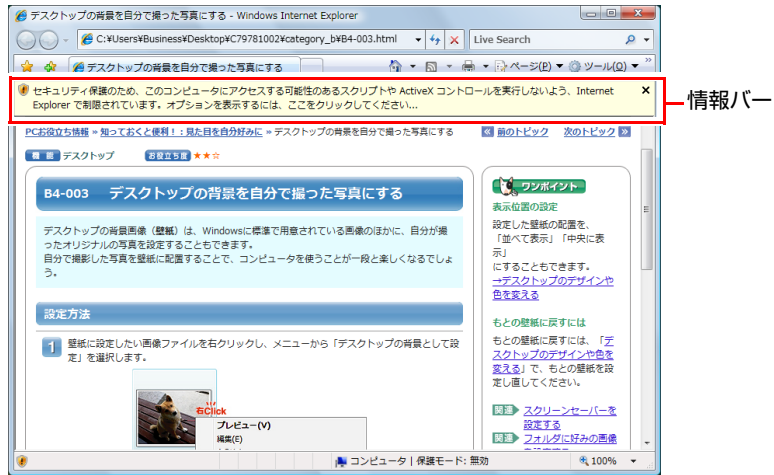
設定を変更する

一度行った設定は、次の場所から変更することができます。

「ツール」メニュー - 「アカウント」 - 「追加」 - 「電子メールアカウント」

Internet Explorerで情報バーが表示されたら

購入時のInternet Explorerは、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用时、情報バーに警告が表示されたら、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処をしてください。



<画面はイメージです>

Internet Explorerの便利な追加機能

本機にはInternet Explorerの便利な機能として、次のソフトウェアが添付されています。購入時にはインストールされていませんので、必要に応じてインストールを行ってください。

- JWord

「JWord」を使うと、アドレスバーを利用して、簡単に検索ができます。

JWordの詳しい使い方は、デスクトップ上にある「JWord」アイコンからマニュアルを開いてご覧ください。



<JWordアイコン>

- gooスティック

「gooスティック」を使うと、検索機能や辞書機能をいつでも利用することができます。インストールを行うと、Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスが設定されます。

- マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版

Internet Explorerのツールバーに、「McAfee SiteAdvisor」ボタンが設定され、Webサイトの安全性評価を確認できます。マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版の詳しい使い方は、ボタンから「ヘルプ」をご覧ください。

インターネットを使用する際のセキュリティ対策

本機には、インターネットに接続した際に起こりうるコンピュータウイルス感染や不正アクセスなどの危険に対するセキュリティ機能が備えられています。ここでは、このセキュリティ機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピュータの安全を守るため、必ずセキュリティ対策を行ってください。

▶ Windows Update

「Windows Update」は、本機のWindowsの状態を確認し、Windowsの更新プログラムをインターネットからダウンロードしてインストールする機能です。Windowsを最新の状態にするため、Windows Updateを行ってください。

自動更新の設定

本機を使用する際は、自動でWindows Updateが行われるように、自動更新の設定をすることをおすすめします。

自動更新の設定がされていると、次の作業が自動で行われます。

- 重要な更新プログラムのダウンロード（インターネット接続時）
- 重要な更新プログラムのインストール（設定した時刻または設定した時刻より前にシャットダウンする際）

Windowsのセットアップ時に「Windowsを自動的に保護するように設定してください」画面で「推奨設定を使用します」を選択した場合は、自動更新の設定がされています。そのまま使用してください。

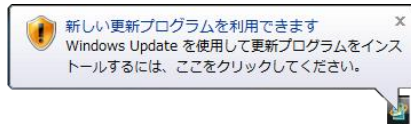
自動更新の設定は、次の場所で行います。

[スタート]－[すべてのプログラム]－[Windows Update]－[設定の変更]



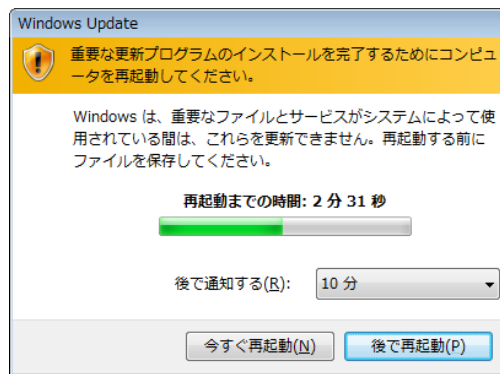
「新しい更新プログラムを利用できます」と表示されたら

重要な更新プログラムがダウンロードされると、画面右下に「新しい更新プログラムを利用できます」と表示されます。すぐに重要な更新プログラムをインストールしたい場合は、通知アイコンをクリックし、インストールをしてください。



再起動を促す画面が表示されたら

重要な更新プログラムのインストールが行われると、再起動を促す画面が表示されることがあります。作業中の場合はデータを保存してください。本機が再起動したら、インストールは完了です。



▶セキュリティソフトウェア

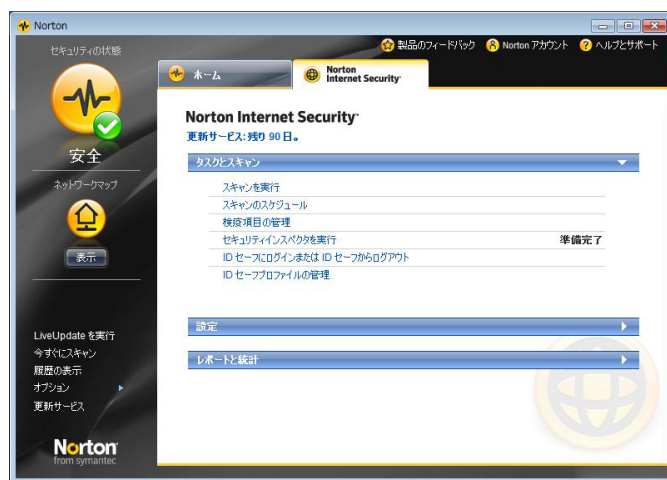
コンピュータウイルスは、インターネット上やメールの添付ファイルなどから感染する悪意のあるプログラムです。

コンピュータウイルスに感染すると、本機の動作が不安定になったり、保存してあるファイルが破壊されるなどの被害が発生します。

ウイルス感染を防ぐために、必ずウイルス対策を行ってください。

Norton Internet Security 90日版を使う

本機には、ファイアウォールやウイルス対策機能、フィッシング詐欺対策機能を備えた「Norton Internet Security 90日版」が添付されています。購入時にNorton Internet Security 90日版はインストールされていませんので、必要に応じてインストールを行ってください。詳しくは、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。



更新サービスの有効期限

本機に添付のNorton Internet Security 90日版は、製品版ではありません。更新サービスの有効期限は、セットアップ後90日間です。90日経過後は、更新サービスの延長キー（有償）を購入すると、1年間使用可能です。更新サービスの詳細は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

市販のセキュリティソフトウェアを使う

市販のセキュリティソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、Norton Internet Security 90日版はインストールしないでください。インストールしていた場合は、アンインストール（削除）してください。アンインストール方法は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

▶ファイアウォール

インターネットに接続していると、不正なアクセスにより、本機のデータやプログラムを勝手に見られたり、改ざんされたり、破壊されたりする可能性があります。「ファイアウォール」は、これらの不正アクセスを検出し、遮断する機能です。不正アクセスを遮断するため、必ずファイアウォール機能を使用してください。

Norton Internet Security 90日版のファイアウォール機能

本機に添付の「Norton Internet Security 90日版」には、ファイアウォール機能が備えられています。Norton Internet Security 90日版のセットアップを行うと、自動的にファイアウォール機能が有効になりますので、そのままお使いください。

Windowsファイアウォールの設定

本機には、Windowsのファイアウォール機能が備えられています。本機の状態によって、Windowsファイアウォールを次のように設定してください。

<ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用している場合>

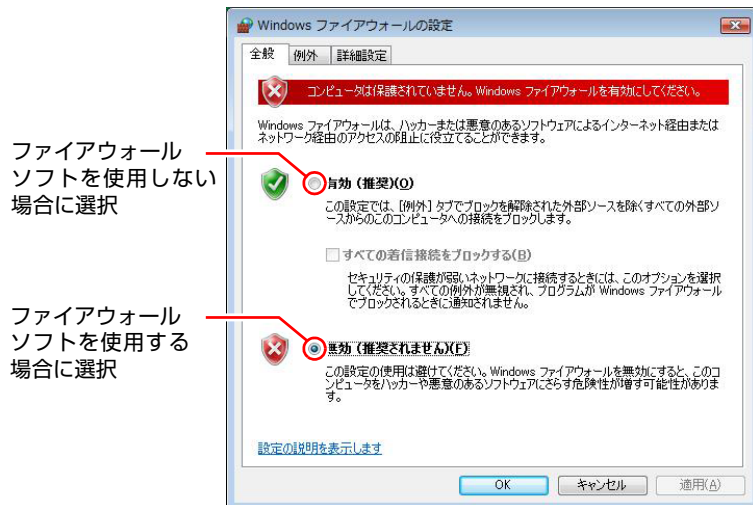
ファイアウォール同士の競合を防ぐため、Windowsファイアウォールを「無効」に設定してください。ソフトウェアによっては、Windowsファイアウォールが自動で「無効」に設定される場合があります。

<ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用しない場合>

Windowsファイアウォールを「有効」に設定してください。

Windowsファイアウォールの有効/無効の設定は、次の場所から行います。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「セキュリティ」 - 「Windows
ファイアウォール」 - 「設定の変更」



▶Windows Defender

Windows Vistaには、スパイウェアやそのほかのマルウェア（悪意のあるソフトウェア）を検出したり、駆除したりするツール「Windows Defender」が備えられています。

「Norton Internet Security 90日版」などのスパイウェア対策機能を持つソフトウェアを使用している場合は、機能が重複するため、Windows Defenderが自動で「無効」に設定される場合があります。この場合は、そのまま使用してください。スパイウェア対策機能を持つソフトウェアなどを使用しない場合は、Windows Defenderを使用してください。

Windows Defenderは次の場所から起動します。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「セキュリティ」 - 「Windows Defender」

▶フィッシング詐欺検出機能

フィッシング詐欺とは、金融機関などのメールやホームページを装い、ユーザーに暗証番号やクレジットカード番号を入力させて、個人情報盗み取る犯罪のことです。

本機には、「フィッシング詐欺検出機能」が搭載されています。セキュリティを守るため、機能を使用してください。

Norton Internet Security 90日版のフィッシング詐欺検出機能

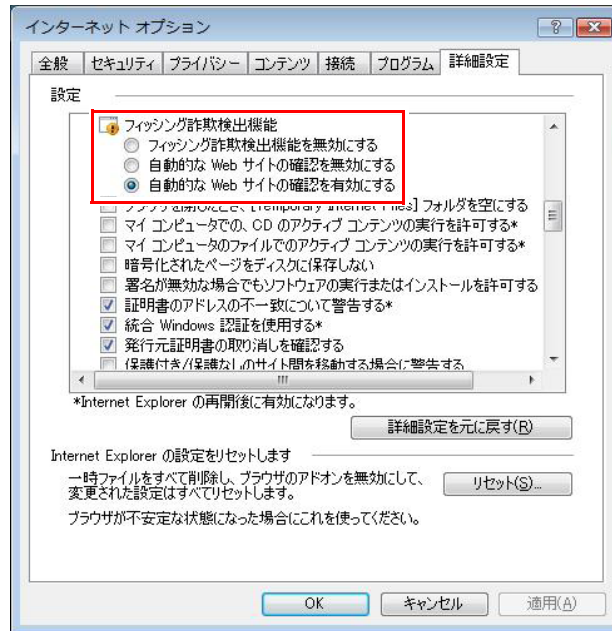
本機に添付のセキュリティソフト「Norton Internet Security 90日版」には、フィッシング詐欺検出機能が備えられています。機能を「有効」にしてお使いください。

Internet Explorerのフィッシング詐欺検出機能

ホームページ閲覧ソフト「Internet Explorer」には、フィッシング詐欺検出機能が備えられています。「Norton Internet Security 90日版」などのフィッシング詐欺検出機能を「有効」にしている場合は、機能が重複するため、Internet Explorerの機能が自動で「無効」に設定される場合があります。そのまま使用してください。フィッシング詐欺検出機能を持つソフトウェアなどを使用しない場合は、Internet Explorerの機能を「有効」に設定してください。

Internet Explorerのフィッシング詐欺検出機能の有効/無効の設定は、次の場所で行います。

Internet Explorerの「ツール」－「フィッシング詐欺検出機能」－「フィッシング詐欺検出機能の設定」－「詳細設定」タブ－「フィッシング詐欺検出機能」



2

▶Webフィルタリングソフトウェア

Webフィルタリングとは、インターネット上の有害なサイトを見せないようにするための技術です。Webフィルタリングは万全ではありません。ただし、有害サイトへのアクセスを自動的に制限することができます。


i-フィルター 30日版を使う

本機には、「Webフィルタリング」機能を持つ「i-フィルター 30日版」が添付されています。

家庭内でお子様がコンピュータを使用する際に、有害なサイトへのアクセスを制限したいときなどは、i-フィルター 30日版を使用することをおすすめします。

i-フィルター 30日版のインストール

購入時、本機にはi-フィルター 30日版はインストールされていません。

インストール方法は、 p.196 「i-フィルター 30日版のインストール」をご覧ください。

市販のWebフィルタリングソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、i-フィルター 30日版はインストールしないでください。

i-フィルター 30日版の使用方法

i-フィルター 30日版をインストールすると、フィルター設定が有効になり、有害サイトにアクセスしようとする、自動的にブロックされます。

初期設定では、フィルター強度は中学生向けです。フィルター強度は、ユーザー別に設定できます。必要に応じて、「フィルタリング設定」画面で設定を変更してください。

「フィルタリング設定」画面の表示方法は、次のとおりです。


1 デスクトップ上の「i-フィルター」アイコンをダブルクリックします。



<i-フィルターアイコン>

「i-フィルター」画面が表示された場合は、ユーザー登録が完了していません。

ユーザー登録を行ってから再度設定を行ってください。

 p.197 「i-フィルター 30日版のユーザー登録」

2 「管理パスワードの入力」画面が表示されたら、管理パスワードを入力して [OK] をクリックします。

3 「i-フィルター」の「トップページ」が表示されたら、「フィルタリング設定」をクリックします。

「フィルタリング設定」画面が表示されます。

i-フィルター 30日版の詳しい使用方法は、ヘルプをご覧ください。





参考

ファイアウォール機能による警告画面が表示された場合はセキュリティソフトウェアのファイアウォール機能を有効にしている場合、インターネット閲覧時に「i-フィルター 30日版」でのインターネットアクセスに関する警告が表示されることがあります。この場合は、「i-フィルター 30日版」の使用を許可してください。

i-フィルター 30日版の利用期限

i-フィルター 30日版の利用期限は、ユーザー登録後30日間です。利用期限が過ぎると、フィルター機能が停止します。

<継続して利用する場合>

継続利用の手続き（有償）をオンラインで行ってください。



p.109 「i-フィルター 30日版のサポート」



制限

本機に添付のi-フィルター 30日版は、「i-フィルター更新パック」で継続利用手続きを行うことはできません。

<継続して利用しない場合>

i-フィルター 30日版のアンインストールを行ってください。

i-フィルター 30日版のアンインストール方法は、デジタルアーツ社のホームページの「よくある質問」をご覧ください。



p.109 「i-フィルター 30日版のサポート」

i-フィルター 30日版のサポート

i-フィルター 30日版のサポートは、デジタルアーツ社で行います。よくあるご質問と回答・サポート窓口・継続利用手続き・サービスページなどについては、デジタルアーツ社の次のホームページをご覧ください。なお、このサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

http://www.daj.jp/cs/ifpe/sup_dl.htm

電源設定を行う(省電力機能を使う)

ここでは、本機の電源の設定について説明します。

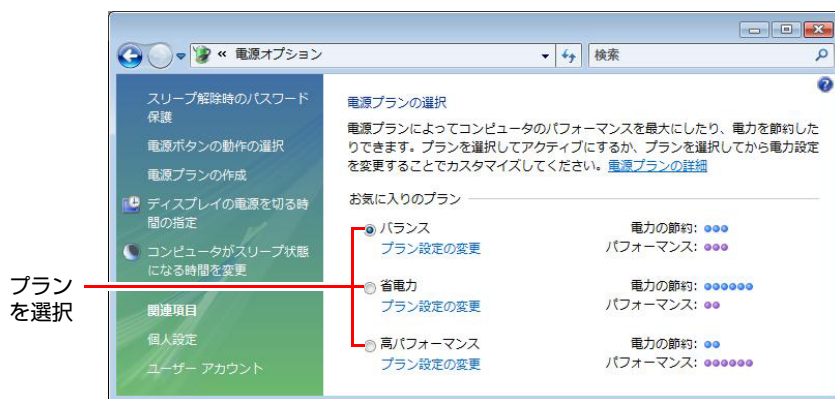
▶電源プランの設定

本機には、次の3つの電源プランが用意されています。電源プランの選択により電力消費を抑えたり、パフォーマンスを優先させたりすることができます。使い方に合わせた電源プランを選択して本機を使用してください。

- バランス
パフォーマンスと電力消費のバランスを考えたプランです。
- 省電力
コンピュータの電力消費を抑えるプランです。パフォーマンスは低下します。
- 高パフォーマンス
電力消費は抑えずに、パフォーマンスを優先させるプランです。

電源プランの選択は、次の場所から行います。

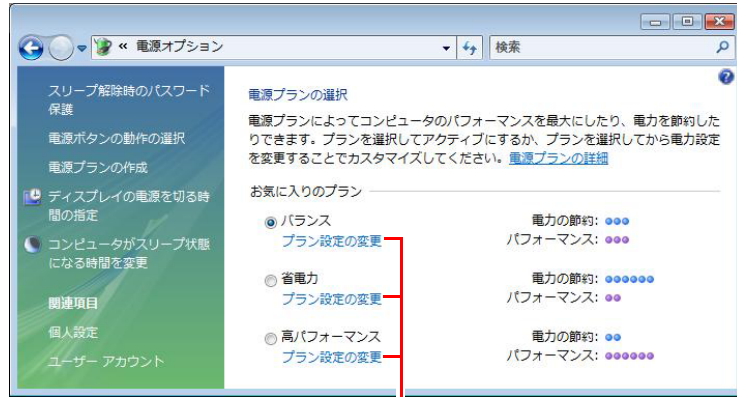
【スタート】 - 「コントロールパネル」 - 「システムとメンテナンス」 - 「電源オプション」



購入時は「バランス」に設定されています。


電源プランの内容変更

電源プランの内容（省電力の設定など）は、変更することができます。変更は、各プランの「プラン設定の変更」から行います。



プラン内容の変更

「プラン設定の変更」では、本機が省電力状態に移行するまでの時間の設定などを行うことができます。

 p.114 「省電力状態に移行する方法」

▶本機を省電力状態にする

本機を使用していない間、省電力状態にしておくと、電力の消費を抑えることができます。ここでは、省電力状態に移行する方法や、省電力状態からの復帰方法について説明します。

省電力状態へ移行する際の注意

省電力状態に移行する際には、次のような制限事項があります。移行する前に、確認して正しくお使いください。

- 省電力状態に移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- 次のような場合は、省電力状態に移行しないことがあります。
 - ・ 周辺機器を接続している
 - ・ ソフトウェアを起動している

- 次のような場合に省電力状態に移行すると、不具合が発生する可能性があります。省電力状態に移行しないように設定してください。



p.114 「時間経過で移行させない」

- 光ディスクメディアへの書き込み時：書き込みに失敗する可能性
 - サウンド機能で録音、再生時：録音や再生が途中で切断される可能性
 - 外部接続記憶装置（USB FDDなど）へのデータ書き込み時：データ破損の可能性
 - ネットワーク機能などを使っての通信時：通信が切断される可能性
 - 動画再生時：コマ落ちしたりソフトウェアの動作が遅くなるなどの現象が発生する可能性
- 次のような場合は、省電力状態から正常に復帰できないことがあります。
 - 省電力状態で周辺機器などの抜き差しを行った場合
 - ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行した場合
 - ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。
 - 再起動する
 - 省電力状態に移行しないように設定する



p.114 「時間経過で移行させない」

省電力状態の種類

省電力状態には、主に次のようなものがあります。


- **ディスプレイの電源を切る**
省電力の効果はスリープ状態より低いですが、通常の状態にすぐに復帰できます。
- **スリープ状態**
作業中の内容を一時的に保存し、コンピュータを低電力の状態にします。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプがオレンジ色に点灯します。通常の状態へは数秒で復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。スリープ状態には次の2つがあり、作業中の内容の保存方法が異なります。
 - **ハイブリッドスリープ（初期値）**
普通のスリープと休止状態を合わせたスリープです。
作業中の内容はメモリとHDDの両方に保存されます。
 - **普通のスリープ**
作業中の内容はメモリのみに保存されます。
- **休止状態**
作業内容をHDDに保存し、コンピュータを低電力の状態にします。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが消灯します。シャットダウン状態からよりも早く通常の状態へ復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。

休止状態を有効にする


本機では、休止状態が無効に設定されています。休止状態を有効にするには設定を行ってください。

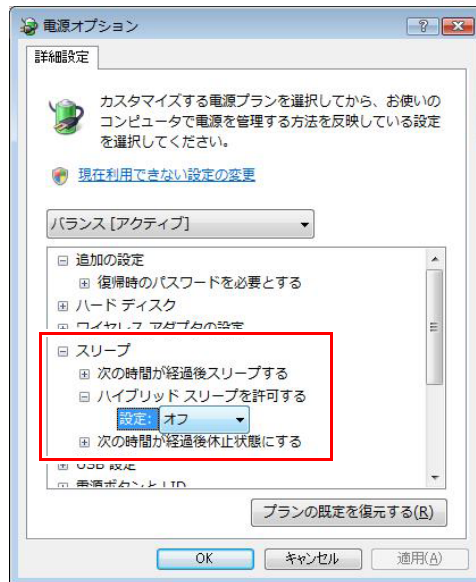


休止状態を有効にすると、スリープ状態がハイブリッドスリープから普通のスリープに変わります。

 p.112 「省電力状態の種類」

休止状態を有効にする方法は次のとおりです。

- 1  p.111 「電源プランの内容変更」で、休止状態を有効にしたいプランの「プラン設定の変更」をクリックし、「詳細な電源設定の変更」をクリックします。
- 2 「スリープ」－「ハイブリッドスリープを許可する」を「オフ」に設定します。
- 3 [OK] をクリックします。



▶省電力状態に移行する方法

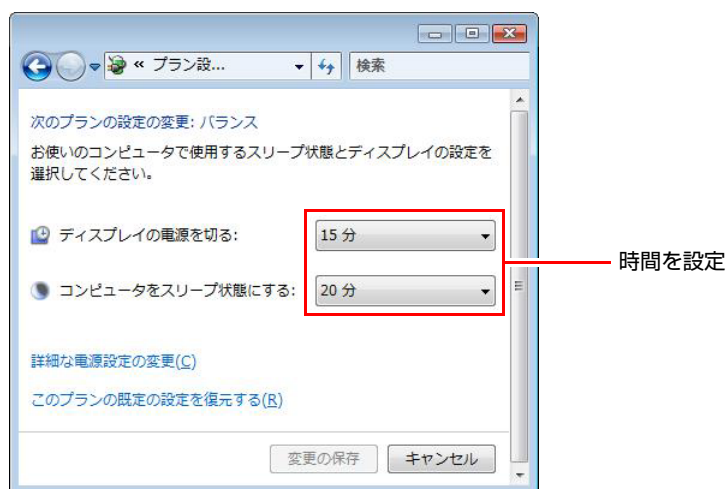
本機を省電力状態にするには、時間経過で移行する方法と直ちに移行する方法があります。

時間経過で移行する

コンピュータを操作しない状態で、「電源プラン」で設定されている時間が経過すると、本機は自動的に省電力状態に移行します。初期値ではまずディスプレイの電源が切れ、そのまま操作しないと続いてコンピュータがスリープ状態になります。

省電力状態に移行する（ディスプレイの電源を切る、コンピュータをスリープ状態にする）までの時間は、次の場所を変更することができます。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとメンテナンス」 - 「電源オプション」 - 各プランの「プラン設定の変更」



時間経過で移行させない

光ディスクメディアへ書き込みを行う場合などは、時間経過で省電力状態に移行する設定を無効にします。時間を全て「なし」に設定してください。

直ちに移行する

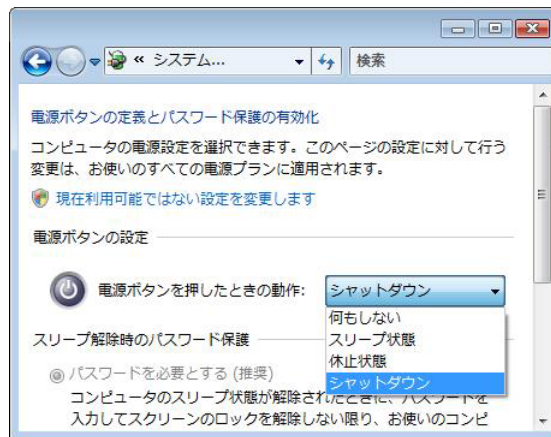
次の操作をすると、本機はすぐに省電力状態に移行します。


操作	省電力状態の種類
[スタート] - [⏻] をクリックする	スリープ状態 (初期値)
キーボードのスリープボタン (Ⓜ) を押す	スリープ状態
[スタート] - [▶] から項目を選択する	スリープ状態、休止状態*、シャットダウン

*購入時は表示されません。

各操作を行ったときに移行する省電力状態の種類は、次の場所を変更することができます。初期値はすべて「スリープ状態」に設定されています。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとメンテナンス」 - 「電源オプション」 - 「電源ボタンの動作の選択」



休止状態を選択したい場合は、 p.113 「休止状態を有効にする」を参照して設定を有効にしてください。

電源ランプの表示

本機の電源の状態は、電源ランプ (④) で確認できます。

電源の状態	電源ランプの表示
通常の状態	点灯（緑色）
ディスプレイの電源が切れている状態	点灯（緑色）
スリープ状態	点灯（オレンジ色）
休止状態	消灯
電源切断時（シャットダウン時）	消灯

省電力状態からの復帰方法

本機を省電力状態から通常の状態に復帰させる方法は、次のとおりです。

省電力状態	電源ランプの表示	復帰方法
ディスプレイの電源が切れている状態	点灯（緑色）	マウスやキーボードを操作する（誤って電源スイッチを押さないでください）
スリープ状態	点灯（オレンジ色）	<ul style="list-style-type: none"> ・電源スイッチを押す ・キーボードを操作またはマウスをクリックする（USB接続の場合のみ）
休止状態	消灯	電源スイッチを押す


そのほかの機能


▶パラレルコネクタ

本機背面にはパラレルコネクタが1個搭載されています。パラレルコネクタには、パラレルコネクタに対応した機器（プリンタやスキャナなど）を接続します。

本機ではパラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を変更してください。

[Advanced] メニュー画面 – [Onboard Devices Configuration]

 p.160 「BIOS Setupユーティリティの操作」


 p.174 「Advancedメニュー画面」


▶シリアルコネクタ

本機背面にはシリアルコネクタが1個搭載されています。シリアルコネクタには、シリアルコネクタに対応した機器（マウスやFAXモデム、ターミナルアダプタなど）を接続します。

本機ではシリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。通常はシリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を変更してください。

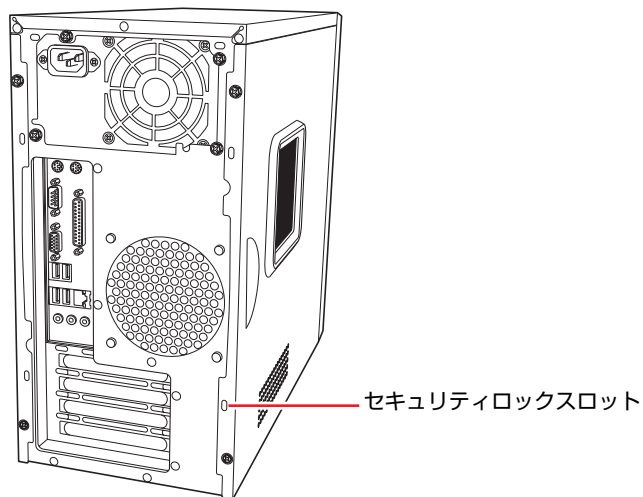
[Advanced] メニュー画面 – [Onboard Devices Configuration]

 p.160 「BIOS Setupユーティリティの操作」

 p.174 「Advancedメニュー画面」

▶セキュリティロックスロット

本機背面には、「セキュリティロックスロット」が搭載されています。ここには、専用の盗難抑止ワイヤーを取り付けます。



当社では、専用の盗難抑止ワイヤーを取り扱っています。詳しくは当社のホームページをご覧ください。

ホームページのアドレスは次のとおりです。

<http://shop.epson.jp/>

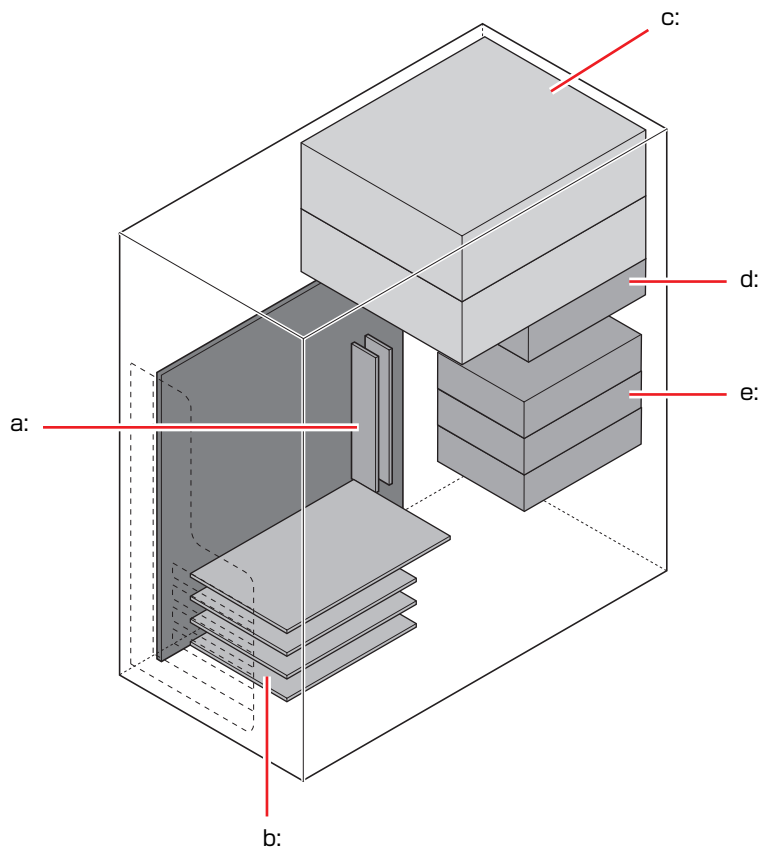
第3章 システムの拡張

装置の増設・交換方法について説明します。

「拡張できる装置」	120
「作業時の注意」	121
「拡張時の準備作業」	122
「メモリの装着」	129
「拡張ボードの装着」	134
「ドライブ装置とコネクタの接続」	139
「3.5型ドライブの装着」	142
「5.25型ドライブの装着」	147
「HDDの装着」	151


拡張できる装置

本機では、次の各部に装置を増設・交換して機能を拡張することができます。ただし、購入時にいくつかの装置がすでに装着されているため、実際に拡張できる装置の数は異なります。



a: メモリスロット


メモリを2枚（最大4GBまで）装着することができます。

 p.129 「メモリの装着」

b: 拡張スロット


次の拡張ボードを装着することができます。

- ・ PCI Express x16ボード 1枚
- ・ PCIボード 3枚

 p.134 「拡張ボードの装着」


c: 5.25型ドライブベイ

5.25型装置（光ディスクドライブなど）を2台装着することができます。

 p.147 「5.25型ドライブの装着」

d: 3.5型ドライブベイ

3.5型の装置（FDDやマルチカードリーダーなど）を1台装着することができます。

 p.142 「3.5型ドライブの装着」

e: HDDベイ

3.5型HDDを3台装着することができます。

 p.151 「HDDの装着」

作業時の注意

本機内部に装置を装着する場合は、必ず次の点を確認してから作業を始めてください。



- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。



- 装置の増設・交換は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- メモリの切り欠きとメモリスロット内の仕切りは、確実に合わせてください。メモリの向きを間違えると、正しく装着できません。間違った状態で使用すると、発煙や発火のおそれがあります。



- 本機から周辺機器を必ず取り外してください。
- 取り付けを行う際は、取り付ける装置に添付されているマニュアルを必ず参照してください。
- 本機内部のケースや基板には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。
- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリや本機に静電気が流れると、基板上の部品が破損するおそれがあります。
- 本機内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリや拡張ボードを持つときは、端子部や素子に触れないでください。破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 固定プラグが確実に閉じていない場合、メモリがしっかりと固定されていない可能性があります。再度、メモリの向きを確認し、固定プラグが確実に閉じるまで、しっかりとメモリを押し込んでください。
- 装置は落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- メモリや拡張ボードの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

拡張時の準備作業

装置の拡張作業を行う場合は次の準備作業が必要です。各装置の拡張手順に従って、必要に応じて作業を行ってください。



作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。
電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。

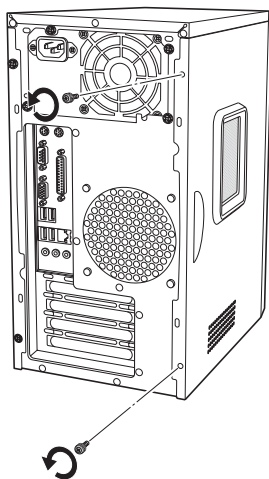
▶ 本体カバーの取り外し・取り付け

本機の内部に装置を装着する場合は、本体カバーを外してください。

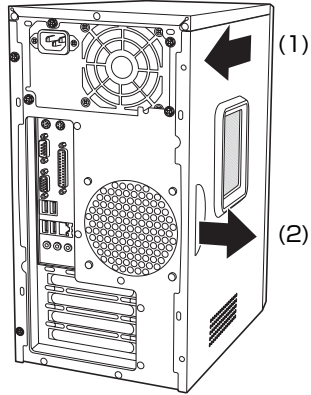
取り外し

本体カバーの取り外し方法は次のとおりです。

- 1** コンピュータ本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体背面右側のネジ（2本）を外します。



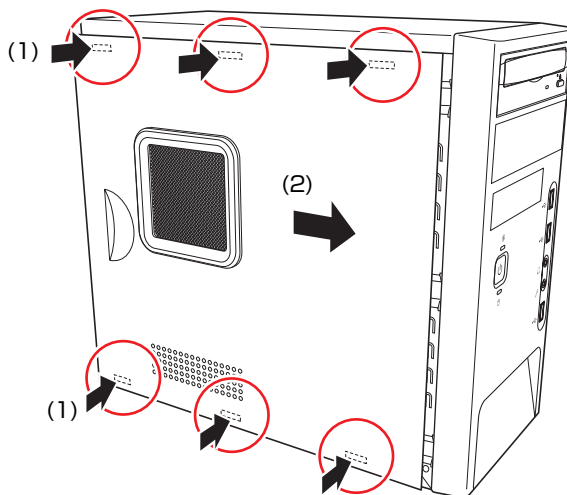
- 4** 本体カバーを取り外します。
- (1) 本体カバーを本体背面側にスライドさせます。
- (2) 本体カバーを横へ外します。



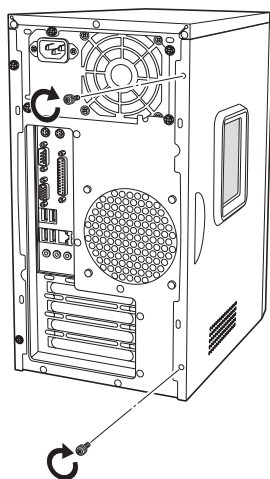
取り付け

本体カバーの取り付け方法は次のとおりです。

- 1 本体カバーを取り付けます。**
 - (1) 本体側面の穴（6個）とカバーの突起（6個）の位置を合わせて、本体カバーを横からはめ込みます。
 - (2) 本体カバーを本体前面側にスライドさせます。



- 2 ネジ（2本）で本体カバーを固定します。**



- 3 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。**

これで本体カバーの取り付けは完了です。


▶フロントパネルの取り外し・取り付け

本機の内部に装着する装置によっては、フロントパネルを取り外す必要があります。

取り外し

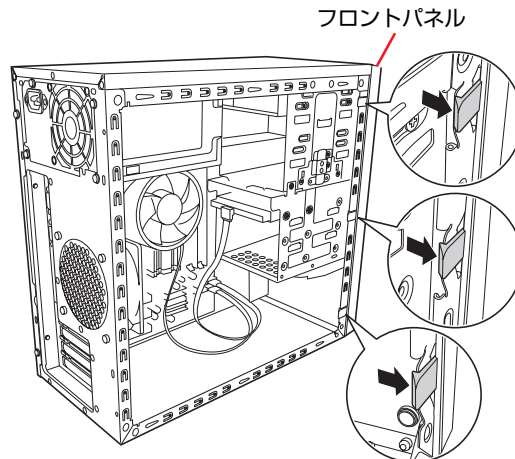
フロントパネルの取り外し方法は次のとおりです。

1 本体カバーを取り外します。

 p.122 「本体カバーの取り外し・取り付け」

2 フロントパネルを取り外します。

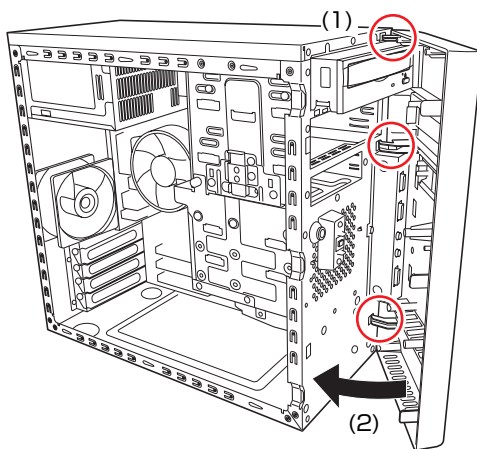
3箇所のフックを上から順に矢印の方向へ押しながら、前面へフロントパネルを押し出します。



取り付け

フロントパネルの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** フロントパネルを取り付けます。
 - (1) フロントパネルのフックを本体前面右側の穴に合わせます。
 - (2) フロントパネルを押し込みます。



▶3.5型フェイスプレートの取り外し・取り付け

3.5型のドライブ装置（FDDやマルチカードリーダーなど）を増設する場合は、3.5型フェイスプレートを取り外します。また、3.5型のドライブ装置を外した後、何も取り付けない場合は、コンピュータ内部にホコリが入らないようにフェイスプレートを取り付けます。

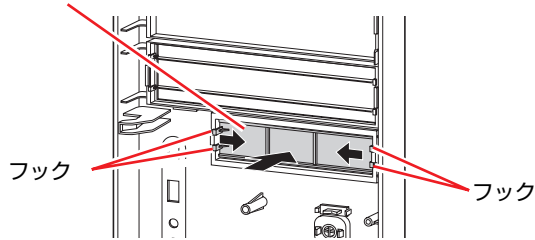
取り外し

3.5型フェイスプレートの取り外し方法は次のとおりです。

- 1 フロントパネルの裏側からフェイスプレート両側のフックを外し、フェイスプレートを押し出します。

外したフェイスプレートは大切に保管してください。

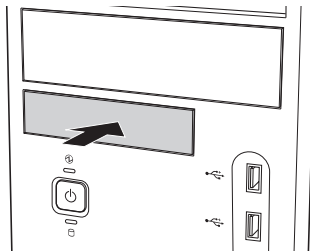
3.5型フェイス
プレート



取り付け

3.5型フェイスプレートの取り付け方法は次のとおりです。

- 1 フロントパネルの表側から、フェイスプレートを押し込みます。



▶5.25型フェイスプレートの取り外し・取り付け

5.25型のドライブ装置（光ディスクドライブなど）を増設する場合は、5.25型フェイスプレートを取り外します。また、5.25型のドライブ装置を外した後、何も取り付けない場合は、コンピュータ内部にホコリが入らないようにフェイスプレートを取り付けます。

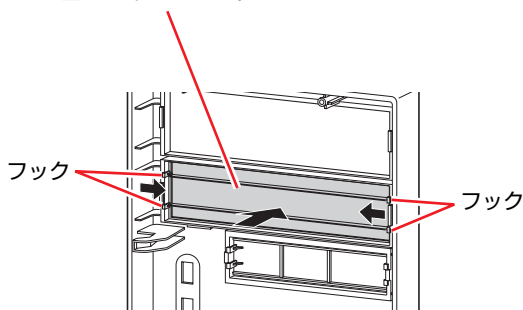
取り外し

5.25型フェイスプレートの取り外し方法は次のとおりです。

- 1 フロントパネルの裏側からフェイスプレート両側のフックを外し、フェイスプレートを押し出します。

外したフェイスプレートは大切に保管してください。

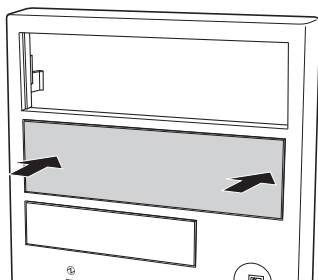
5.25型フェイスプレート



取り付け

5.25型フェイスプレートの取り付け方法は次のとおりです。

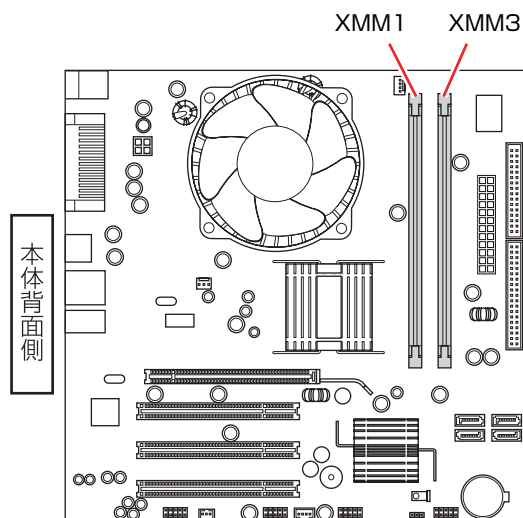
- 1 フロントパネルの表側から、フェイスプレートを押し込みます。



メモリの装着

本機で使用可能なメモリの仕様と、増設・交換方法について説明します。
本機にはメモリスロットが2つあり、メモリを増設・交換することにより拡張が可能です。

マザーボード上のメモリスロットの位置は、次のとおりです。



3

▶メモリの仕様

本機で使用可能なメモリは、次のとおりです。

- PC2-5300 DIMM (DDR2-667 SDRAM使用)
- メモリ容量 512MB、1GB、2GB
- Non ECC
- 240ピン
- CL=5



制限

本機で合計 3GB を超えるメモリを搭載しても、システム上利用できるメモリの最大容量は約 3GB です。

本機でシステム上利用可能なメモリの容量は、「BIOS Setup ユーティリティ」で確認できます。

「Main」メニュー画面－「System Information」－「Usable Size」

 p.159 「BIOS Setup ユーティリティの操作」

 p.172 「Main メニュー画面」

最新メモリ情報

今後、新しいメモリを取り扱う場合があります。

本機で使用可能な最新のメモリは、当社ホームページで確認してください。

ホームページのアドレスは次のとおりです。

<http://shop.epson.jp/>

▶メモリ装着の組み合わせ

本機はデュアルチャネルに対応しているため、同一容量のメモリを2枚1組で装着すると、データ転送速度のパフォーマンスが最大になります。
メモリ装着の組み合わせとメモリの動作は、次のとおりです。

メモリ装着の組み合わせ	メモリの動作
同一容量のメモリ2枚	デュアルチャネルで動作。転送速度最大。
メモリ1枚*	通常の転送速度で動作（シングルチャネル）。




*メモリを1枚で装着する場合は、XMM3スロットに装着してください。

▶メモリの取り付け・取り外し

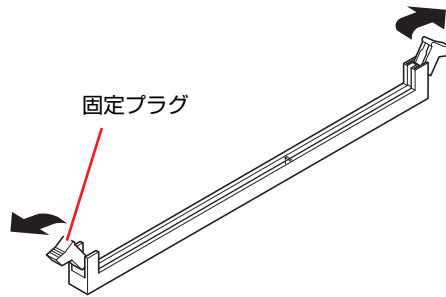
作業を始める前に  p.121 「作業時の注意」を必ずお読みください。

取り付け

メモリの取り付け方法は次のとおりです。

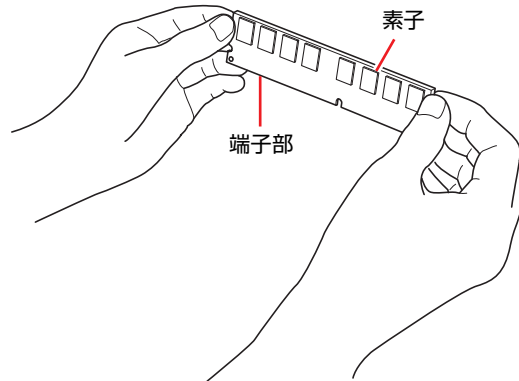
- 1** コンピュータ本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。
 p.122 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4** PCI Express x16スロットに拡張ボードが装着されていて作業の妨げになる場合は、拡張ボードを外します。
 p.135 「拡張ボードの取り付け・取り外し」
- 5** 作業の妨げにならないように、HDDベイを起こします。
 p.151 「HDDの取り付け・取り外し」手順4～6

6 メモリスロットの固定プラグを開きます。



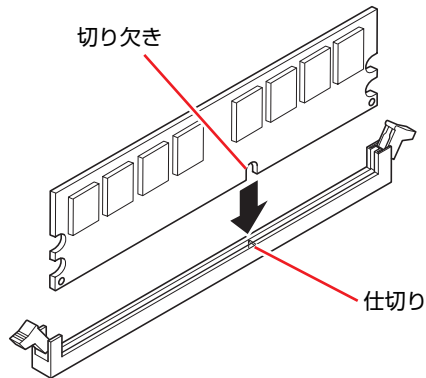
7 メモリを静電防止袋から取り出します。

メモリの端子部や素子に触れないように注意します。



8 メモリスロットにメモリを差し込みます。

(1) メモリの切り欠きをメモリスロット内の仕切りに合わせます。

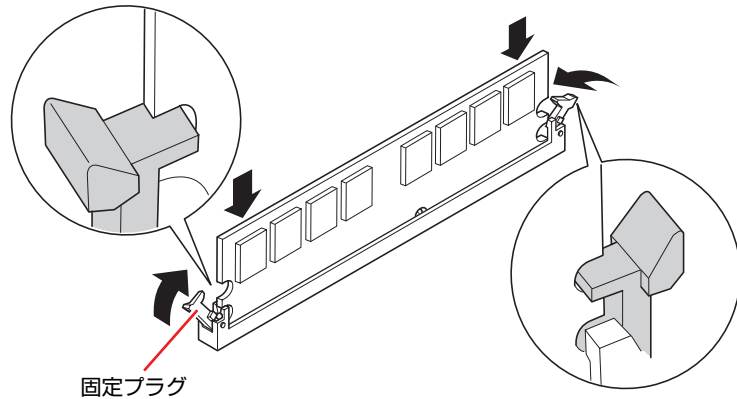


注意

メモリの切り欠きとメモリスロット内の仕切りは、確実に合わせてください。メモリの向きを間違えると、正しく装着できません。間違った状態で使用すると、発煙や発火のおそれがあります。

- (2) メモリを押し込むと、カチッと自動的に固定プラグが閉じてメモリが固定されます。

メモリスロット両端の固定プラグが確実に閉じて、メモリが固定されたことを必ず確認してください。




制限


固定プラグが確実に閉じていない場合、メモリがしっかりと固定されていない可能性があります。

再度、メモリの向きを確認し、固定プラグが確実に閉じるまで、しっかりとメモリを押し込んでください。


- 9** HDDベイを元に戻します。

 p.151 「HDDの取り付け・取り外し」手順10～12

- 10** 手順4で拡張ボードを外した場合は、元どおりに装着します。


 p.135 「拡張ボードの取り付け・取り外し」

- 11** 本体カバーを取り付けます。


 p.122 「本体カバーの取り外し・取り付け」

- 12** コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

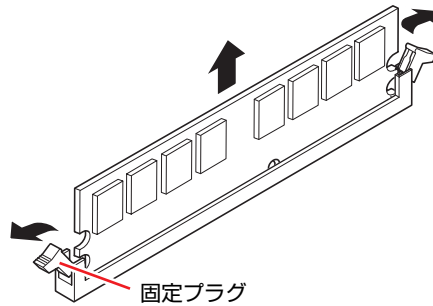
- 13** コンピュータの電源を入れて、メモリの容量を確認します。

 p.133 「メモリの増設・交換後の作業」

取り外し

メモリの取り外しは、 p.130 「取り付け」の手順6～8を次の手順に読み替えて行ってください。




- 1 メモリの両端を固定している固定プラグを開きます。



- 2 メモリが外れたら静かに取り外します。
静電気防止袋に入れて保管してください。
- 3 固定プラグを閉じておきます。

▶メモリの増設・交換後の作業

メモリの増設・交換をしたら、メモリが正しく取り付けられているかどうか、必ずメモリの容量を確認します。
メモリ容量の確認方法は次のとおりです。

- 1 コンピュータの電源を入れたら、 を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。
 p.160 「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 2 「Main」メニュー画面－「System Information」－「Installed Memory」で本機に搭載されている総メモリ容量を確認します。
- 3  を押してBIOS Setupユーティリティを終了します。

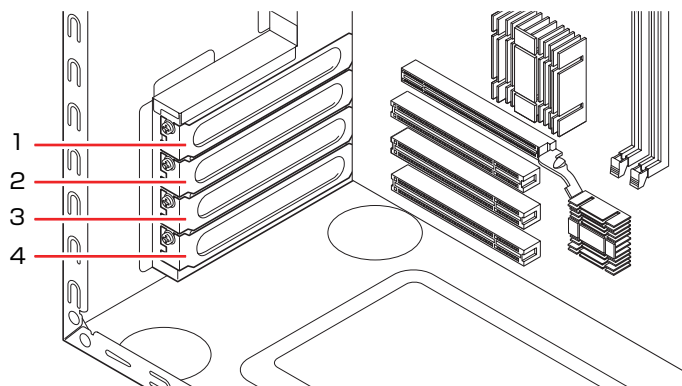
手順2でメモリ容量が正しく表示されない場合は、メモリが正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、メモリを正しく取り付けなおしてください。

拡張ボードの装着

拡張スロットの仕様と、拡張ボードの取り付け・取り外し方法について説明します。

▶ 拡張スロットの仕様

本機には拡張スロットが4つあります。各スロットの仕様は次のとおりです。




スロット番号	コネクタ仕様	装着可能な拡張ボードサイズ
1	PCI Express x16	ボード長230mmまで
2	PCI	ボード長190mmまで
3	PCI	ボード長312mm（フルサイズ）まで
4	PCI	ボード長312mm（フルサイズ）まで

▶ 拡張ボードの取り付け・取り外し




拡張スロットには機器の性能を維持するため鋭いエッジがあります。手を傷つけないように作業してください。

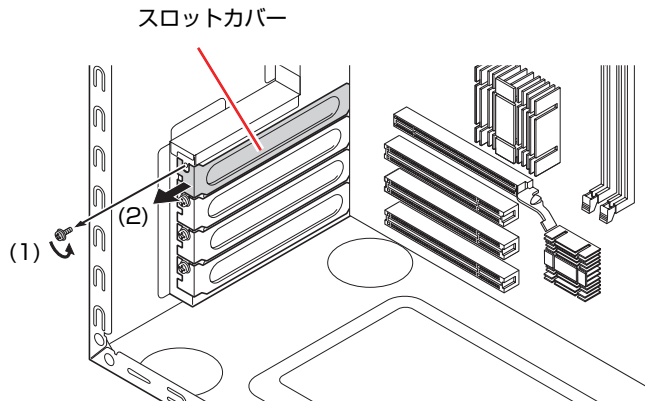
作業を始める前に  p.121 「作業時の注意」と拡張ボードに添付のマニュアルを必ずお読みください。

作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。

取り付け

拡張ボードの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** コンピュータ本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。
 p.122 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4** 拡張ボードを装着するスロットのスロットカバーを外します。
(1) スロットカバーを固定しているネジを外します。
(2) スロットカバーを手前に引き抜きます。



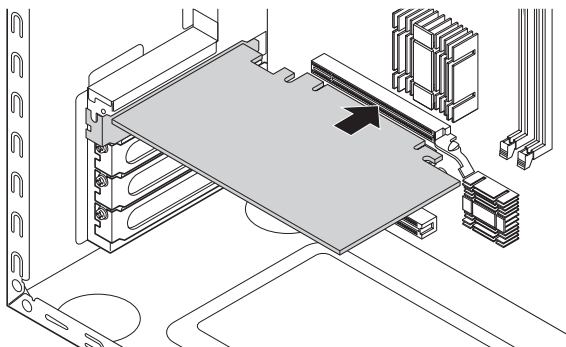
外したスロットカバーは、大切に保管してください。別の拡張ボードを装着しない場合は、本体内部にホコリなどが入らないように、再びスロットカバーを装着します。

5 拡張ボードを取り付けます。

<通常のボードの場合>

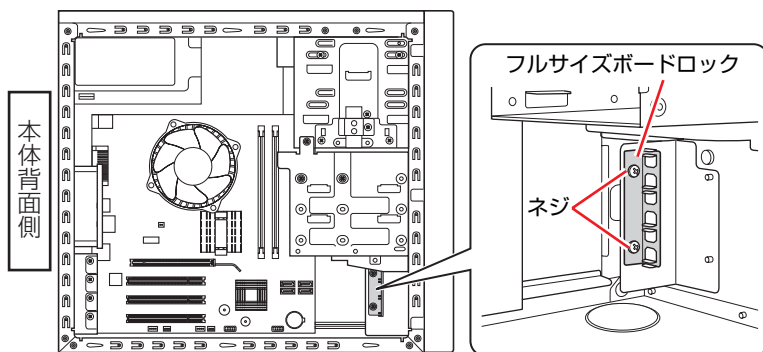
拡張ボードを差し込みます。

拡張ボードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認して、ゆっくり押し込みます。

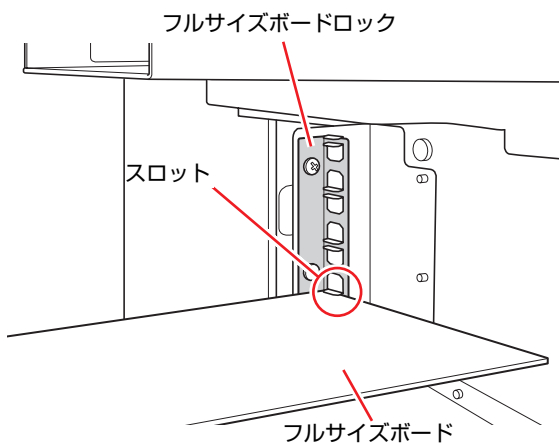


<フルサイズ (312mm) のボードの場合>

(1) フルサイズボードロックのネジ (2本) をゆるめます。



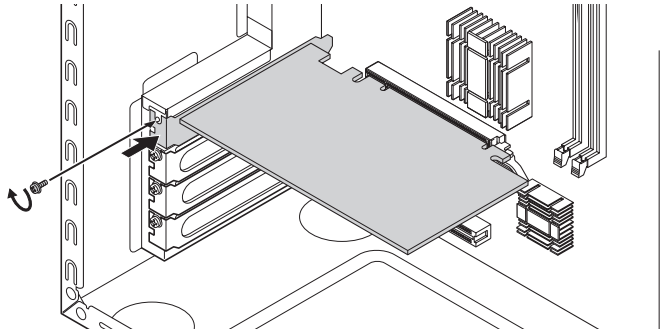
(2) フルサイズボードロックのスロットにボードを差し込み、<通常のボードの場合>と同様に、端子部をコネクタに差し込みます。




(3) フルサイズボードロックのネジ (2本) を締めて固定します。


6 拡張ボードをネジで固定します。

拡張ボードによっては、コンピュータ内部のコネクタとのケーブル接続が必要な場合があります。拡張ボードに添付のマニュアルで確認してください。


**7 本体カバーを取り付けます。**

 p.122 「本体カバーの取り外し・取り付け」

8 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

続いて  p.138 「拡張ボードの取り付け・取り外し後の作業」を行います。

取り外し

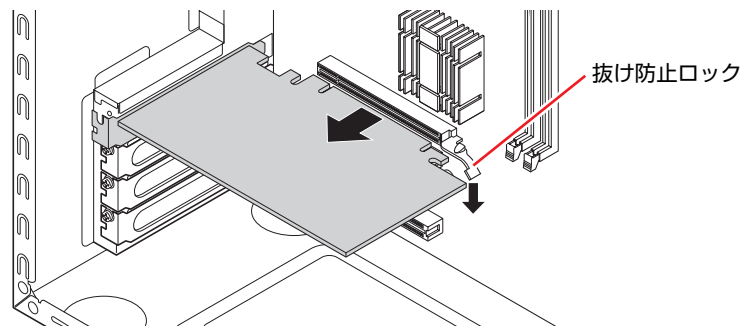
拡張ボードの取り外しは、 p.135 「取り付け」の手順4～6を次の手順に読み替えて行ってください。

1 拡張ボードを固定しているネジを外します。

フルサイズのボードの場合は、フルサイズボードロックのネジ（2本）もゆるめます。

2 拡張ボードを引き抜きます。

PCI Express x16の場合は、抜け防止ロックを下に押しながら、拡張ボードを引き抜きます。



3 拡張ボードを取り外したスロットに別の拡張ボードを装着しないときは、スロットカバーを取り付けておきます。

手順1でフルサイズボードロックのネジ（2本）をゆるめた場合は、ネジを締めおきます。

▶ 拡張ボードの取り付け・取り外し後の作業

拡張ボードの取り付け・取り外しをしたら、次の作業を行ってください。

<ビデオボードの場合>

ビデオボードの取り付け・取り外しをした場合、BIOSなどの設定は必要ありませんが、ボードによってはドライバのインストール、アンインストールが必要です。詳しくはボードに添付のマニュアルをご覧ください。

<サウンドボードの場合>

サウンドボードの取り付け・取り外しを行った場合は、「BIOS Setupユーティリティ」の設定値を次のように変更してください。

「Advanced」メニュー画面－「Onboard Devices Configuration」－「Onboard Audio」

ボード	マザーボード上のサウンド機能
取り付けた場合	Disabled（無効）
取り外した場合	Enabled（有効）

p.159 「BIOS Setupユーティリティの操作」

ボードによってはドライバのインストール、アンインストールが必要です。詳しくはボードに添付のマニュアルをご覧ください。

<ネットワークボードの場合（無線LANボードを除く）>

ネットワークボードの取り付け・取り外しを行った場合は、「BIOS Setupユーティリティ」の設定値を次のように変更してください。

「Advanced」メニュー画面－「Onboard Devices Configuration」－「Onboard LAN」

ボード	マザーボード上のネットワーク機能
取り付けた場合	Disabled（無効）
取り外した場合	Enabled（有効）

p.159 「BIOS Setupユーティリティの操作」

ボードによってはドライバのインストール、アンインストールが必要です。詳しくはボードに添付のマニュアルをご覧ください。

<その他のボードの場合>

拡張ボードによっては作業が必要な場合があります。詳しくはボードに添付のマニュアルをご覧ください。

ドライブ装置とコネクタの接続

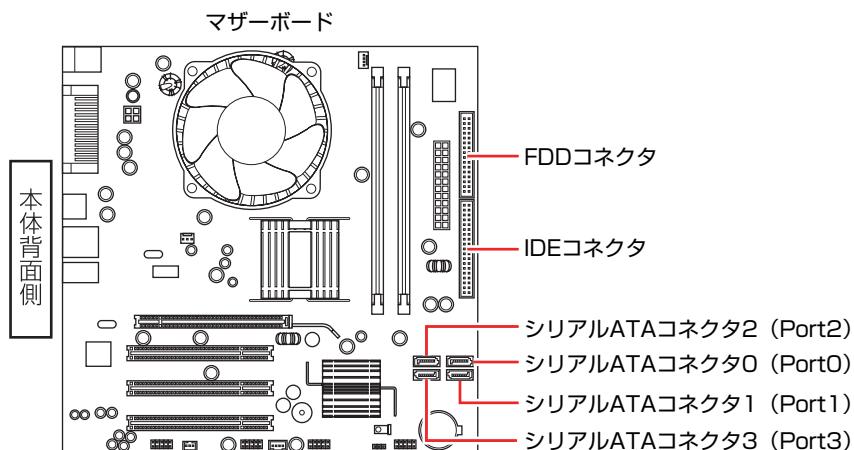
ここでは、マザーボード上のコネクタの仕様とドライブ装置の接続方法について説明します。

▶マザーボード上のコネクタの仕様

本機のマザーボード上で使用できるコネクタは次のとおりです。各コネクタには、それぞれの規格に対応したドライブ装置を接続することができます。

コネクタ	数量	接続できる装置
FDDコネクタ	1個	FDDを1台接続可能
シリアルATAコネクタ	4個	シリアルATA仕様のHDDまたは光ディスクドライブを4台接続可能
IDEコネクタ	1個	IDE仕様のHDDまたは光ディスクドライブを1台または2台（ケーブルによる）接続可能

各コネクタの位置は次のとおりです。



シリアルATAコネクタ

本機のマザーボード上にあるシリアルATAコネクタには、シリアルATA仕様のHDDと光ディスクドライブを合計4台まで接続できます。コネクタの優先順位は、次のとおりです。

順位	コネクタ	接続できる装置
1	シリアルATAコネクタ0 (Port0)	HDD
2	シリアルATAコネクタ1 (Port1)	HDDまたは 光ディスクドライブ
3	シリアルATAコネクタ2 (Port2)	
4	シリアルATAコネクタ3 (Port3)	



制限

Windows は、シリアル ATA コネクタ 0 (Port0) に接続された HDD にインストールしてください。

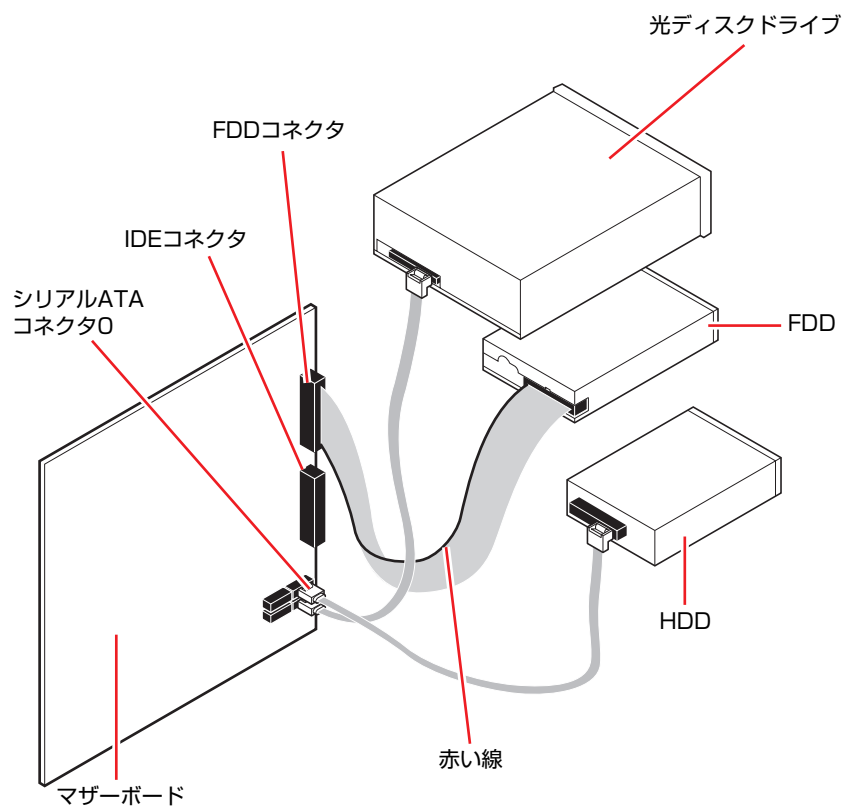
IDEコネクタ

本機のマザーボード上にあるIDEコネクタには、IDE仕様のHDDまたは光ディスクドライブを1台または2台（ケーブルによる）接続できます。本機には、IDEケーブルは添付されていません。

▶ドライブ装置の接続例

マザーボードとの接続

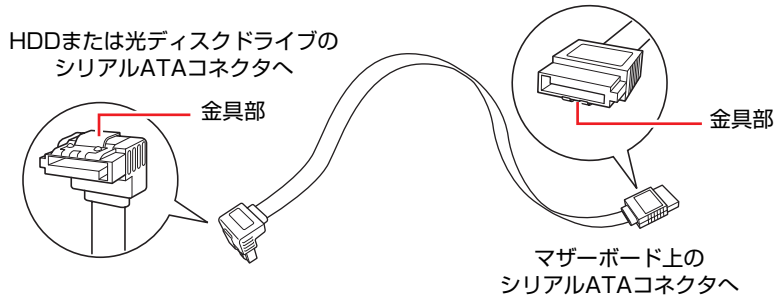
ドライブ装置とマザーボードを接続する一般的な方法は、次のとおりです。ドライブ装置を増設または交換する際には、ドライブ装置に添付のマニュアルもあわせてご覧ください。



シリアルATAケーブル

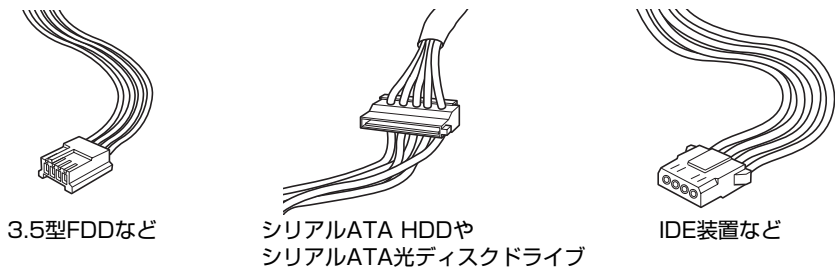
HDDと光ディスクドライブは、マザーボード上のシリアルATAコネクタに「シリアルATAケーブル」で接続します。シリアルATAケーブルは、ケーブル両端の形状と各コネクタの向きを確認して接続してください。

シリアルATAケーブルをコネクタから抜く際は、金具部を押しながら引き抜きます。



周辺機器用電源ケーブル


電源ユニットには、ドライブベイに装着する装置に電源を供給するための周辺機器用電源ケーブルがついています。周辺機器用電源ケーブルの各コネクタの形状と、接続するドライブ装置は次のとおりです。



3.5型ドライブの装着

3.5型ドライブ（FDDやマルチカードリーダーなど）の取り付け・取り外し方法について説明します。





▶3.5型ドライブの取り付け・取り外し

作業を始める前に  p.121 「作業時の注意」と、機器に添付のマニュアルを必ずお読みください。

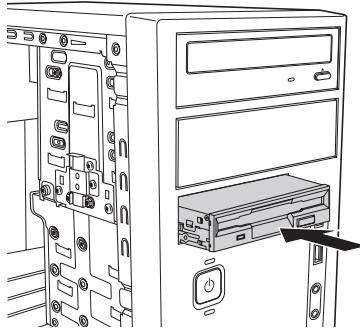
本機には3.5型ドライブ増設用のネジやFDDケーブルは添付されていません。ネジ、ケーブルは当社から購入することができます。『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください、「カスタマーサービスセンター」までご連絡ください。

取り付け

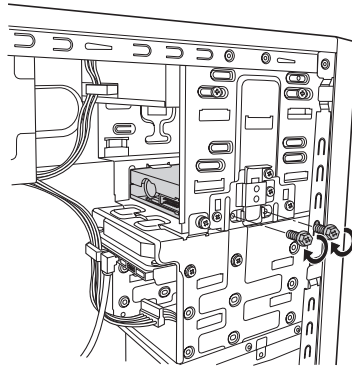
3.5型ドライブの取り付け方法は次のとおりです。ここでは、3.5型のFDDを取り付ける方法を説明します。

- 1** 装着する装置に添付のマニュアルを参照して、装置に対して必要な作業（ジャンプスイッチやディップスイッチの設定など）を行います。
- 2** コンピュータ本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 3** コンピュータ本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 4** 本体カバーを取り外します。
 p.122 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 5** 3.5型フェイスプレートを取り外します。
すでに装着されている装置を交換する場合は、この作業は必要ありません。
 - (1) フロントパネルを取り外します。
 p.125 「フロントパネルの取り外し・取り付け」
 - (2) 3.5型フェイスプレートを取り外します。
 p.127 「3.5型フェイスプレートの取り外し・取り付け」
 - (3) フロントパネルを取り付けます。
 p.125 「フロントパネルの取り外し・取り付け」


6 装置を3.5型ドライブベイに押し込みます。




7 装置のネジ穴をドライブキャリアのネジ穴に合わせて、ネジ（2本）で固定します。

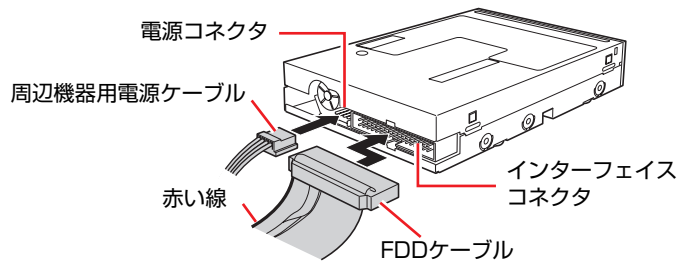


8 作業の妨げにならないように、HDDベイを起こします。

 p.151 「HDDの取り付け・取り外し」手順4～6



9 ケーブル類を接続します。


- (1) 周辺機器用電源ケーブルを装置の電源コネクタに接続します。
- (2) FDDケーブルを装置のインターフェイスコネクタとマザーボード上のFDDコネクタに接続します。
マザーボード上のコネクタ位置は、 p.139 「ドライブ装置とコネクタの接続」で確認してください。




<マルチカードリーダーの場合>


マルチカードリーダーと本機のマザーボードをUSBケーブルで接続します。マザーボードのUSBコネクタ位置は  p.260 「コンピュータ内部のケーブル接続」で確認してください。

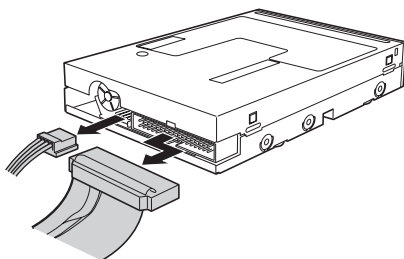
- 10** HDDベイを元に戻します。
 p.151 「HDDの取り付け・取り外し」手順10～12
- 11** 本体カバーを取り付けます。
 p.122 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 12** コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。


続いて  p.146 「3.5型ドライブの取り付け・取り外し後の作業」を行います。

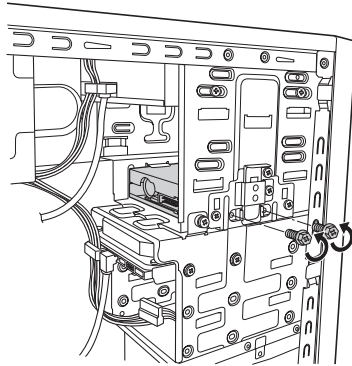
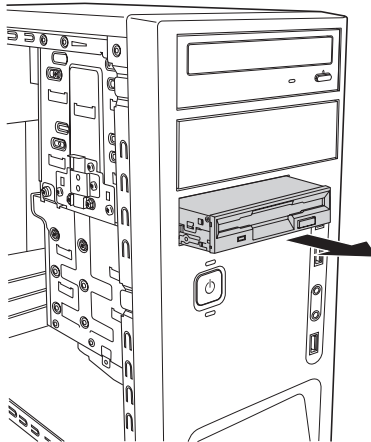
取り外し

3.5型ドライブの取り外しは、 p.142 「取り付け」の手順5～10を、次の手順に読み替えて行ってください。

- 1** 作業の妨げにならないように、HDDベイを起こします。
 p.151 「HDDの取り付け・取り外し」手順4～6
- 2** 装置に接続されているケーブル類とマザーボードに接続されているFDDケーブルを取り外します。



- 3** HDDベイを元に戻します。
 p.151 「HDDの取り付け・取り外し」手順10～12

4 装置を固定しているネジ（2本）を外します。**5** 装置を引き抜きます。**6** 3.5型フェイスプレートを取り付けます。

ほかの装置を取り付ける場合は、この作業は必要ありません。


(1) フロントパネルを取り外します。

 p.125 「フロントパネルの取り外し・取り付け」

(2) 3.5型フェイスプレートを取り外します。

 p.127 「3.5型フェイスプレートの取り外し・取り付け」

(3) フロントパネルを取り付けます。

 p.125 「フロントパネルの取り外し・取り付け」

▶3.5型ドライブの取り付け・取り外し後の作業

3.5型ドライブ（FDDやマルチカードリーダーなど）の取り付け・取り外しを行った場合は、次の作業を行ってください。

<FDDの場合>

FDDの取り付け・取り外しを行った場合は、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を変更してください。

「Main」メニュー画面－「Legacy Diskette A」

状 態	設 定
取り付けた場合	1.44M,3.5in.
取り外した場合	Disabled



p.160 「BIOS Setupユーティリティの操作」



p.172 「Mainメニュー画面」

<マルチカードリーダーの場合>

マルチカードリーダーの取り付け・取り外しを行った場合は、ドライバのインストールが必要な場合があります。詳しくは、マルチカードリーダーに添付のマニュアルをご覧ください。また、FDD付きマルチカードリーダーの取り付け・取り外しを行った場合は、FDDの場合と同様にBIOSの設定を行ってください。


<そのほかの3.5型ドライブの場合>

上記以外の3.5型ドライブの取り付け・取り外しを行った場合は、3.5型ドライブに添付のマニュアルをご覧になり、必要な作業を行ってください。

5.25型ドライブの装着

5.25型ドライブ（光ディスクドライブなど）の取り付け・取り外し方法について説明します。

▶5.25型ドライブの取り付け・取り外し

作業を始める前に  p.121 「作業時の注意」と、「機器に添付のマニュアル」を必ずお読みください。

作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。







本機のマザーボード上で使用できるシリアルATAコネクタは、HDDと光ディスクドライブ合わせて4つです。そのため、HDDを3台装着している場合に装着できる光ディスクドライブは1台のみです。

本機には5.25型ドライブ増設用のネジとケーブルは添付されていません。ネジ、ケーブルは当社から購入することができます。『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、「カスタマーサービスセンター」までご連絡ください。

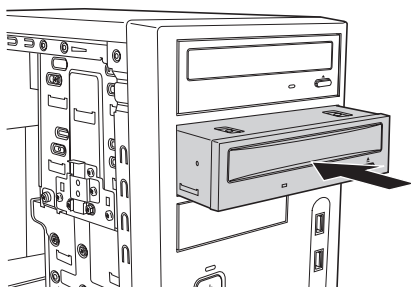
3

取り付け

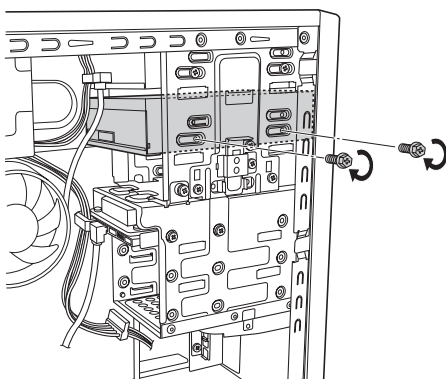
5.25型ドライブの取り付け方法は次のとおりです。ここでは、2台目の光ディスクドライブを取り付ける方法を説明します。

- 1 コンピュータ本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。**
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 コンピュータ本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。**
- 3 本体カバーを取り外します。**
 p.122 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4 5.25型フェイスプレートを取り外します。**
すでに装着されている装置を交換する場合は、この作業は必要ありません。
 - (1) フロントパネルを取り外します。**
 p.125 「フロントパネルの取り外し・取り付け」
 - (2) 5.25型フェイスプレートを取り外します。**
 p.128 「5.25型フェイスプレートの取り外し・取り付け」
 - (3) フロントパネルを取り付けます。**
 p.125 「フロントパネルの取り外し・取り付け」

5 装置を5.25型ドライブベイに押し込みます。

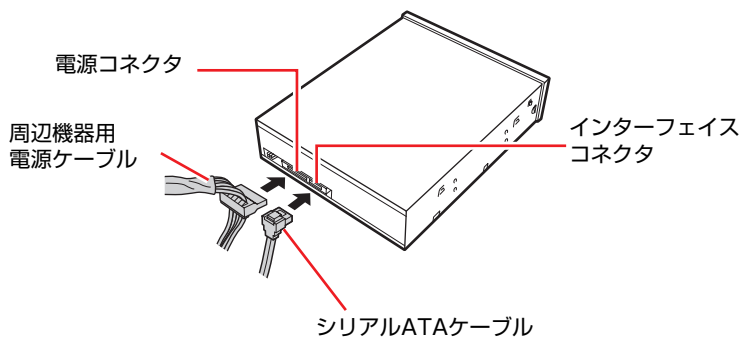


6 装置のネジ穴をドライブキャリアのネジ穴に合わせて、ネジ（2本）で固定します。



7 ケーブル類を接続します。


- (1) 周辺機器用電源ケーブルを電源コネクタに接続します。
- (2) シリアルATAケーブルをドライブ装置のインターフェイスコネクタとマザーボード上のシリアルATAコネクタに接続します。
マザーボード上のコネクタ位置は [p.139](#) 「ドライブ装置とコネクタの接続」で確認してください。




8 本体カバーを取り付けます。

[p.122](#) 「本体カバーの取り外し・取り付け」

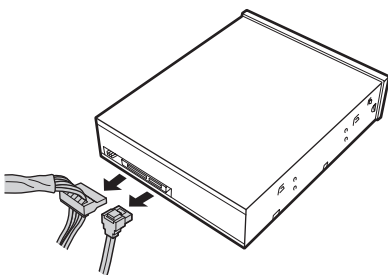
- 9** コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

続いて  p.150 「5.25型ドライブの取り付け・取り外し後の作業」を行います。

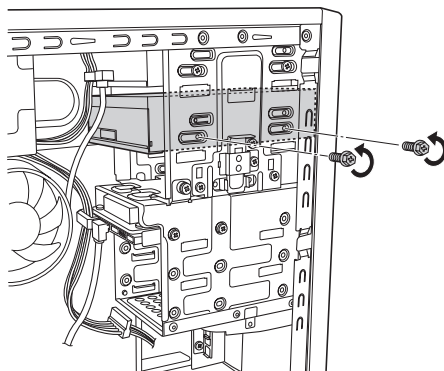
取り外し

5.25型ドライブの取り外しは、 p.147 「取り付け」の手順5～7を、次の手順に読み替えて行ってください。

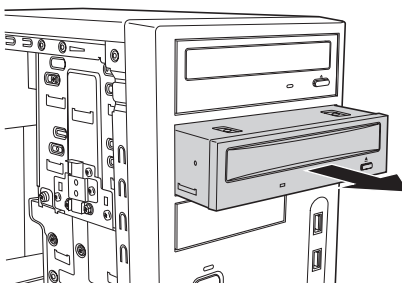
- 1** 装置に接続されているケーブル類とマザーボードに接続されているシリアルATAケーブルを取り外します。



- 2** 装置を固定しているネジ（2本）を外します。



- 3** 装置を引き抜きます。



4 5.25型フェイスプレートを取り付けます。

ほかの装置を取り付ける場合は、この作業は必要ありません。


(1) フロントパネルを取り外します。

 p.125 「フロントパネルの取り外し・取り付け」

(2) 5.25型フェイスプレートを取り付けます。

 p.128 「5.25型フェイスプレートの取り外し・取り付け」

(3) フロントパネルを取り付けます。

 p.125 「フロントパネルの取り外し・取り付け」

▶5.25型ドライブの取り付け・取り外し後の作業

5.25型ドライブの取り付け・取り外しをしたら、次の作業を行ってください。

<光ディスクドライブを取り付けた場合>


光ディスクドライブによっては、ライティングソフトなどのソフトウェアをインストールする必要があります。詳しくは、光ディスクドライブに添付のマニュアルをご覧ください。

このほか、5.25型ドライブによっては作業が必要な場合があります。詳しくは、ドライブに添付のマニュアルをご覧ください。



HDDの装着

HDDの取り付け・取り外し方法について説明します。

▶HDDの取り付け・取り外し

作業を始める前に  p.121 「作業時の注意」と、「機器に添付のマニュアル」を必ずお読みください。




- 本機のマザーボード上で使用できるシリアルATAコネクタは、HDDと光ディスクドライブ合わせて4つです。そのため、光ディスクドライブを2台装着している場合は、装着できるHDDは2台までです。
- HDDへのアクセス制限を設定している場合は、次の項目でアクセス制限を解除してからHDDの増設を行ってください。
「Security」メニュー画面－「Hard Disk Protection」
 p.160 「BIOS Setupユーティリティの操作」
 p.179 「Securityメニュー画面」

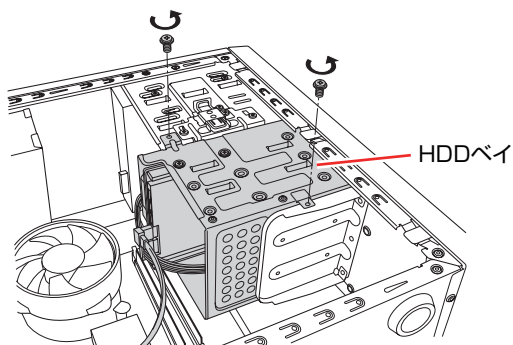
本機にはHDD増設用のネジとケーブルは添付されていません。
ネジ、ケーブルは当社から購入することができます。『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、「カスタマーサービスセンター」までご連絡ください。

取り付け

HDDの取り付け方法は次のとおりです。ここでは、2台目のHDDを取り付ける方法を説明します。

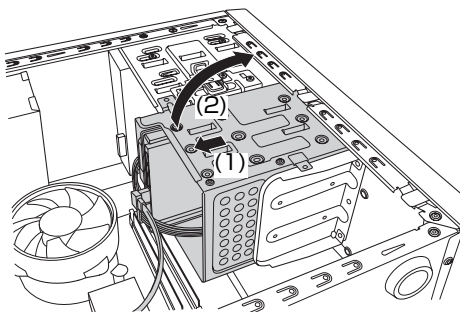
- 1 コンピュータ本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。**
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 コンピュータ本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。**
- 3 本体カバーを取り外します。**
 p.122 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4 作業を行うために、本機を横置きにします。**

5 HDDベイを固定しているネジ（2本）を外します。

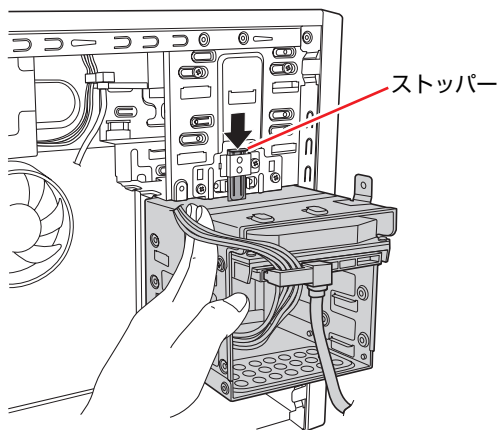


6 HDDベイを起こします。

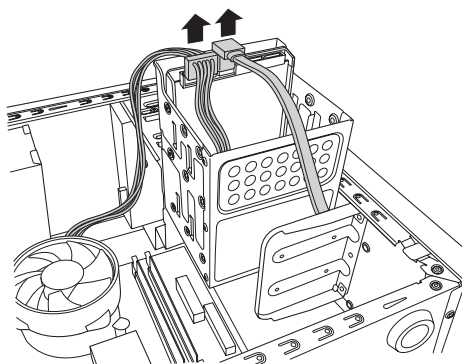
- (1) HDDベイを本体背面側に引っばってずらします。
- (2) HDDベイを本体背面側から90度起こします。



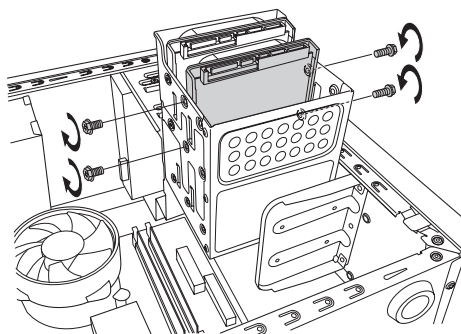
- (3) HDDベイを押さえながら、ストッパーを矢印の方向に押ししてHDDベイを固定します。
ストッパーがHDDベイに差し込まれ、HDDベイが固定されたことを確認して、手を離します。




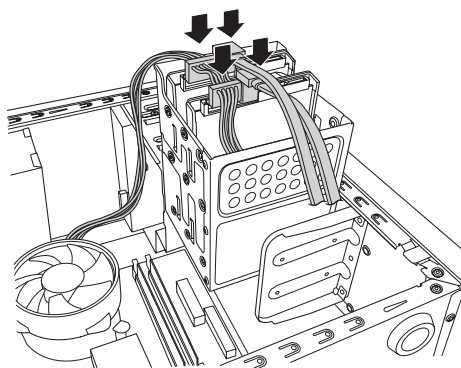
- 7** 作業の妨げにならないように、装着されているHDDに接続されているケーブル類を外します。



- 8** HDDベイにHDDを取り付けます。
- (1) 取り付けるHDDを、装着されている1台目のHDDと同じ向きにし、HDDベイに差し込みます。
 - (2) HDDのネジ穴をHDDベイのネジ穴に合わせて、ネジ（4本）で固定します。

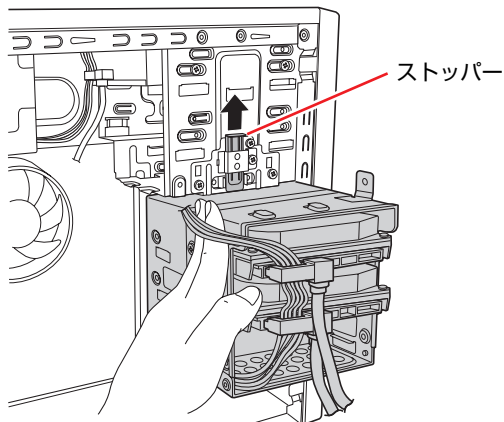


- 9** 手順7で外したケーブル類と取り付けたHDDのケーブル類を接続します。
- (1) 周辺機器用電源ケーブルを、HDDの電源コネクタに接続します。
 - (2) シリアルATAケーブルをHDDのコネクタとマザーボード上のシリアルATAコネクタに接続します。
マザーボード上のコネクタ位置は、 p.139 「ドライブ装置とコネクタの接続」で確認してください。

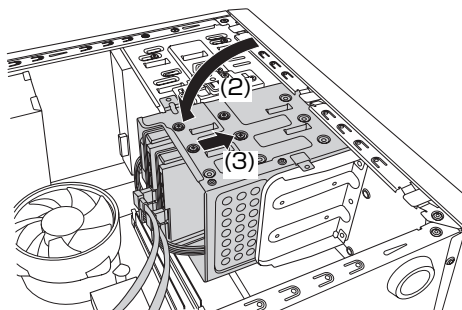


10 HDDベイを元に戻します。

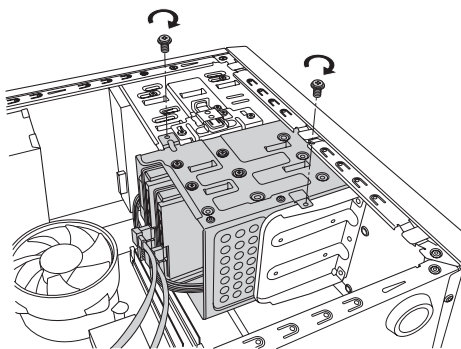
(1) HDDベイを押さえながら、ストッパーを矢印の方向に引いてHDDベイの固定を解除します。



(2) HDDベイをゆっくりと本体背面側に倒します。
(3) HDDベイを本体前面側に押し込みます。




11 本体のネジ穴にHDDベイのネジ穴を合わせて、ネジ（2本）で固定します。




12 本体を縦置きにします。


13 本体カバーを取り付けます。

 p.122 「本体カバーの取り外し・取り付け」

14 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

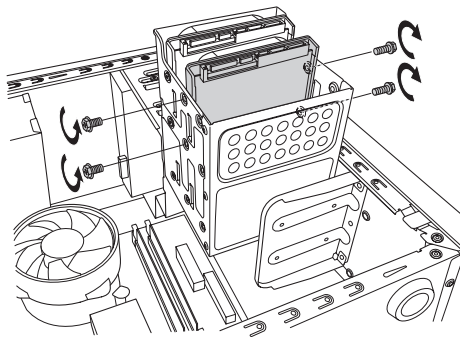
続いて  p.156 「HDDの取り付け・取り外し後の作業」を行います。

取り外し

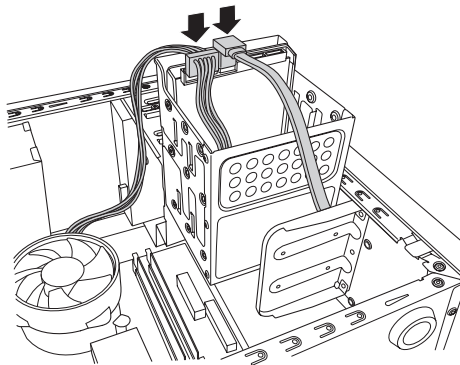
HDDの取り外しは、 p.151 「取り付け」の手順8～9を次の手順に読み替えて行ってください。

1 HDDベイからHDDを取り外します。

HDDベイとHDDを固定しているネジ（4本）を外し、HDDベイからHDDを取り外します。




2 手順7で外したケーブル類を接続します。




▶HDDの取り付け・取り外し後の作業

HDDの取り付け・取り外しをしたら、次の作業を行ってください。


<HDDを取り付けた場合>

HDDを取り付けた場合は、 p.251 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧になり、ドライブの作成を行ってください。

<新しくRAIDを作成する場合>

 p.71 「RAIDの構成・削除・修復」をご覧になり、RAIDの作成を行ってください。

<RAID構成時に破損したHDDを取り替えた場合>

 p.77 「RAIDを修復または再構成する」をご覧になり、RAIDの再構成またはRAIDの修復を行ってください。

<HDDを取り外した場合>

HDDを取り外し、ほかのHDDを取り付けない場合は、シリアルATAケーブルをマザーボードから取り外し、大切に保管してください。

第4章 BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

「BIOSの設定を始める前に」	158
「BIOS Setupユーティリティの操作」	159
「BIOS Setupユーティリティの設定項目」	171

BIOSの設定を始める前に



制限

当社製以外の BIOS を使用すると、Windows が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の BIOS へのアップデートは絶対に行わないでください。

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、マザーボード上にROMとして搭載されています。

BIOSの設定は「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合
- マザーボード上の機能を有効/無効にする場合


BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。

BIOS Setupユーティリティで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。

参考

リチウム電池の寿命


BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。本機の使用状況によって異なりますが、本機のリチウム電池の寿命は約3年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。

 p.255 「リチウム電池の交換」


動作が不安定になったら

設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、次の方法で設定値を戻すことができます。

- 購入時の設定と変更後の設定をあらかじめ記録しておき、手動で戻す
万が一に備え、設定値を記録しておくことをおすすめします。

 p.171 「BIOS Setupユーティリティの設定項目」

- 初期値や、前回保存した設定値に戻す

 p.164 「設定値を元に戻す」

BIOS Setupユーティリティの操作

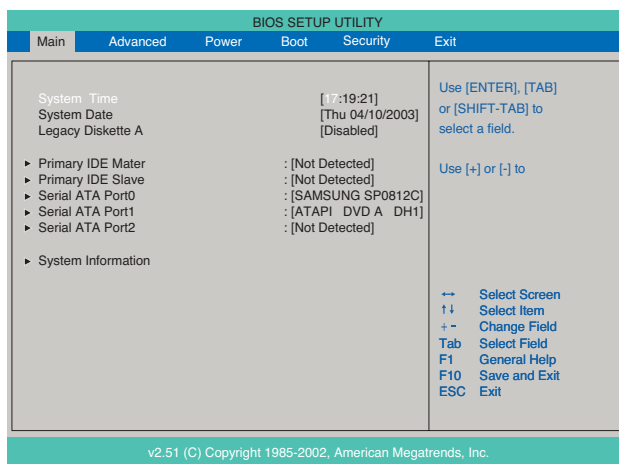
ここでは、「BIOS Setup ユーティリティ」の次の操作方法について説明します。

- 基本操作（起動、操作、終了）
- 設定値を元に戻す
- パスワードを設定する
- HDDアクセス制限
- 起動（Boot）デバイスの順番を変更する

▶ BIOS Setupユーティリティの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの **[Delete]** の位置を確認してください。
手順2ではすばやく **[Delete]** を押す必要があります。

- 1 本機の電源を入れます。**
すでにWindowsが起動している場合は再起動します。
- 2 本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの **[Delete]** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。**
Windowsが起動してしまった場合は、再起動して手順2をもう1度実行してください。
- 3 「BIOS Setupユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。**



<BIOS Setupユーティリティ画面（イメージ）>


仕様が前回と異なるとき

本機の状態が、前回使用していたときと異なる場合は、本機の電源を入れたときに、次のメッセージが表示されることがあります。

CMOS Checksum Bad

Press F1 to Resume または Press F1 to Run SETUP

このメッセージが表示されたら **F1** を押してBIOS Setupユーティリティを起動します。通常は、そのまま「Exit & Save Changes」を実行してBIOS Setupユーティリティを終了します。

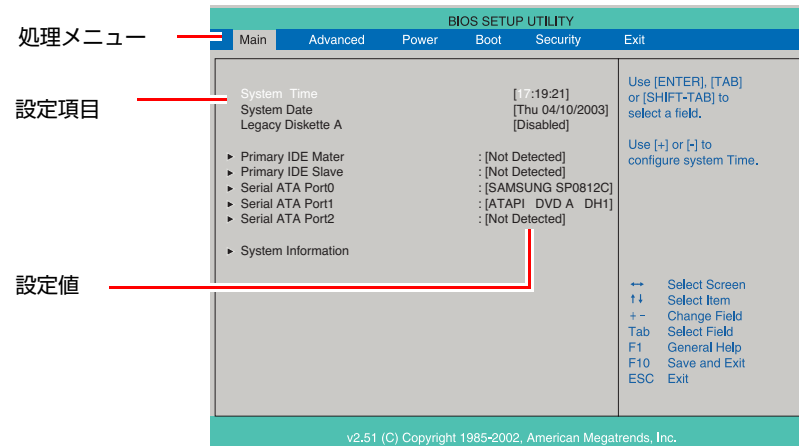
 p.163 「BIOS Setupユーティリティの終了」

▶ BIOS Setupユーティリティの操作


「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

画面の構成

BIOS Setupユーティリティを起動すると次の画面が表示されます。この画面で設定値を変更することができます。



<メニュー画面 (イメージ) >

ここで説明している画面は、イメージです。実際の設定項目とは異なります。各メニュー画面と設定項目の説明は、 p.171 「BIOS Setupユーティリティの設定項目」をご覧ください。

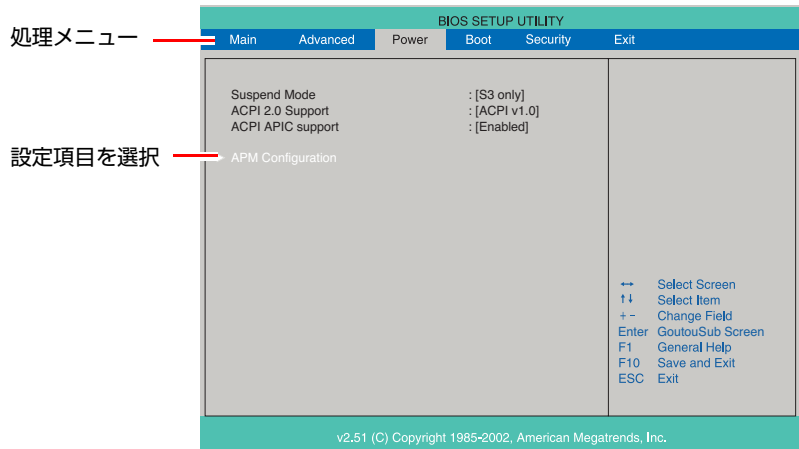
操作方法

BIOS Setupユーティリティの操作方法是次のとおりです。

- 1 処理メニューで設定を変更したい項目のあるメニュー画面に移動し、設定項目を選択します。

→ ← でメニュー間を移動します。

↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。

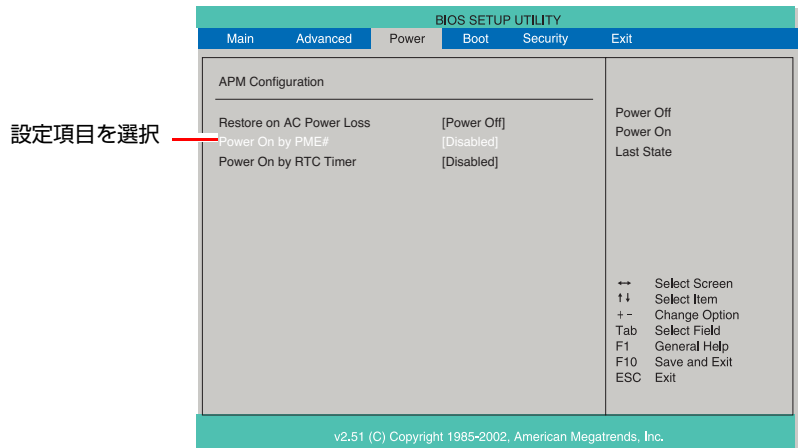


<メニュー画面 (イメージ)>

<▶のある項目の場合>

▶のある項目の場合、↵を押すとサブメニュー画面が表示されます。

↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。

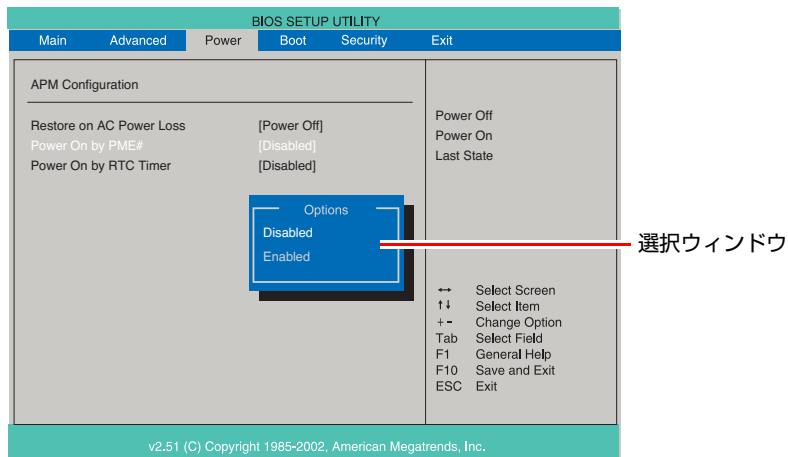


<サブメニュー画面 (イメージ)>

サブメニュー画面から戻するには **Esc** を押します。

2 設定値を変更します。

◀を押して選択ウィンドウを表示し、↑、↓で値を選択し、◀で決定します。



キー操作

BIOSの画面を操作するときは、次のキーを使用します。

キー	操作できる内容
Esc	<ul style="list-style-type: none"> ● 変更した内容を破棄し、終了します。 ● サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
↑, ↓	設定を変更する項目を選択します。
←, →	処理メニューを選択します。
-, +	項目の値を変更します。
◀	<ul style="list-style-type: none"> ● メニュー画面中の▶のある項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ● 選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ● 設定値を選択します。
F5	全設定項目の値を、初期値に変更します。
F10	変更した設定値を保存して終了します。

▶BIOS Setupユーティリティの終了

「BIOS Setupユーティリティ」を終了するには、次の2つの方法があります。

Exit & Save Changes (変更した内容を保存し終了する)

変更した設定値を保存して、BIOS Setupユーティリティを終了します。

- 1 **F10** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Save configuration changes and exit now?	
[Ok]	[Cancel]

- 2 [OK] を選択し、**↵** を押します。

Exit & Discard Changes (変更した内容を破棄し終了する)

変更した設定値を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。

- 1 **Esc** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard configuration changes and exit now?	
[Ok]	[Cancel]

- 2 [OK] を選択し、**↵** を押します。

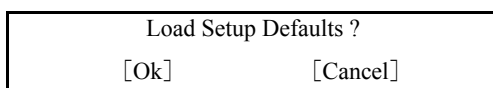
▶設定値を元に戻す

「BIOS Setupユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一、本機の動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Setup Defaults（初期値に戻す）

BIOS Setupユーティリティの設定を初期値に戻す方法は、次のとおりです。

- 1 **F5** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。



- 2 **[Ok]** を選択して、**↵** を押します。

Load Setup Defaults実行後の作業

次の場合は、Load Setup Defaultsを実行したあとに、BIOSの設定値を設定しなおしてください。

<セキュリティチップのセキュリティ機能をお使いの場合>

「Security」メニュー画面－「TPM Function」を「Enabled」に設定します。
マザーボード上のセキュリティチップの機能を有効にします。

<サウンドボードを搭載している場合>

「Advanced」メニュー画面－「Onboard Devices Configuration」－「Onboard Audio」を「Disabled」に設定します。
マザーボード上のサウンド機能を無効にします。

<ネットワークボード（無線LANボードは除く）を搭載している場合>

「Advanced」メニュー画面－「Onboard Devices Configuration」－「Onboard LAN」を「Disabled」に設定します。
マザーボード上のネットワーク機能を無効にします。


<FDDを搭載している場合>

「Main」メニュー画面－「Legacy Diskette A」を「1.44M,3.5in.」に設定します。

<RAID機能を使用している場合>

「Main」メニュー画面－「SATA Configuration」－「Configure SATA as」を「RAID」に設定し、「Onboard SATA BOOTROM」を「Enabled」に設定します。

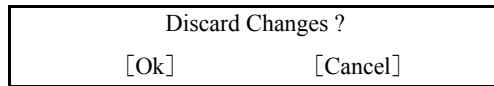
設定を行ったら、変更した内容を保存して終了します。


 p.163 「Exit & Save Changes（変更した内容を保存し終了する）」

Discard Changes (前回保存した設定値に戻す)

BIOS Setupユーティリティを終了せずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。

- 1 「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。



- 2 [OK] を選択して、 を押します。

▶パスワードを設定する

「Security」メニュー画面でBIOSのパスワードを設定すると、BIOSやWindowsの起動時にパスワードを要求されるようになります。


パスワードの設定は、次のような場合に行います。

- 本機を使用するユーザーを制限したいとき
- パスワードを設定しないと使用できない機能を使いたいとき (HDDアクセス制限など)

パスワードの種類


パスワードには次の2種類があります。

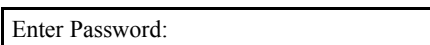
- Supervisor Password (管理者パスワード)
コンピュータの管理者用のパスワードです。管理者パスワードでBIOSにログオンした場合は、すべての項目の閲覧と変更が可能です。
- User Password (ユーザーパスワード)
一般ユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードでBIOSにログオンした場合は、項目の閲覧や変更が制限されます (権限は、設定変更することができます)。

 p.166 「ユーザーパスワードの権限設定」

パスワードの設定方法

パスワードの設定方法は、次のとおりです。管理者パスワードを設定すると、ユーザーパスワードを設定できるようになります。

- 1 「Change Supervisor Password」または「Change User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。




2 パスワードを入力し、を押します。

「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。パスワードとして使用できるのは英数字だけです。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。

パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、を押します。

Confirm Password:

同じパスワードを入力しないと、「Passwords do not match!」というメッセージが表示されます。[Ok] が選択された状態で  を押すと、BIOS のメニュー画面に戻ります。この場合、手順1からやりなおしてください。

4 「Password installed.」というメッセージが表示されたら、[OK] が選択された状態で を押します。

パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」または「User Password」項目の値が「Installed」に変わります。




制限

設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、BIOSの設定変更や、設定によってはWindowsの起動ができなくなります。万一、パスワードを忘れた場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

続いて、「ユーザーパスワードの権限」や「どこでパスワードを要求するか」を決めて設定します。

ユーザーパスワードの権限設定


ユーザーパスワードを設定した場合は、ユーザーパスワードでBIOSにログオンしたときの権限（項目の閲覧や変更に関する制限）を設定します。

 p.179 「Securityメニュー画面」－「User Access Level」

※ 管理者パスワードが設定されていないと権限変更はできません。権限を変更するときは、あらかじめ管理者パスワードを設定しておいてください。

パスワード入力タイミングの設定


BIOS Setupユーティリティ起動時や、Windows起動時など、どのタイミングでパスワードを要求するかを設定します。

 p.179 「Securityメニュー画面」－「Password Check」


※ 管理者パスワードが設定されていないと権限変更はできません。権限を変更するときは、あらかじめ管理者パスワードを設定しておいてください。

管理者パスワードの削除方法


管理者パスワードの削除方法は、次のとおりです。管理者パスワードを削除する場合は、管理者パスワードでBIOSにログオンしてください。

- 1 「Change Supervisor Password」を選択して、を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:


- 2 何も入力せずに、を押すと、次のメッセージが表示されます。

Password uninstalled.
[Ok]


- 3 [Ok] が選択された状態で、を押します。
「Supervisor Password」の表示が「Not Installed」に変わります。
これで管理者パスワードが削除されました。

ユーザーパスワードの削除方法

ユーザーパスワードの削除方法は、次のとおりです。ユーザーパスワードを削除する場合は、管理者パスワードでBIOSにログオンするか、「Security」メニュー画面－「User Access Level」を「Full Access」に設定し、保存してから削除を行ってください。

- 1 「Clear User Password」を選択して、を押すと、次の画面が表示されます。

Clear User Password ?
[Ok] [Cancel]

- 2 [Ok] を選択して、を押します。
「User Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。
これでユーザーパスワードが削除されました。

▶HDDアクセス制限

HDDアクセス制限の設定をすると、次の状態になります。


- BIOS や Windows 起動時、休止状態からの復帰時に管理者パスワードを要求されるようになる
- HDDをほかのコンピュータに接続した場合、認識されないようになる

HDDへの無断アクセスや、万が一HDDが盗難にあった場合の情報流出を防ぎたいときは、HDDアクセス制限の設定をします。

HDDアクセス制限の設定方法


HDDアクセス制限の設定方法は次のとおりです。

1 管理者パスワードを設定します。

 p.165 「パスワードの設定方法」

2 HDDアクセス制限の設定をします。

「Security」メニュー画面 — 「Hard Disk Protection」を「Enabled」に設定します。

 p.179 「Securityメニュー画面」



- パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定したHDDは使用できなくなります。
登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。
- RAID構成時、HDDアクセス制限は使用できません。
- HDDを増設・交換する際は、HDDへのアクセス制限を解除した状態で行ってください。

▶起動（Boot）デバイスの順番を変更する

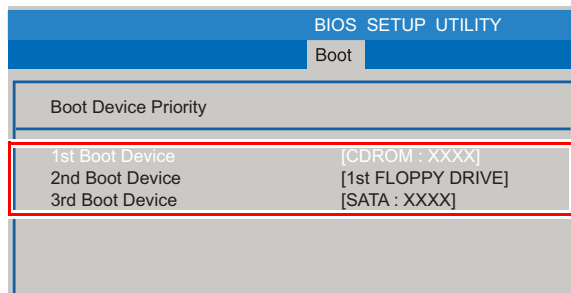
本機の電源を入れて起動しようとしたときに、リムーバブルディスク（USBフラッシュメモリなど）を接続していたり、FDやメモリカードがセットされていると、Windowsが起動しないことがあります。

このような場合、「BIOS Setupユーティリティ」で設定されている起動（Boot）デバイスの順番を変更すると、起動したいデバイスからシステムを起動することができます。

起動（Boot）デバイスの順番とは

電源を入れると、コンピュータは起動デバイスの順番に従ってデバイスを確認し、最初に見つけたシステム（WindowsやOS）から起動します。

起動デバイスの順番の設定は、「Boot」メニュー画面－「Boot Device Priority」で行います。



この順番に
デバイスを
検出して
起動します。

<イメージ>








「Boot Device Priority」に表示されるデバイスは次のとおりです。表示されるデバイスは、システム構成によって異なります。

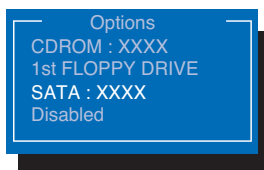
- 1st FLOPPY DRIVE (FDD)
- USB:XXXX (マルチカードリーダー、USB FDDやUSBフラッシュメモリなどの型番)
- SATA:XXXX (接続されているHDDの型番)
- CDROM:XXXX (接続されている光ディスクドライブの型番)
- Network:XXXX (ネットワーク)
- Disabled (検出するデバイスを割り当てないときに設定します)

購入時は、FDD、マルチカードリーダーやリムーバブルディスクの順番がHDDより前に設定されているため、USB機器などのリムーバブルディスクを接続しているとHDD内のWindowsから起動できません。

起動 (Boot) デバイスの順番の変更方法



起動デバイスの順番の変更方法は、次のとおりです。ここではリムーバブルディスクを接続した状態でWindowsを起動できるように、1番目に起動するドライブを光ディスクドライブ、2番目に起動するドライブをHDDに設定する方法を説明します。

- 1 「Boot」メニュー画面で「Boot Device Priority」を選択して  を押します。
- 2 サブメニュー画面が表示されたら、現在の起動の順番を確認します。
- 3 HDDの順番を2番目に設定します。
 - (1)   で「2nd Boot Device」(2番目)を選択し、 を押します。
 - (2) 「選択」ウィンドウが表示されたら、  で「SATA:XXXX」を選択し、 を押します。



<選択ウィンドウ画面>

HDDの順番が2番目になります。

- 4  を押してBIOS Setupユーティリティを終了します。
 p.163 「BIOS Setupユーティリティの終了」
 これで、起動デバイスの変更は完了です。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

ここでは、「BIOS Setupユーティリティ」で設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の6つのメニューがあります。

- **Mainメニュー画面**
日付、時間、HDDなどの設定を行います。
- **Advancedメニュー画面**
CPUに関する設定、I/O関係の動作設定やPCIバス関係の設定などを行います。
- **Power メニュー画面**
省電力機能に関する設定を行います。
- **Bootメニュー画面**
システムを起動するドライブの設定などを行います。
- **Securityメニュー画面**
セキュリティに関する設定を行います。
- **Exitメニュー画面**
BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻したりします。

▶Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日付、時間、HDDなどの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

___は初期値

*は項目表示のみ

System Time (hh:mm:ss)		時刻を設定します。(時間：分：秒)の順で表示されます。
System Date (mm/dd/yy)		日付を設定します。(曜日 月/日/年)の順で表示されます。
Legacy Diskette A		接続しているFDDのタイプを選択します。 <u>Disabled</u> : FDD未接続の場合 1.44M, 3.5in. : 3.5型1.44MB対応FDD搭載の場合
Primary IDE Master Primary IDE Slave SATA0 SATA1 SATA2 SATA3 各ドライブの仕様を設定します。 ※表示される詳細項目は、選択するHDDや光ディスクドライブにより異なります。	*Device	ドライブの名称を表示します。
	*Model name	ドライブの型番を表示します。
	*F/W version	F/Wのバージョンを表示します。
	*Size	HDDの容量を表示します。
	*LBA Mode	LBA (Logical Block Addressing) をサポートしているかどうかを表示します。
	*PIO Mode	ドライブの転送モードを表示します。
	*Ultra DMA Mode	ドライブの転送モードとチャンネルを表示します。
	*Async DMA Mode	ドライブのDMA 転送モードとチャンネルを表示します。
	*SMART Monitoring	S.M.A.R.T (Self Monitoring Analysis and Reporting Technology) をサポートしているかどうかを表示します。
	Type	シリアルATA装置の仕様を設定します。 Not Installed : シリアルATA装置を使用しない場合に選択します。 <u>Auto</u> : BIOSが自動的にシリアルATA装置の仕様を設定します。
	LBA / Large LBA	LBA (Logical Block Addressing) を使用するかどうかを表示します。 Disabled : 使用しません。 <u>Auto</u> : LBAを使用します。
	Block (Multi-Sector Transfer)	一度に何セクタ転送できるかを表示します。 Disabled : 使用しません。 <u>Auto</u> : BIOSが自動的に最適な速度に設定します。
	PIO Mode	ドライブの転送モード (PIO) を設定します。 <u>Auto</u> : BIOSが自動的に最適な転送モードを設定します。 0/1/2/3/4 : 転送モードを設定します。
	DMA Mode	ドライブのDMA転送モードを設定します。 <u>Auto</u> : BIOSが自動的に最適な転送モードを設定します。 SWDMA0 / SWDMA1 / SWDMA2 / MWDMA0 / MWDMA1 / MWDMA2 / UDMA0 / UDMA1 / UDMA2 / UDMA3 / UDMA4 / UDMA5
SMART Monitoring	初期値 [Disabled] のまま使用します。	
32Bit Data Transfer	初期値 [Disabled] のまま使用します。	

SATA Configuration シリアルATA 装置の仕様を設定します。	Configure SATA as	シリアルATA HDDの動作モードを設定します。 Standard IDE :IDE互換モードで動作します。 RAID :RAIDモードで動作します。 AHCI :シリアルATA Nativeモードで動作します。
	Onboard SATA BOOT ROM	「Configure SATA as」で「RAID」に設定すると表示されま す。RAIDからの起動の設定をします。 Enabled : RAIDから起動します。 Disabled: RAIDから起動しません。
System Information 本機の仕様を表示 します。	AMI BIOS	BIOSの情報を表示します。
	*Version	BIOS のバージョンを表示します。
	*Build Date	BIOS のバージョンの制定日を表示します。
	Processor	CPUの情報を表示します。
	*Type	CPUの型番を表示します。
	*Speed	CPUの周波数を表示します。
	*Count	CPUコアの数を表示します。
	System Memory	本機に搭載されているメモリ容量の情報を表示します。
	*Usable Size	本機でシステム上利用可能なメモリ容量を表示します。
*Installed Memory	本機に搭載されている総メモリ容量を表示します。	

▶ Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、CPUに関する設定、I/O関係の動作設定やPCIバス関係の設定などを行います。

設定項目は、次のとおりです。

____は初期値

*は項目表示のみ

CPU Configuration 本機に搭載されているCPUに関する情報を表示します。	*Manufacturer	メーカーを表示します。
	*Brand String	型番を表示します。
	*Frequency	周波数を表示します。
	*FSB Speed	バススピードを表示します。
	*Cache L1	CPUのL1キャッシュ容量を表示します。
	*Cache L2	CPUのL2キャッシュ容量を表示します。
	*Ratio Actual Value	ベースクロックに対する倍率を表示します。
	Virtualization Technology	Intel Virtualization Technologyの有効/無効を設定します。 Virtualization Technologyを持つプロセッサ搭載時のみ表示されます。 <u>Disabled</u> : 無効にします。 Enabled : 有効にします。

Onboard Devices Configuration マザーボード上のデバイスに関する設定をします。	Onboard Audio	マザーボード上のサウンド機能を使用するかどうかを設定します。 <u>Enabled</u> : 使用します。 Disabled : 使用しません。
	Onboard LAN	マザーボード上のネットワーク機能を使用するかどうかを設定します。 <u>Enabled</u> : 使用します。 Disabled : 使用しません。
	Onboard LAN Boot ROM	リモートブート機能の有効/無効を設定します。 <u>Disabled</u> : リモートブート機能を無効にします。 Enabled : リモートブート機能を有効にします。
	Serial Port2 Address	シリアルポートのアドレスとIRQ信号を設定します。 Disabled : シリアルポートを使用しません。 <u>3F8/IRQ4, 2F8/IRQ3, 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3</u>
	Parallel Port Address	パラレルポートが使用するアドレスを設定します。 Disabled : パラレルポートを使用しません。 <u>378/IRQ7, 278/IRQ5, 3BC/IRQ7</u>
	Parallel Port Mode	パラレルポートの動作モードを設定します。接続する周辺装置で指示がある場合のみ変更します。 Normal : 標準の設定です。 <u>Bi-Directional</u> : EPP+ECPモードまたは双方向モードに設定します。 ECP : ECPモードに設定します。 EPP : EPPモードに設定します。
	ECP Mode DMA Channel	「Parallel Port Mode」で[ECP]を選択すると表示されます。 初期値 [DMA3] のまま使用します。
	EPP Version	「Parallel Port Mode」で[EPP]を選択すると表示されます。 初期値 [1.9] のまま使用します。
USB Configuration USBコントローラの設定をします。	*Module Version	BIOSに実装しているモジュールのバージョンを表示します。
	USB Function	初期値 [Enabled] のままで使用します。
	USB 2.0 Controller	USBの転送速度を設定します。 Disabled: USB1.1の転送速度で使用します。 <u>Enabled</u> : USB2.0の転送速度で使用します。
	USB 2.0 Controller Mode	初期値 [HiSpeed] のまま使用します。
	*USB Device	接続されているUSB機器を表示します。
	USB Mass Storage Device Config	外付けUSB機器を接続したり、オプションのマルチカードリーダーにメモ리카ードをセットしたりすると表示されます。各機器の型番を表示します。初期値のまま使用します。

▶ Power メニュー画面

「Power」メニュー画面では、省電力機能に関する設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

___は初期値


*は項目表示のみ

Suspend to RAM		スリープの設定をします。スリープが正常に動作しない場合は「Disabled」に設定してみてください。 Enabled : メモリ以外の電源を切ります。 Disabled : 不必要な電源を切ります。電源ランプは点灯します。電力消費は通常より若干抑えられる程度です。
ACPI 2.0 Support		初期値 [No] のまま使用します。
APM Configuration 起動する方法や条件を設定します。	Restore on AC Power Loss	電源スイッチを押さずに、電源供給時に起動するかどうかを設定します。 分電盤などによる複数のコンピュータの同時起動を行うと、コンピュータの動作に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。 Power Off : 電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。 Power On : 電源オフ時に、電源が供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。 Last State : コンピュータの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断されたあとに電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。コンピュータを正常終了させた状態では、電源が供給されてもコンピュータは起動しません。
	Power On By RTC Alarm	コンピュータを指定した時間に起動させる設定をします。 Disabled : 設定しません。 Enabled : 設定します。
	RTC Alarm Date	「Power On By RTC Alarm」を「Enabled」に設定すると、表示されます。 起動させる日を設定します。
	RTC Alarm Hour	「Power On By RTC Alarm」を「Enabled」に設定すると、表示されます。 起動させる時間を設定します。
	RTC Alarm Minute	「Power On By RTC Alarm」を「Enabled」に設定すると、表示されます。 起動させる分を設定します。
	RTC Alarm Second	「Power On By RTC Alarm」を「Enabled」に設定すると、表示されます。 起動させる秒を設定します。

APM Configuration 起動する方法や条件を設定します。	Power On By PCI Devices	電源切断時、PCI接続のネットワークから起動するかどうかを設定します。この機能は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Enabled：設定します。 <u>Disabled</u> ：設定しません。 Enabled（有効）に設定しているときに、電源コードを抜き、再び接続すると、コンピュータが一瞬起動する場合がありますが、これは不具合ではありません。
	Power On By PCIE Devices	電源切断時、PCI Express接続のネットワークから起動するかどうかを設定します。この機能は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Enabled：設定します。 <u>Disabled</u> ：設定しません。 Enabled（有効）に設定しているときに、電源コードを抜き、再び接続すると、コンピュータが一瞬起動する場合がありますが、これは不具合ではありません。

▶ Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムの起動（Boot）に関する設定を行います。

Bootの順番の変更方法については、 p.169 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」をご覧ください。

設定項目は、次のとおりです。

___は初期値

*は項目表示のみ

Boot Device Priority システムを起動するドライブの順番を設定します。  p.169 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」	1st Boot Device	1番目に起動するドライブを設定します。初期値は光ディスクドライブで、搭載している光ディスクドライブの型番が表示されます。
	2nd Boot Device	2番目に起動するドライブを設定します。搭載、あるいは接続している機器によって、初期値は次のように表示されます。 1st FLOPPY DRIVE : FDD搭載時 USB機器の型番 : USB FDDなどの外付けUSB機器接続時
	3rd Boot Device	3番目に起動するドライブを設定します。初期値はHDDで、搭載しているHDDの型番が表示されます。
	4th Boot Device ※リモートブート機能を有効にすると表示されます。	ネットワークから起動する場合に使用します。 (リモートブート機能を有効にするには、「Advanced」メニュー画面－「Onboard Devices Configuration」の「Onboard LAN Boot ROM」を「Enabled」に設定し、再起動します。)
Hard Disk Drives	1st Device	HDDの型番を自動的に検出して表示します。初期値のまま使用します。
	2nd Device	
	3rd Device	
Removable Devices	1st Device	オプションのFDDや外付けの記憶装置（USB FDDなど）を接続したり、オプションのマルチカードリーダーにメモ리카ードをセットしたりすると型番を自動的に検出して表示します。優先的に起動するデバイスを設定します。
	2nd Device	
Optical Disc Drive	1st Device	搭載している光ディスクドライブの型番が表示されます。初期値のまま使用します。
	2nd Device	
Boot Settings Configuration システム起動時の設定をします。	Full Screen Logo	コンピュータの起動時に、EPSONロゴを表示するかどうかを設定します。 Disabled : ロゴを表示しません。 Enabled : ロゴを表示します。
	Bootup Num-Lock	起動時のNumLockの状態を設定します。 Off : NumLockが押されていない状態にします。 On : NumLockが押された状態にします。




▶ Securityメニュー画面

「Security」メニュー画面では、セキュリティに関する設定を行います。

Security項目のパスワードの設定方法については、 p.165 「パスワードを設定する」をご覧ください。
設定項目は、次のとおりです。

____は初期値

*は項目表示のみ

Security システム起動時や「BIOS Setup ユーティリティ」起動時などのパスワードを設定します。	*Supervisor Password/User Password	Supervisor Password（管理者パスワード）とUser Password（ユーザーパスワード）が設定されているかどうかを表示します。 Installed : パスワードが設定されています。 Not Installed : パスワードが設定されていません。
	Change Supervisor Password	管理者パスワードの設定や変更を行います。設定を行うと、「BIOS Setupユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求されます。  を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
	User Access Level ※管理者パスワードを設定すると表示されます。	「User Password」（ユーザーパスワード）で「BIOS Setupユーティリティ」にアクセスするときのアクセス制限レベルを4段階で設定します。 No Access : ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setupユーティリティ」を起動することができません。 View Only : ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setupユーティリティ」を閲覧できますが、設定項目の変更はできません。 Limited : 「BIOS Setupユーティリティ」を閲覧できるほかに、ユーザーパスワードなど一部の設定項目を変更できます。 Full Access : ユーザーパスワード使用者に管理者と同一の権利を許可します。「BIOSセットアップユーティリティ」のすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。ただし、管理者パスワードの変更はできません。
	Change User Password ※管理者パスワードを設定すると表示されます。	ユーザーパスワードの設定や変更を行います。「BIOS Setupユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求します。  を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
	Clear User Password ※ユーザーパスワードを設定すると表示されます。	ユーザーパスワードを削除します。  を押すと、ユーザーパスワードの削除ウィンドウが表示されます。
	Password Check ※管理者パスワードを設定すると表示されます。	管理者パスワード、ユーザーパスワードを設定している場合に、パスワード入力を要求するタイミングを設定します。 Setup : 「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワード入力を要求します。 Always : 「BIOS Setupユーティリティ」起動時、システム起動時、休止状態から復帰時にパスワード入力を要求します。

Security システム起動時や「BIOS Setup ユーティリティ」起動時などのパスワードを設定します。	TPM Function	セキュリティチップ (TPM) を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
	Clear Trusted Platform Module	「TPM Function」を「Enabled」に設定すると表示されます。セキュリティチップに保存されている情報を初期化します。 * 初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用できなくなります。また、Windows VistaのHDD暗号化機能「BitLocker」を使用している状態で初期化を行うと、Windowsが起動できなくなり、暗号化しているHDD内のデータも使用できなくなります。セキュリティチップの初期化を行う場合は、お客様の責任において十分に注意して行ってください。 初期化する場合は、 <input type="button" value="←"/> を押し、確認画面が表示されたら [Ok] を選択します。情報が初期化され、コンピュータが再起動します。再起動後、「TPM Function」は「Disabled」に設定されます。
	Hard Disk Protection ※管理者パスワードを設定すると設定可能になります。	HDDへのアクセス制限の有効/無効を設定します。アクセス制限を有効に設定したHDDは、ほかのコンピュータに接続しても認識されなくなります。 有効に設定すると、BIOS、システムへのアクセスが制限され、BIOS起動時とシステム起動時、休止状態からの復帰時にパスワード入力を要求します。 Disabled : HDDへのアクセスを制限しません。 Enabled : HDDへのアクセスを制限します。 ※RAID構成時、HDDアクセス制限は使用できません。

▶Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面では、BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。設定項目は、次のとおりです。

Exit & Save Changes	変更した内容 (設定値) を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Exit & Discard Changes	変更した内容 (設定値) を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Setup Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。

▶BIOSの設定値

BIOS Setupユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておく便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Main メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Legacy Diskette A		Disabled	1.44M, 3.5in.	Disabled	1.44M, 3.5in.
SATA0 SATA1 SATA2 SATA3	Type	Not Installed	Auto	Not Installed	Auto
	LBA/Large LBA	Disabled	Auto	Disabled	Auto
	Block (MultiSector Transfer)	Disabled	Auto	Disabled	Auto
	PIO Mode	Auto 0 1 2 3 4		Auto 0 1 2 3 4	
	DMA Mode	Auto SWDMA0 SWDMA1 SWDMA2 MWDMA0 MWDMA1 MWDMA2 UDMA0 UDMA1 UDMA2 UDMA3 UDMA4 UDMA5	Auto SWDMA0 SWDMA1 SWDMA2 MWDMA0 MWDMA1 MWDMA2 UDMA0 UDMA1 UDMA2 UDMA3 UDMA4 UDMA5	Auto SWDMA0 SWDMA1 SWDMA2 MWDMA0 MWDMA1 MWDMA2 UDMA0 UDMA1 UDMA2 UDMA3 UDMA4 UDMA5	
SATA Configuration	Configure SATA as	Standard IDE	RAID AHCI	Standard IDE	RAID AHCI
	Onboard SATA BOOT ROM	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Advanced メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
CPU Configuration	Virtualization Technology	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Onboard Devices Configuration	Onboard Audio	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Onboard LAN	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Onboard LAN Boot ROM	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Serial Port2 Address	Disabled 3F8/IRQ4 2F8/IRQ3 3E8/IRQ4 2E8/IRQ3	Disabled 3F8/IRQ4 2F8/IRQ3 3E8/IRQ4 2E8/IRQ3	Disabled 3F8/IRQ4 2F8/IRQ3 3E8/IRQ4 2E8/IRQ3	
	Parallel Port Address	Disabled 378/IRQ7 278/IRQ5 3BC/IRQ7		Disabled 378/IRQ7 278/IRQ5 3BC/IRQ7	
	Parallel Port Mode	Normal ECP	Bi-Directional EPP	Normal ECP	Bi-Directional EPP
USB Configuration	USB 2.0 Controller	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Power メニュー画面

項目		購入時の設定			変更内容	
Suspend to RAM		Disabled	Enabled		Disabled	Enabled
APM Configuration	Restore on AC Power Loss	Power Off	Power On	Last State	Power Off	Power On Last State
	Power On By RTC Alarm	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled
	Power On By PCI Devices	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled
	Power On By PCIE Devices	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled

Boot メニュー画面

項目		購入時の設定			変更内容	
Boot Device Priority	1st Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	2nd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	3rd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	4th Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
Boot Settings Configuration	Full Screen Logo	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled
	Bootup Num-Lock	Off	On		Off	On
Security	Supervisor password	Installed	Not Installed		Installed	Not Installed
	User password	Installed	Not Installed		Installed	Not Installed
	*User Access Level	No Access Limited	View Only FullAccess		No Access Limited	View Only FullAccess
	*Password Check	Setup	Always		Setup	Always
	TPM Function	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled
	*Hard Disk Protection	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled

* 管理者パスワードを設定すると表示されます。

第5章 ソフトウェアの 再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

「再インストールする前に必ずお読みください」	184
「ソフトウェアの再インストールを行う」	186

再インストールする前に必ずお読みください

ここでは、ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。

HDDをフォーマットして、Windowsや本体ドライバなどをインストールしなおす作業のことを、本書では「再インストール」と記載します。

再インストールは「リカバリ」とも言います。


▶再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

- なんらかの原因でWindowsが起動しなくなり、修復しても問題が解決できない場合
- HDD領域の構成を変更したい場合

Windowsを修復する

なんらかの原因でWindowsが起動しなくなった場合は、再インストールを行う前に「Windows回復環境」でWindowsの修復を行ってみてください。再インストールをしなくても、問題が解決する場合があります。

 p.236 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」

▶重要事項


再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

当社製以外のBIOSへのアップデート禁止

当社製以外のBIOSへのアップデートは絶対にしないでください。当社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。

セキュリティソフトウェアの更新サービス

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」で、90日経過後に更新サービスの延長キーを購入して更新サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新サービスの延長が無効になります。更新サービスの延長が無効になってしまった場合は、シマンテックストアまでお問い合わせください。

 『セキュリティソフトウェアをご使用前に』（別冊）

Webフィルタリングソフトウェアの継続利用

本機に添付のWebフィルタリングソフトウェア「i-フィルター 30日版」で継続利用手続きを行っている場合、Windowsを再インストールすると利用期限が30日に設定されてしまいます。

この場合は、デジタルアーツ社のホームページから最新版を入手し、契約済みのシリアルIDを利用してインストールを行ってください。

詳細は、デジタルアーツ社にお問い合わせください。

http://www.daj.jp/cs/ifpe/sup_dl.htm

最新の情報

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業をすすめてください。

マニュアルびゅーわのバックアップ

電子マニュアル閲覧ツール「マニュアルびゅーわ」は、再インストールをすると消えてしまいます。

再インストールの前に、必ずバックアップをとってください。



p.244 「マニュアルびゅーわのバックアップ」

ソフトウェアの再インストールを行う

ここでは、ソフトウェアの再インストール方法について記載しています。


▶必要なメディア

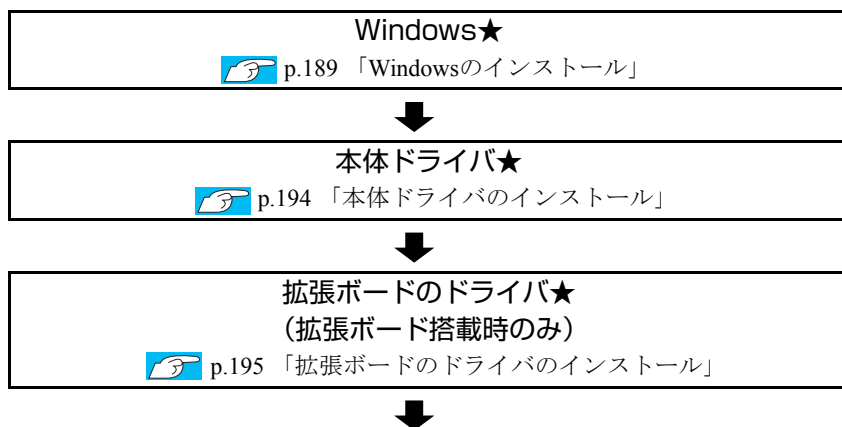
再インストールには、次のメディアが必要です。

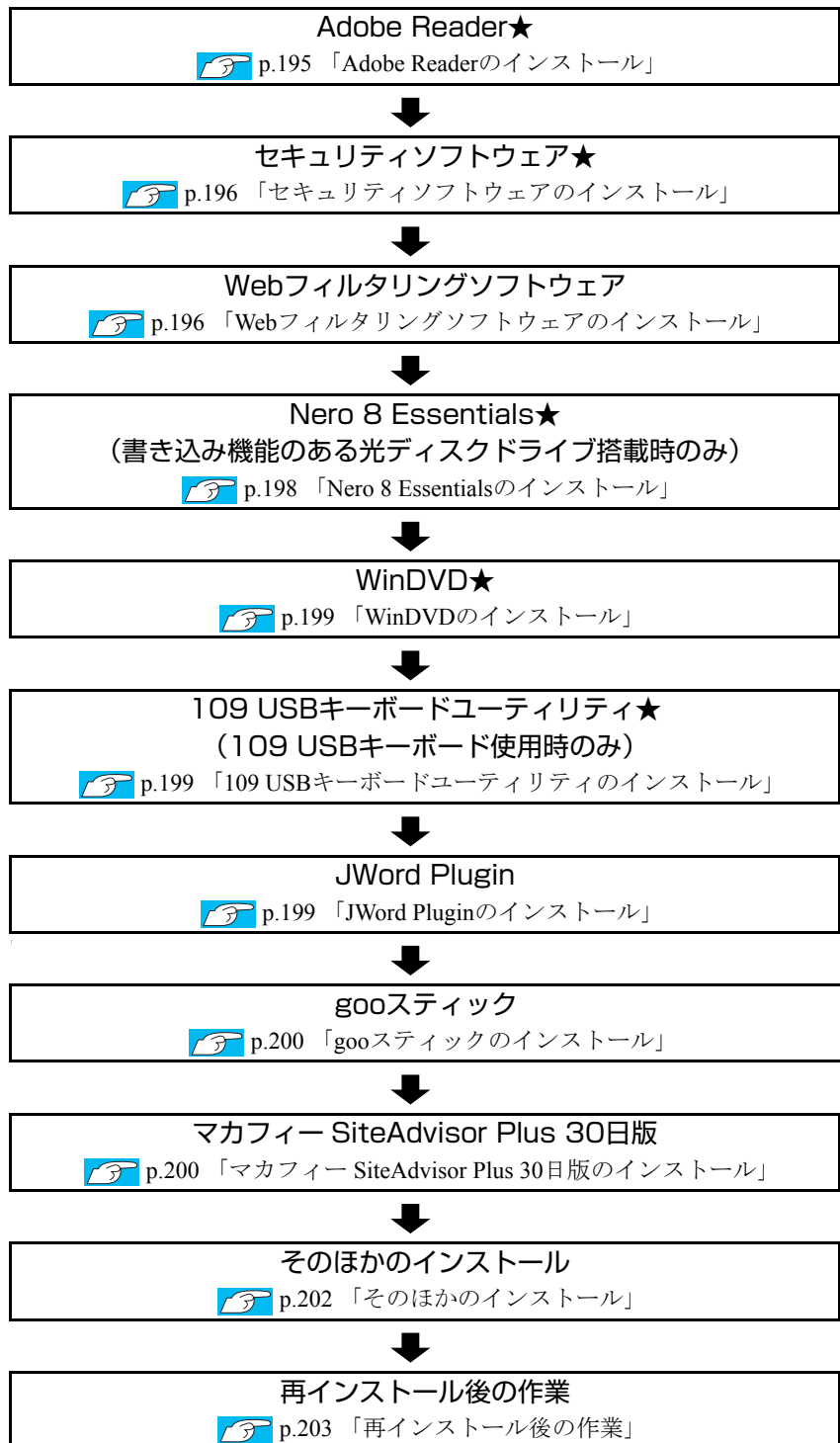
- Windows VistaリカバリDVD
Windows Vistaが収録されているDVD-ROMです。
- ドライバCD
各種デバイスドライバ、Adobe Reader、セキュリティソフトウェアなどが収録されているCD-ROMです。
- Nero 8 Essentials CD-ROM (書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ)
光ディスクドライブのライティングソフトウェアが収録されているCD-ROMです。
- WinDVD CD-ROM
DVD VIDEOを再生するソフトウェアが収録されているCD-ROMです。
DVD-ROMドライブを搭載している場合、購入時の選択によっては添付されていません。
- 109 USBキーボードユーティリティ CD (109 USBキーボード使用時のみ)
109 USBキーボードのホットキーを使用するためのユーティリティが収録されているCD-ROMです。
- そのほか必要なメディア
お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

▶インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。★が付いているソフトウェアは必ずインストールしてください。

購入時のインストール状態は、 p.22 「添付されているソフトウェア」で確認してください。





▶インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点をご確認ください。

管理者 (Administrator) のアカウントでログオン

インストール作業は、管理者 (Administrator) のアカウントでログオンして行ってください。

システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。


ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。
光ディスクドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ	: FDD (オプション)
Cドライブ	: HDD
Dドライブ	: 光ディスクドライブ

各種設定やデータのバックアップ

再インストールを行うと、設定した事項が元に戻ってしまったり、データが消去されたりします。再インストールを行う前に必要に応じて設定を書き写したり、データのバックアップを行っておいてください。

 p.190 「バックアップを取る」


初期設定ツール

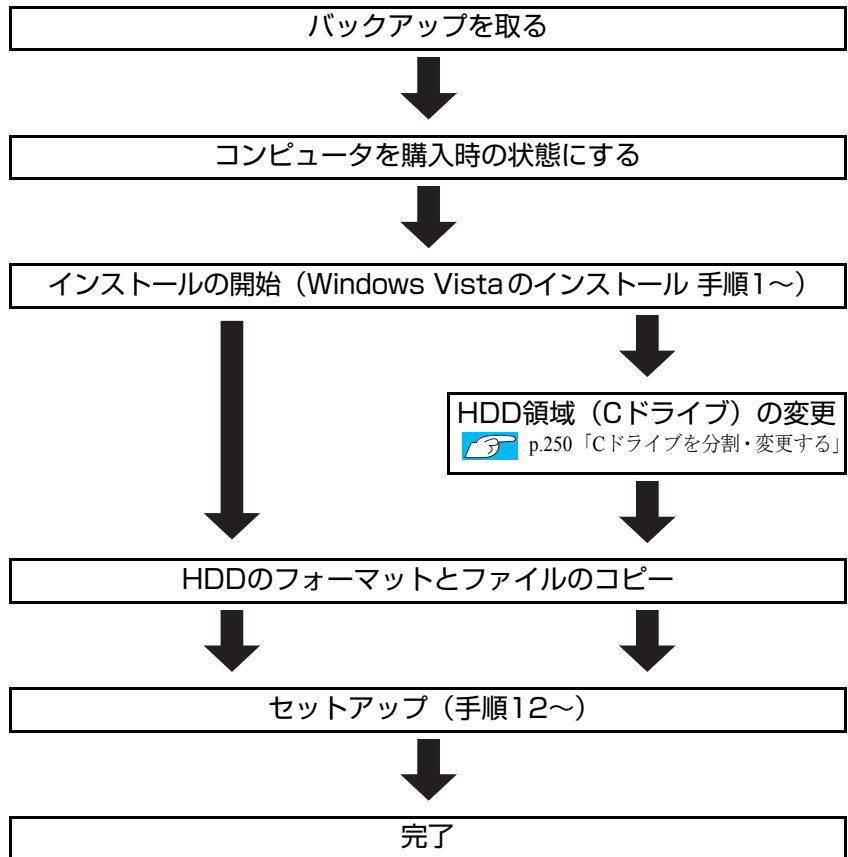
初期設定ツールは、Windowsを再インストールすると消去されます。初期設定ツールでインストールした「セキュリティソフトウェア」などのソフトウェアは、以降で説明する手順に従ってインストールを行ってください。

▶Windowsのインストール

インストールの流れ


Windowsのインストールの主な流れは次のとおりです。

インストール作業は、 p.190 「Windows Vistaをインストールする」以降の手順に従って行ってください。



HDD領域 (Cドライブ) を変更するには

Windowsのインストール中にCドライブ (Windowsがインストールされている領域) のサイズを変更したり、分割したりすることができます。


HDD領域の変更や、分割についての詳しい説明は、 p.247 「HDD領域 (ドライブ) の分割・変更・作成」をご覧ください。

▶ Windows Vistaをインストールする

バックアップを取る

次の設定やデータは、Windowsの再インストールを行うと消去されます。必要に応じてバックアップを行ってください。


- マニュアルびゅうわ

 p.244 「マニュアルびゅうわのバックアップ」

- ネットワークやモデムの設定

接続に関する設定を書き写しておいてください。


- Internet Explorerの「お気に入り」・Windowsメールの「連絡先」「メールデータ」

 p.243 「データのバックアップ」

このほかのWeb閲覧ソフトやメールソフトをお使いの場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

- セキュリティチップユーティリティの設定


セキュリティチップユーティリティを使用している場合は、設定のバックアップを行ってください。

 『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）－「Windowsを再インストールする前に」

- 重要なデータ

ほかのメディアなどにコピーしておいてください。

HDD領域の変更を行わない場合でも、Cドライブ以外のドライブ（HDD領域）のデータのバックアップを念のため行うことをおすすめします。

 p.243 「データのバックアップ」

コンピュータを購入時の状態にする

周辺機器が接続されていたり、BIOSの設定値が変更されていたりすると、正常にインストールが行われない可能性があります。本機を購入時の状態に戻してから再インストールを行ってください。

Windows Vistaのインストール

Windows Vistaのインストール方法は、次のとおりです。


- 1** HDDを2台以上装着している場合は、本機の電源を切り、2台目以降のHDDのケーブルを外します。

 p.151 「HDDの装着」

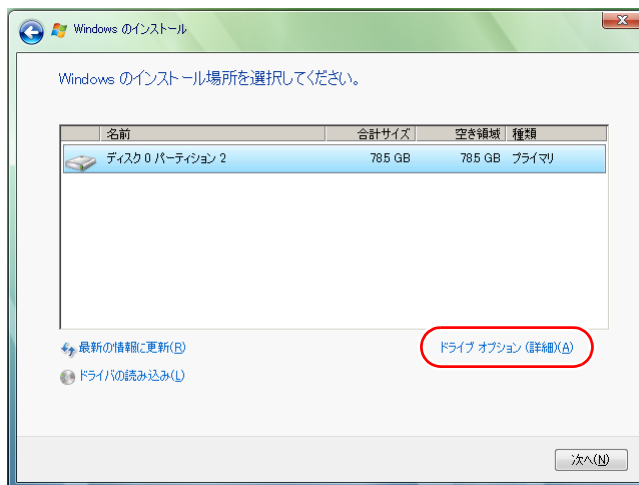
- 2** 本機の電源を入れて、Windowsが起動するか確認します。

接続されているHDDが、これからWindowsを再インストールするHDDであるかを確認します。

- 3** 「Windows VistaリカバリDVD」を光ディスクドライブにセットします。


「自動再生」画面が表示されたら、 をクリックし、画面を閉じてください。ここからはインストールを行いません。

- 4 [スタート] - [▶] - 「再起動」をクリックして、本機を再起動します。
- 5 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。
一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。Windowsが起動してしまった場合は、手順4へ戻ります。
- 6 「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、[次へ] をクリックします。
ここでHDD内のWindowsのチェックが行われます。Windowsの修復を促す画面が表示された場合は、画面の指示に従って修復を行ってください。
- 7 「修復するオペレーティングシステムを選択し…」と表示されたら、「Microsoft Windows Vista」が選択された状態で [次へ] をクリックします。
- 8 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、「Windowsの再インストール」をクリックします。
- 9 「Windowsの再インストールを行います。」と表示されたら、[再インストール] をクリックします。
- 10 「ライセンス条項をお読みください。」と表示されたら、内容を確認し、「条項に同意します」にチェックを付けて、[次へ] をクリックします。
- 11 「Windowsのインストール場所を選択してください。」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。
<領域変更を行わない場合（通常）>
(1) 「ドライブオプション（詳細）」をクリックします。




- (2) 「ディスク0パーティション2」(Cドライブ) が選択された状態で「フォーマット」をクリックします。
- (3) 「このパーティションをフォーマットすると…」と表示されたら、[OK] をクリックします。
フォーマットが開始されます。
- (4) フォーマットが終了すると、[次へ] がクリックできる状態になります。「ディスク0パーティション2」(Cドライブ) が選択された状態で [次へ] をクリックします。
Windows Vistaのインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは20分～40分かかります。手順12の画面が表示されるまでキーボードやマウスは操作しないでください。


<領域変更を行う場合>

 p.250 「Cドライブを分割・変更する」の手順に従ってください。

- 12** 「ユーザー名と画像の選択」と表示されたら、ユーザー名、パスワード（任意）を入力し、画像一覧からお好みの画像をクリックして選択し、[次へ] をクリックします。

 p.38 「ユーザー名と画像の選択」

- 13** 「コンピュータ名を入力して、デスクトップの背景を選択してください。」と表示されたら、コンピュータ名を入力し、背景一覧からお好みの背景をクリックして選択し、[次へ] をクリックします。

 p.38 「コンピュータ名を入力してデスクトップの背景を選択してください」

- 14** 「Windowsを自動的に保護するよう設定してください」と表示されたら、保護の設定をクリックして選択します。


「推奨設定を使用します」を選択することをおすすめします。

- 15** 「時刻と日付の設定の確認」と表示されたら、「タイムゾーン」が「大阪、札幌、東京」になっていることを確認し、「日付」、「時刻」を設定し、[次へ] をクリックします。

- 16** ネットワークに接続している場合、「お使いのコンピュータの現在の場所を選択してください」と表示されます。場所をクリックして選択します。

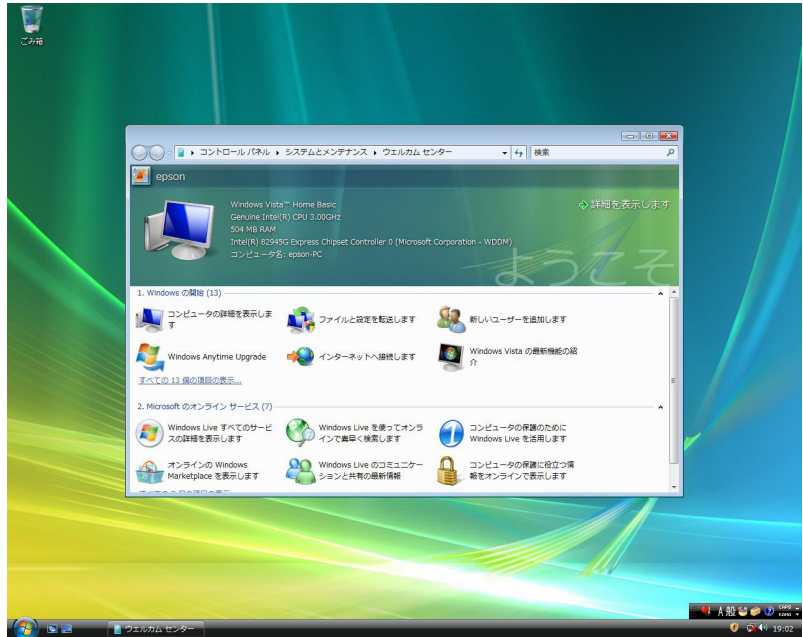
- 17** 「ありがとうございます」と表示されたら、[開始] をクリックします。

設定が行われます。設定には約5分かかります。

- 18** 手順 12 でパスワードを設定した場合は、パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力して、 を押します。

19 Windows Vistaのデスクトップ(下記の画面)が表示されたら、「Windows Vista リカバリDVD」を取り出します。


デスクトップの背景は、手順13で選択した背景が表示されます。




これでWindows Vistaのインストールは完了です。

20 手順11で領域変更を行った場合は、「未割り当て領域」に領域(パーティション)を作成します。

領域(パーティション)の作成は、ドライバやソフトウェアのインストールが終了してから行ってもかまいません。

 p.251 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」

21 手順1で2台目以降のHDDのケーブルを外した場合は、再度接続します。

 p.151 「HDDの装着」

▶本体ドライバのインストール

本機のマザーボード上に搭載されているデバイスのドライバ類を、一括してインストールします。

本体ドライバのインストールで、インストールするドライバ類は次のとおりです。


- チップセットドライバ
- ビデオドライバ
- ネットワークドライバ
- インフォメーションメニュー
- Intel Matrix Storage Manager
- サウンドドライバ
- Java2 Runtime Environment

上記以外のデバイスは、Windows標準ドライバで動作します。

Windows標準ドライバとは、Windowsをインストールすると自動的にインストールされるドライバです。

インストール

インストールの手順は、次のとおりです。

- 1 「ドライバCD」を光ディスクドライブにセットします。**
- 2 「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exeの実行」をクリックします。**
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] – [コンピュータ] – 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 3 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[許可]をクリックします。**
- 4 「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、「インストール」をクリックします。**
- 5 「インストール確認」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、[OK]をクリックします。**
各ドライバが自動的にインストールされます。
インストールには数分かかります。
- 6 「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK]をクリックします。**
- 7 「インストール処理」画面が表示されたら、ドライバのインストール状態を確認し、[PC再起動]をクリックします。**
RAID構成時は、Windowsが再起動したら本体ドライバのインストールは完了です。次の手順は必要ありません。
- 8 Windowsが再起動した後、「ウェルカムセンター」画面が表示されたら、をクリックして画面を閉じます。**

- 9** 「これらの変更を適用するには・・・」と表示された画面で、[今すぐ再起動する] をクリックします。

Windowsが再起動したら、本体ドライバのインストールは完了です。

▶ 拡張ボードのドライバのインストール

<拡張ボード搭載時>

ビデオボードやFAXモデムボードなどの拡張ボードをお使いの場合は、拡張ボードのドライバをインストールします。

インストールは、拡張ボードに添付のディスクを使用して行います。インストール方法は、拡張ボードに添付のマニュアルをご覧ください。

▶ Adobe Readerのインストール

「Adobe Reader」は、PDF形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。

インストール

Adobe Readerのインストール手順は、次のとおりです。

- 1** 「ドライバCD」を光ディスクドライブにセットします。
- 2** 「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exeの実行」をクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 3** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[許可] をクリックします。
- 4** 「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、「Adobe Reader」をクリックします。
「このファイルを実行しますか？」と表示された場合は、[実行] をクリックします。
- 5** 「インストール先のフォルダ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 6** 「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら、[インストール] をクリックします。
インストールにはしばらく時間がかかります。
- 7** 「セットアップ完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。
これで、Adobe Readerのインストールは完了です。
続いて、Adobe Readerのセットアップを行います。

セットアップ

インストールが完了したら、続いてセットアップを行います。Adobe Readerのセットアップ手順は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「Adobe Reader」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「使用許諾契約書」が表示されたら、「使用許諾契約書」に同意するかしないかを選択します。
同意する場合は、「同意する」をクリックします。「同意しない」を選択すると、Adobe Readerは使用できません。
これで、Adobe Readerのセットアップは完了です。

▶セキュリティソフトウェアのインストール

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。

市販のセキュリティソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

▶Webフィルタリングソフトウェアのインストール

本機に添付の「i-フィルター 30日版」をインストールします。i-フィルター 30日版は、有害サイトをブロックするためのWebフィルタリングソフトウェアです。

市販のWebフィルタリングソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

i-フィルター 30日版のインストール

i-フィルター 30日版のインストール手順は、次のとおりです。

- 1 「ドライバCD」を光ディスクドライブにセットします。
- 2 「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exeの実行」をクリックします。「自動再生」画面が表示されない場合は、「スタート」－「コンピュータ」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 3 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、「許可」をクリックします。
- 4 表示された項目から「i-フィルター 30日版」をクリックします。
- 5 「i-フィルター…インストール」と表示されたら、「次へ」をクリックします。

- 6 「使用許諾契約」と表示されたら、「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択して、[次へ] をクリックします。
- 7 「セットアップタイプ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 8 「インストール準備の完了」と表示されたら、[インストール] をクリックします。
デスクトップ上に「i-フィルター」アイコンが表示されたら、i-フィルター 30日版のインストールは完了です。
続いて、i-フィルター 30日版のユーザー登録を行います。

i-フィルター 30日版のユーザー登録

i-フィルター 30日版を使用するには、ユーザー登録が必要です。
ユーザー登録はインターネット接続後に行います。
ユーザー登録の方法は、次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「i-フィルター」アイコンをダブルクリックします。
Windowsを再起動した場合は、「i-フィルター…」画面が自動的に表示されます。
- 2 「i-フィルター…」画面が表示されたら、使用許諾契約書の内容をよくお読みになり、[「i-フィルター」を使ってみる] をクリックします。
- 3 [「i-フィルター」の開始] と表示されたら、次の作業を行います。
<初回ユーザー登録時>
 - (1) [次へ] をクリックします。
 - (2) 「無料お試し版ダウンロード お申し込み」と表示されたら、「お申し込みの入力」で「E-Mailアドレス」、「管理パスワード」、「管理パスワード【確認入力】」、「お名前」を入力します。
「管理パスワード」は設定画面を開くときに必要になりますので、忘れないようにしてください。
 - (3) 「情報メール配信設定」で情報メールの配信を希望するかどうかを選択します。
 - (4) [同意して確認画面へ] をクリックします。
 - (5) 「お申し込み内容の確認」と表示されたら、内容を確認し、[登録する] をクリックします。
 - (6) 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
 - (7) 「お客様情報登録完了」と表示されたら、「登録内容」に記載されている「シリアルID」と「利用期限」を確認しておきます。
同時に、登録したE-Mailアドレスにも「シリアルID」と「利用期限」が記載された登録完了メールが配信されます。
一度登録を行うと、同じE-Mailアドレスでの再登録はできません。2回目以降のユーザー登録は、登録完了メールに記載されている「シリアルID」を使用して登録を行いますので、「シリアルID」は必ず控えておいてください。
 - (8) [完了] をクリックします。

<2回目以降のユーザー登録時>

- (1) [シリアルIDを持っているお客さま] をクリックします。
- (2) [シリアルIDのご確認] で、初回ユーザー登録時に配信された「シリアルID」を入力します。
- (3) [管理パスワードの設定] で「管理パスワード」と「管理パスワード [確認入力]」を入力します。
「管理パスワード」は設定画面を開くときに必要になりますので、忘れないようにしてください。
- (4) [次へ] をクリックします。
- (5) 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- (6) 「シリアルIDを確認しました」と表示されたら、[完了] をクリックします。

これで、i-フィルター 30日版のユーザー登録は完了です。

▶ Nero 8 Essentialsのインストール

<書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時>

「Nero 8 Essentials」は、光ディスクドライブで書き込みを行うためのソフトウェアです。

Nero 8 Essentialsのインストール手順は、次のとおりです。

- 1** 「Nero 8 Essentials CD-ROM」を光ディスクドライブにセットします。
- 2** 「自動再生」画面が表示されたら、「Setupx.exeの実行」をクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピュータ」 - 「CD-ROM」アイコンをダブルクリックします。
- 3** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 4** 「Neroマルチインストーラ」画面が表示されたら、[Nero 8 Essentials] をクリックします。
- 5** 「Nero 8 Essentialsインストールウィザードへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶ WinDVDのインストール

「WinDVD」は、DVD VIDEOを再生するためのソフトウェアです。DVD-ROMドライブを搭載している場合、購入時の選択によっては添付されていません。WinDVDのインストール手順は、次のとおりです。


- 1 「WinDVD CD-ROM」を光ディスクドライブにセットします。
- 2 「自動再生」画面が表示されたら、「SETUP.EXEの実行」をクリックします。「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピュータ」 - 「CD-ROM」アイコンをダブルクリックします。
- 3 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行]をクリックします。
- 4 「InstallShield Wizard」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶ 109 USBキーボードユーティリティのインストール

<109 USBキーボード使用時>

「109 USBキーボードユーティリティ」は、109 USBキーボードのホットキーを使用するためのユーティリティです。

本機に添付の「109 USBキーボードユーティリティCD」を光ディスクドライブにセットし、画面の指示に従ってインストールを行ってください。ホットキーの設定は、すべてのインストール作業が完了してから行います。

 p.59 「ホットキーを使用する」

▶ JWord Pluginのインストール

「JWord Plugin」は、Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索できるソフトウェアです。

JWord Pluginのインストール手順は、次のとおりです。

- 1 「ドライバCD」を光ディスクドライブにセットします。
- 2 「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exeの実行」をクリックします。「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 3 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[許可]をクリックします。
- 4 「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、「JWord Plugin」をクリックします。
- 5 「JWordプラグイン…へようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶gooスティックのインストール

「gooスティック」は、Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するソフトウェアです。

gooスティックのインストール手順は、次のとおりです。

- 1** 「ドライバCD」を光ディスクドライブにセットします。
- 2** 「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exeの実行」をクリックします。「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 3** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[許可] をクリックします。
- 4** 「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、「goo スティック」をクリックします。
- 5** 「インストールが完了しました」と表示されたら、[OK] をクリックします。これで、gooスティックのインストールは完了です。

▶マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版のインストール

「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版」はWebサイトの安全性を表示し、危険なサイトへのアクセスを防ぐWebセーフティツールです。

インストール

マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版のインストール手順は次のとおりです。

- 1** 「ドライバCD」を光ディスクドライブにセットします。
- 2** 「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exeの実行」をクリックします。「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 3** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[許可] をクリックします。
- 4** 表示された項目から「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版」を選択して[インストール] をクリックします。
- 5** 「McAfee SecurityCenter」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。インストールが完了したら、続いてユーザー登録を行います。

ユーザー登録

マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版を使用するには、ユーザー登録が必要です。ユーザー登録の方法は、次のとおりです。

- 1 Internet Explorerを起動します。
- 2 Internet Explorerのツールバーに表示される [McAfee SiteAdvisor] の▼をクリックして、表示された一覧から「今すぐ登録」をクリックします。



- 3 表示された画面に従ってユーザー登録を行います。
ユーザー登録が完了すると、マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版が使用可能になります。

▶そのほかのインストール

必要に応じて次のインストールを行ってください。

セキュリティチップユーティリティのインストール

セキュリティチップのセキュリティ機能（TPM）を使用していた場合は、ユーティリティをインストールします。詳しくは、『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）をご覧ください。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティ、ソフトウェアなどのインストールが必要です。インストールは、オプション機器類に添付されているメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション機器類に添付のマニュアルをご覧ください。



インストールが必要なドライバの例

お使いになるシステム構成によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

- USB対応機器を使用する場合：USB機器に添付のドライバ
 - プリンタを使用する場合：プリンタに添付のドライバ
-

そのほかのソフトウェアのインストール


「Office」など、そのほかに使用するソフトウェアがある場合は、インストールします。インストール方法はソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

▶再インストール後の作業

再インストールが完了したら、必要に応じて次の作業を行ってください。

領域の作成

Windowsのインストール中にHDD領域を変更した場合、「未割り当て領域」はそのままでは使用できません。Windowsの「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行います。


 p.252 「HDD領域（パーティション）の作成手順」

ネットワークやモデムの設定

再インストールを行う前に書き写しておいた設定を元に、ネットワークやモデムの設定を行います。

バックアップしたデータの復元

再インストールを行う前にバックアップしたデータを復元します。

 p.243 「データのバックアップ」

- マニュアルびゅう
- Internet Explorer、Windowsメールの設定
- 重要なデータ

バックアップ先のメディアなどから元に戻します。

Windows Update

Windowsの再インストールを行うと、今までに行った「Windows Update」のプログラムがインストールされていない状態に戻ります。

自動更新の設定がされていると、更新プログラムが自動的にダウンロード、インストールされ、Windowsが最新の状態になります。

 p.102 「Windows Update」

第6章 こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

「トラブルが発生したら」	206
「困ったときに」	207
「システム診断ツールを使う」	233
「トラブル時に役立つ機能」	234
「警告メッセージが表示されたら」	239

トラブルが発生したら

本機ご使用時にトラブルが発生した場合は、次の場所から対処方法を確認してください。

- 困ったときに

トラブルが発生した場合の確認事項と対処方法を記載しています。

 p.207 「困ったときに」

- とらぶる解決ナビ

当社ユーザーサポートページの「サポート情報検索」から、技術的なトラブルの解決方法をピックアップして収録しています。



「インフォメーションメニュー」を開き、「とらぶる解決ナビ」をクリックします。



トラブルが起きた場合の対処の流れ

参考

サポート・サービスのご案内

『サポート・サービスのご案内』（別冊）には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。

困ったときや万一の場合に備えてご覧ください。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。対処方法が見つからない場合は、「インフォメーションメニュー」の「とらぶる解決ナビ」や「サポート情報検索」もあわせてご覧ください。



不具合が解消しない場合は

対処を行っても不具合が解消しない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください、「カスタマーサービスセンター」までご連絡ください。

不具合一覧

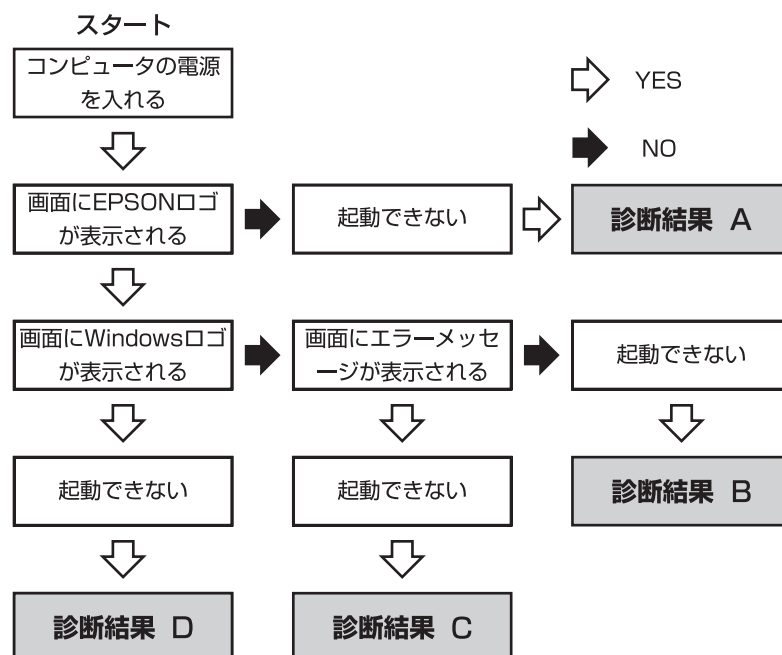
コンピュータ本体（起動時）	p.208
● 起動	p.208
● そのほか	p.215
コンピュータ本体	p.216
● 省電力機能	p.216
● セキュリティチップ（TPM）	p.217
● 装置の増設・交換	p.217
● そのほか	p.218
メモリ	p.219
● メモリ	p.219
記憶装置	p.219
● FDD（オプション）	p.219
● HDD	p.220
● 光ディスクドライブ	p.221
入力装置	p.225
● キーボード	p.225
● マウス	p.226
表示装置	p.227
● ディスプレイ	p.227
サウンド	p.228
● スピーカ	p.228
ソフトウェア	p.229
● ソフトウェア	p.229
● インストール	p.232

▶コンピュータ本体の不具合（起動時）

コンピュータが起動できない不具合に対する対処方法を説明します。

起動時の不具合

シャットダウン状態からコンピュータが起動できない場合は、次の診断を行い、各診断結果に応じた対処を行ってみてください。



診断結果 A

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) コンピュータ本体の電源を入れなおす

電源を入れなおす場合は、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

(2) ディスプレイの電源ランプを確認する

ディスプレイの取扱説明書をご覧になり、ディスプレイの電源ランプが通常動作時の状態になっているかどうか確認してください。

(3) ディスプレイケーブルを接続しなおす

コンピュータ本体とディスプレイの接続に問題がある可能性があります。コンピュータ本体とディスプレイの電源を切ってから、ディスプレイケーブルを接続しなおし、ディスプレイ、コンピュータ本体の順に電源を入れ、問題が解決するかどうか確認してください。

(4) ディスプレイの電源コードを接続しなおす

ディスプレイの電源コードの接続に問題がある可能性があります。コンピュータ本体とディスプレイの電源を切ってから、ディスプレイの電源コードを接続しなおし、ディスプレイ、コンピュータ本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(5) コンピュータ本体の電源コードを接続しなおす

コンピュータへの電源供給に問題がある可能性があります。コンピュータ本体とディスプレイの電源を切ってから、コンピュータ本体の電源コードを接続しなおし、ディスプレイ、コンピュータ本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(6) 周辺機器および増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンタやスキャナなどの周辺機器、メモリや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(7) CMOS RAMの初期化を行う

CMOS RAMの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAMの初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。



p.258 「CMOS RAMの初期化」

(8) 電源保護回路を解除する

過電流によってコンピュータが不安定になっている可能性があります。周辺機器/増設機器類（キーボード、マウス、ディスプレイを含む）を外して電源コードを抜いたあと、1分程度放置し、問題が解決されるかどうか確認してください。

診断結果 B


次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 周辺機器および増設した装置を取り外す


本機をご購入後に、プリンタやスキャナなどの周辺機器、メモリや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(2) セーフモードで起動し、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

 p.234 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、「システムの復元」機能を使用して以前のコンピュータの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。システムの復元を行ってみてください。

 p.234 「システムの復元」

(3) 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

1. シャットダウン状態からコンピュータの電源を入れます。
2. 「EPSON」と表示され、消えた直後に **[F8]** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。

Windowsが起動してしまった場合は、再起動してからやりなおしてください。

3. 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、**[↑]** または **[↓]** を押して、「前回正常起動時の構成 (詳細)」を選択し、**[↵]** を押します。

(4) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

 p.164 「Load Setup Defaults (初期値に戻す)」


(5) CMOS RAMの初期化を行う

CMOS RAMの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAMの初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。


 p.258 「CMOS RAMの初期化」

(6) Windowsを再インストールする

HDD内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windowsの再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.186 「ソフトウェアの再インストールを行う」

診断結果 C

まず、 p.239 「警告メッセージが表示されたら」をご覧ください、メッセージに応じた対処を行ってください。あてはまるメッセージがない場合は、下記をご覧ください、対処を行ってください。

- 「S.M.A.R.T Failure Predicted on HDD / WARNING: Immediately back-up your data and replace your HDD」というメッセージが表示された場合

(1) カスタマーサービスセンターへ連絡する

HDDに問題がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください、カスタマーサービスセンターへご連絡ください。

- 「Hardware Monitor found an error, Enter Power setup menu for details」というメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) コンピュータ本体の電源を入れなおす

コンピュータの電源を切ってから、電源コードを抜き、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてみてください。

(2) 壁のコンセントに直接接続する

電源タップなどにコンピュータの電源コードを接続している場合は、電源タップなどを使用せず、壁にあるコンセントに直接コンピュータの電源コードを接続して、電源を入れてみてください。

(3) 消費電力の大きい機器を停止する


大画面テレビやエアコンなど、消費電力の大きい機器を使用している場合、それらの機器の電源を切ってから、コンピュータの電源を入れてみてください。

- 「NTLDR is missing」、「DISK BOOT FAILURE」、「Invalid system disk」、「Missing Operating System」、「Operating System Not Found」などのメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) FD やUSB フラッシュメモリを取り外す

FDがセットされていたり、USB 接続のフラッシュメモリなどが接続されていたりすると、FDやUSB 機器からOS を読み込もうとして、現象が発生する場合があります。FDやUSB 機器を取り外してから、コンピュータを起動して、問題が解決されるかどうか確認してください。また、BIOSの「Boot」メニュー画面で起動に使用するドライブの優先順位の設定でHDD を最優先に設定しておくことで、FDD やUSB 機器を接続した状態でも、コンピュータを起動できるようになります。

 p.169 「起動 (Boot) デバイスの順番を変更する」


(2) しばらく放置する

急激な温度変化があった場合は、HDDの表面が結露してしまっている可能性があります。乾くまで、しばらく放置しておいてから、再度電源を入れてみてください。

(3) HDDの認識と接続を確認する

BIOSでHDDを認識できていない可能性があります。次の手順でBIOSを確認してください。

1. 「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。

 p.159 「BIOS Setupユーティリティの起動」

2. 「Main」メニュー画面で「SATA0」の表示を確認します。

HDDの型番が表示される場合、HDDは正常な状態です。続けて、下記(4) (5) の作業を行ってみてください。

「Not Detected」、「None」などと表示される場合は、HDDが正常に認識されていません。HDDに接続されているケーブル類を差しなおしてみてください。

 p.151 「HDDの装着」

解決しない場合は、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、「カスタマーサービスセンター」へご連絡ください。


(4) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

 p.164 「Load Setup Defaults (初期値に戻す)」

(5) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.189 「Windowsのインストール」

● そのほかのメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) FD やUSB フラッシュメモリを取り外す

FDがセットされていたり、USB接続のフラッシュメモリなどが接続されていたりすると、FDやUSB機器からOSを読み込もうとして、現象が発生する場合があります。FDやUSB機器を取り外してから、コンピュータを起動して、問題が解決されるかどうか確認してください。また、BIOSの「Boot」メニュー画面でHDDの優先順位をFDDやUSB機器よりも上に設定しておくことで、FDDやUSB機器を接続した状態でも、コンピュータを起動できるようになります。

 p.169 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

(2) 周辺機器および増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンタやスキャナなどの周辺機器、メモリや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(3) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

 p.164 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」

(4) CMOS RAMの初期化を行う

CMOS RAMの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAMの初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.258 「CMOS RAMの初期化」

(5) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.189 「Windowsのインストール」

診断結果 D

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 周辺機器および増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンタやスキャナなどの周辺機器、メモリや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(2) セーフモードで起動し、常駐ソフトを停止したり、システムの復元を行う


必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。



p.234 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼動中、常に稼動しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。

常駐ソフトを停止する手順は次のとおりです。

1. [スタート] - 「検索ボックス」に「msconfig」と入力して、を押します。
2. 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
3. 「スタートアップ」タブをクリックし、一覧から問題の原因となっている可能性のある項目（常駐ソフト）のチェックを外し、[OK] をクリックします。
4. 「再起動が必要な場合があります」というメッセージが表示されたら、[再起動] をクリックします。

※常駐ソフトが原因ではなかった場合、外したチェックは元に戻してください。


常駐ソフトが原因ではなかった場合は、「システムの復元」を行ってみてください。以前のコンピュータの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。






p.234 「システムの復元」

(3) 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。


1. シャットダウン状態からコンピュータの電源を入れます。
2. 「EPSON」と表示され、消えた直後に  を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。

Windowsが起動してしまった場合は、再起動してからやりなおしてください。

3. 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、 または  を押して、「前回正常起動時の構成（詳細）」を選択し、 を押します。

(4) Windowsを再インストールする

HDD内に記録されている、起動部分のプログラムが壊れている可能性があります。Windowsの再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.186 「ソフトウェアの再インストールを行う」



起動時の不具合（そのほか）

現象

起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。

Enter CURRENT Password:


確認と対処

- 「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードが設定されています。正しいパスワードを入力してください。
 p.165 「パスワードを設定する」
- パスワードを正しく入力しているか確認してください。 の状態により数値が正しく入力されていない場合があります。
 p.56 「キーロック表示ランプ」
- パスワードを忘れてしまった場合には、強制的に解除することができます。ただし、HDDへのアクセス制限を設定している場合、パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定したHDDは使用できなくなります。
 p.258 「CMOS RAMの初期化」
強制的に解除した場合、BIOSの設定が初期化されるので、BIOSを再度設定する必要があります。「BIOSの設定値」に変更内容を記入している場合は、「BIOSの設定値」をご覧になり、設定してください。
 p.181 「BIOSの設定値」
- パスワード入力後に次のようなメッセージが表示された場合は、間違ったパスワードを入力しています。
Invalid Password! Press Any Key to Continue.
 を押して、再度パスワード入力画面を表示させて、正しいパスワードを入力してください。

現象

Windowsが起動せず、「システム回復オプション」画面が表示された。

確認と対処

- Windowsに不具合が起きると、HDD内に設定されている「Windows回復環境（Windows RE）」が自動的に起動します。「システム回復オプション」画面はWindows REの画面です。Windows REの機能を使用して、不具合を修復してください。Windows REの概要は、 p.236 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」をご覧ください。

▶コンピュータ本体の不具合




コンピュータ本体の不具合に対する対処方法を説明します。

省電力機能に関する不具合

現象

正しく省電力状態に移行できない。または省電力状態から復帰できない。

確認と対処

- 使用しているソフトウェアや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。ソフトウェアの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。
- 相性の良くない周辺機器などを使用している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を変更してください。設定を変更した場合の電力消費は、通常より若干抑えられる程度になります。
「Power」メニュー画面－「Suspend to RAM」－「Disabled」（無効）
 p.160 「BIOS Setupユーティリティの操作」
 p.176 「Power メニュー画面」
- スリープ状態や休止状態のときは、キーボードやマウスの操作では、省電力状態から復帰できない場合があります。この場合は、電源スイッチを押して本機を復帰させてください。
 p.116 「省電力状態からの復帰方法」
- 省電力状態から復帰できない場合は、**Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押して本機を再起動してください。ただし、省電力状態移行前に作成した未保存のデータはすべて消失します。
- 周辺機器の状態が変わると、省電力状態から復帰できないことがあります。周辺機器を省電力状態に入る前と同じ状態にしてみてください。

セキュリティチップのセキュリティ機能（TPM）の不具合

現象

セキュリティチップの情報を初期化して、購入時の状態に戻したい。

確認と対策

- セキュリティチップの情報の初期化は、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目で行います。
「Security」メニュー画面－「TPM Function」－「Clear Trusted Platform Module」で[←]を押し、確認画面が表示されたら、[Ok]を選択します。情報が初期化され、コンピュータが再起動します。
初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用できなくなります。また、Windows VistaのHDD暗号化機能「BitLocker」を使用している状態で初期化を行うと、Windowsが起動できなくなり、暗号化していたHDD内のデータも使用できなくなります（BitLockerは、Windows Vista UltimateおよびWindows Vista Enterpriseの機能です）。
セキュリティチップの初期化を行う場合は、お客様の責任において十分に注意して行ってください。

装置の増設・交換に関する不具合

現象

拡張ボード、周辺機器を増設したら、コンピュータの動作がおかしくなった。

確認と対処

- 増設した機器が、対応する拡張スロットおよびコネクタに、正しく装着されているか、確認してください。
- 周辺機器を追加するために拡張ボードを装着した場合、周辺機器と拡張ボードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。
- 拡張ボードによっては、拡張スロットに装着するだけでなく、マザーボードやコンピュータのコネクタとの接続が必要なものがあります。拡張ボードのマニュアルを確認してください。
- 拡張ボード、周辺機器のドライバがインストールされているか、確認してください。詳しくは拡張ボード、周辺機器のマニュアルを確認してください。
- 拡張ボード、周辺機器を取り外して問題が解決されるかどうか、確認してください。
- 上記の処置を行っても改善が見られない場合は、拡張ボード、周辺機器の販売元にお問い合わせください。

そのほかの不具合

現象

ハングアップしてしまい何も反応しない。

確認と対処

- 応答のないソフトウェアをタスクマネージャで終了させます。
ソフトウェアを終了させることができない場合には、電源スイッチを5秒以上押し続けて電源を切ってください。


 p.54 「ハングアップしたときは」

現象

「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処

- 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してください。

 p.255 「リチウム電池の交換」

現象

BitLockerでドライブを暗号化した状態でBIOSのアップデートやBootの順番の変更を行ったとき、BitLockerのパスワード入力やパスワードを保存してあるUSBフラッシュの挿入を求められた。
(BitLockerは、Windows Vista UltimateおよびWindows Vista Enterpriseの機能です。)

確認と対処

- パスワードを入力するか、パスワードを保存してあるUSBフラッシュを挿入してください。BIOSのアップデートやBootの順番の変更を行うときは、BitLockerのドライブ暗号化を解除した状態で行ってください。

現象

終了処理をしても電源が切れない。

確認と対処

- Windows Vistaでは、[スタート] - [⏻] を押し続けると、本機は「スリープ状態」になります。電源を切りたい場合は、[スタート] - [▶] - 「シャットダウン」で電源を切ってください。
- 正しい処理を行っても電源が切れない場合は、電源スイッチを5秒以上押し続けてください。

▶メモリの不具合

メモリの不具合に対する対処方法を説明します。

メモリの不具合

現象

表示されるメモリ容量が実際の容量と違う。

確認と対処

- メモリを増設した場合は、メモリのタイプが合っているか、スロットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。

 p.129 「メモリの装着」

▶記憶装置の不具合

記憶装置の不具合に対する対処方法を説明します。

FDD（オプション）の不具合

現象

FDに正常にアクセスできない。

確認と対処

- 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FD が正しくセットされていない可能性があります。正しくセットしなおしてください。


<p>A:¥にアクセスできません。 デバイスの準備ができていません。 [再試行] [キャンセル]</p>

<p>ディスクの挿入 A:ドライブにディスクを挿入してください。 [キャンセル]</p>
--

- 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FD がフォーマットされていないか、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDの可能性が
あります。


<p>ドライブAのディスクはフォーマットされていません。 今すぐフォーマットしますか？ [はい] [いいえ]</p>

- 使用しているFDが、本機で使用できるフォーマット形式でフォーマットされているか確認してください。

 p.63 「FDD・マルチカードリーダーを使う（オプション）」

- 別のFDで読み書きを行ってください。正常に読み書きできる場合は、FDに異常があることが考えられます。

- 「BIOS Setupユーティリティ」－「Main」メニュー画面－「Legacy Diskette A」の設定値が「1.44M, 3.5in.」になっているか確認してください。

 p.160 「BIOS Setupユーティリティの操作」


 p.172 「Mainメニュー画面」

現象

FDに書き込みできない。

確認と対処

- ライトプロテクトされていないか確認します。

 p.66 「ライトプロテクト（書き込み禁止）」

HDDの不具合

現象

HDD容量がWindows上で、少なく表示される。

確認と対処

- 本機に搭載されているHDD容量をWindows上で確認すると、少なく表示されます。

これは、Windows上では容量を計算や表示する場合に「2進法」（0と1の2つの数字を用いる表記法）を使用しているのに対して、マニュアルではHDDなどの仕様を表記する際に用いられている「10進法」（0～9の数字を用いる表記法）を使用していることによる違いです。


2進法で表記した1KB（キロバイト）は「1024Byte」になるのに対し、10進法で表記した場合には「1000Byte」となります。そのため、WindowsなどのOS上で表示されるHDD容量は、マニュアルに記載されている容量よりも少なく表示されます。

現象

HDDからWindowsが起動しない。

確認と対処

- BIOSの「Boot」メニュー画面で起動時のHDDの順番が正しく設定されているか確認してください。



 p.160 「BIOS Setupユーティリティの操作」

 p.178 「Bootメニュー画面」

現象

増設したHDDが使用できない。

確認と対処

- HDDに接続しているシリアルATAコネクタ、電源ケーブルを確認します。
 p.139 「ドライブ装置とコネクタの接続」
- HDDを増設・交換した場合は、 p.251 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。

現象

Windowsの再インストールをしたら、HDDの空き容量が大幅に減ってしまった。

確認と対処

- p.190 「Windows Vistaのインストール」手順11で、Cドライブのフォーマットを行わずにWindowsのインストールをしてしまうと、以前のWindowsのデータがWindows.oldフォルダに保存されるため、HDDの空き容量が大幅に減ってしまいます。Windows.oldフォルダが不要な場合は、削除してください。Windows.oldフォルダは次の場所にあります。
[スタート] - [コンピュータ] - [Cドライブ]
通常は、手順どおりにCドライブをフォーマットしてからWindowsのインストールをしてください。

光ディスクドライブの不具合

現象

光ディスクドライブがコンピュータに認識されない。



確認と対処

- 光ディスクドライブにシリアルATAケーブル、電源ケーブルが正しく接続されているか、またケーブルに損傷はないか確認してください。

現象

オーディオCDやDVD VIDEO再生時に、音声が出力されない。

確認と対処


- 本機にスピーカは内蔵されていません。音声を出力したい場合は、アンプ内蔵スピーカを本機背面のサウンドコネクタに接続してください。
 p.32 「スピーカを接続する」
 p.91 「サウンド機能を使う」

- ボリュームコントロールが「ミュート」または「音量0」に設定されていないか確認します。

現象

セットしたメディアにアクセスできない。

確認と対処

- メディアが正しくセットされているか、確認してください。
- メディアを挿入した直後、アクセスランプ点灯中は、読み込み準備のためアクセスできません。この場合は、アクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。
- メディアの表面にキズなどがないか、確認してください。
- 本機に添付されていたCD-ROM（データが収録されているCDなど）にアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないメディアに問題がある可能性があります。
- 特殊なフォーマット形式のメディアの場合、アクセスできない可能性があります。お使いの光ディスクドライブで使えるフォーマット形式を確認してください。
 「マニュアルびゅーわ」
- セットしたメディアが書き込み済みのメディアの場合、光ディスクドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。

現象

セットしたメディアが取り出せない。





確認と対処

- コンピュータの電源が入っているか、確認してください。
- ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくは、お使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

現象

メディアへの書き込みができない。

確認と対処

- DVD-ROMドライブの場合、メディアへの書き込みはできません。
- 書き込みソフト「Nero 8 Essentials」がインストールされていない場合は、インストールをしてください。
 p.198 「Nero 8 Essentialsのインストール」
- メディアのフォーマットに関する不具合や、書き込みに関する不具合については、『Neroユーザーズガイド』を参照してください。
 「マニュアルびゅーわ」 - 『Neroユーザーズガイド』
- お使いの光ディスクドライブ対応のメディアを使用しているかどうか確認してください。
 「マニュアルびゅーわ」
- Windowsが省電力状態に切り替わると、書き込み可能なメディアへのデータ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを始める前に省電力状態に移行しないように設定してください。
 p.114 「時間経過で移行させない」
- メディアが正しくセットされているかどうか、確認してください。
- メディアの表面に汚れやキズなどがないか、確認してください。
- メディアの残量があるか、確認してください。
- ヘッドレンズの汚れによって、書き込みができない場合があります。
- 光ディスクドライブとの相性によって、セットしたメディアに書き込めない場合があります。

現象

DVDの再生ができない。

確認と対処

- DVD-ROMドライブを搭載している場合、購入時の選択によっては、DVD VIDEO再生ソフトウェアは添付されていません。
- DVD VIDEO再生ソフト「WinDVD」が添付されている場合、DVD VIDEO再生に関する不具合については、WinDVDのヘルプを参照してください。

- 解像度や色数、リフレッシュレートを変更してみてください。



p.88 「表示に関する各種設定」



p.90 「リフレッシュレートの設定」

- ビデオボードを装着している場合に、ディスプレイを2台接続してクローン表示をしていると、「使用しているディスプレイ環境は保護されているコンテンツの再生をサポートしていません。」というメッセージが表示され、DVD VIDEOの再生が中断されます。このような場合は、クローン表示を無効にしてください。

▶入力装置の不具合



入力装置の不具合に対する対処方法を説明します。


キーボードの不具合

現象

数値キーを押しても数値が入力されない。

確認と対処

- 数値キーは  の状態により機能が変わります。 を押して、オンの状態にします。


 p.58 「キーロック表示ランプ」

現象

どのキーを押しても応答がない。

確認と対処

- キーボードが正しく接続されているか確認します。PS/2 キーボードの場合、接続は、本機の電源を入れる前に行ってください。

 p.30 「キーボードを接続する」

- マウスを操作してみてください。マウスで操作できる場合もあります。
- ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。しばらく待ってみてください。

- ソフトウェアがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、タスクマネージャでソフトウェアを終了してください。


 p.54 「ハングアップしたときは」

現象

キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処

- 直接入力モードで日本語を入力することはできません。日本語入力モードに切り替えてください。

 p.56 「キーボードを使う」

現象

Uボタンが使用できない。

確認と対処

- 画面右下の通知領域に「Hotkey Setup」アイコンが表示されていない場合は、キーボードユーティリティが起動していないため、Uボタンを使用することができません。キーボードユーティリティを起動してください。



p.61 「キーボードユーティリティの起動」

- キーボードユーティリティがインストールされていない場合は、インストールを行います。



p.199 「109 USBキーボードユーティリティのインストール」

マウスの不具合

現象

マウスを動かしても、マウスポインタが動かない。

確認と対処

- マウスが正しく接続されているか確認します。PS/2 マウスの場合、接続は、本機の電源を入れる前に行ってください。



p.31 「マウスを接続する」

- キーボードを操作してみてください。キーボードで操作できる場合もあります。
- ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。しばらく待ってみてください。

- ソフトウェアがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、タスクマネージャでソフトウェアを終了してください。



p.53 「再起動」



p.54 「ハングアップしたときは」

- オプティカルマウスの場合、表面が反射する場所やざらざらした場所、複雑なイラスト入りのマウスパッドの上で使用すると、マウスの動きがコンピュータに伝わりません。

▶表示装置の不具合



表示装置の不具合に対する対処方法を説明します。

ディスプレイの不具合

現象

起動時にディスプレイに何も表示されない。


確認と対処

- ディスプレイの電源ランプが点灯しているか確認してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。
- 本機背面の VGA コネクタにディスプレイのケーブルが接続されているか確認します。
 p.29 「ディスプレイを接続する」
- ビデオボード装着時はビデオボードのコネクタにディスプレイのケーブルが接続されているか確認します。
 p.29 「ディスプレイを接続する」
- ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。調整方法については、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。
- コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。
- 警告音（ビープ音）が鳴った場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見された可能性があります。音の種類、音の長さなどを確認した上で、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

使用中に何も表示されなくなった。

確認と対処

- 省電力状態になっている可能性があります。キーボードやマウスを操作してみてください。それでも表示されない場合は、電源スイッチを押してみてください。
 p.116 「省電力状態からの復帰方法」
- ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。調整方法については、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

- ディスプレイの仕様を確認して、該当するコネクタにディスプレイのケーブルが正しく接続されているか確認してください。本機で使用できるディスプレイの接続ケーブルは次をご覧ください。

 p.29 「ディスプレイを接続する」

- ディスプレイの故障の場合には、ディスプレイの販売元にご確認ください。

現象

画面がちらつく、文字がにじむ。

確認と対処

- リフレッシュレートを変更してみてください。


 p.90 「リフレッシュレートの設定」

現象

画面の解像度などを変更した後、画面が乱れたり何も表示されなくなった。

確認と対処

- ディスプレイの選択を誤っている可能性があります。ディスプレイのマニュアルを参照して確認してください。
- 使用中のディスプレイでは表示できない解像度を選択した可能性があります。セーフモードで起動して、解像度を変更してみてください。

 p.234 「セーフモードでの起動」

▶ サウンドの不具合

サウンドの不具合に対する対処方法を説明します。


スピーカの不具合

現象


音が鳴らない。

確認と対処

- 本機にスピーカは内蔵されていません。音声を出力したい場合は、アンプ内蔵スピーカを本機背面のサウンドコネクタに接続してください。

 p.32 「スピーカを接続する」

- ボリュームコントロールが「ミュート」または「音量0」に設定されていないか確認してください。

 p.91 「サウンド機能を使う」

▶ソフトウェアの不具合

ソフトウェアの不具合に対する対処方法を説明します。

ソフトウェアの不具合

現象

ソフトウェアの使用中に突然停止（ハングアップ）した。

確認と対処

- 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、Windowsの再起動、停止（ハングアップ）などが含まれます。ソフトウェアを再度実行してみてください。
- ケーブルの接続不良や、キーボード内のゴミやホコリ、電源の出力不安定、または、そのほかの部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。
- HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、Windowsがハングアップする場合があります。
- 応答のないプログラムを強制終了してから本機を再起動してください。



p.54 「ハングアップしたときは」

現象

ソフトウェアやプログラムが停止し、「データ実行防止」画面が表示された。

確認と対処

- ソフトウェアやプログラムがウイルスに感染している可能性があります。セキュリティソフトウェアでウイルスの検索・駆除を行ってください。
- 安全なソフトウェアを実行して「データ実行防止」画面が表示される場合は、ソフトウェアの製造元へお問い合わせください。
- 問題が解決しない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。テクニカルセンターまでお問い合わせください。

現象

ソフトウェアが起動しない。

確認と対処

- ソフトウェアの起動に必要とされるシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、ソフトウェアのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度ソフトウェアを起動してみてください。
- ソフトウェアを正しい方法でインストールしたか、ソフトウェアの起動手順を正しく実行しているか確認してください。
- 実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDやCD-ROMなどから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。
- ソフトウェアの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、ソフトウェアが動作しないことがあります。ソフトウェアの正式版を使用してください。
- ソフトウェアの使用方法をもう一度確認してください。それでもソフトウェアの不具合が解決できないときは、ソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

現象

Internet Explorerを使用時、情報バーに警告が表示される。

確認と対処

- Internet Explorerは、購入時、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう、設定されています。Internet Explorer使用時に情報バーに警告が表示されたら、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処を選択してください。

現象

WindowsメールでHTMLメールの画像が表示されない、または添付ファイルが開けない。


確認と対処

- メール添付のファイルや送信元の不明なメールによるウイルスの侵入から、コンピュータを保護するための設定が購入時にされています。
HTMLメールの画像を見る場合は、送信元を確認して、件名の下にある情報バーをクリックします。
添付ファイルについての設定は、次の場所で確認できます。
Windowsメールの [ツール] - 「オプション」 - 「セキュリティ」 タブ - 「ウイルスの可能性のある添付ファイルを保存したり開いたりしない」

現象

インストールしたネットワークアプリケーションが動作しない。



確認と対処

- ファイアウォールが有効に設定されていると、ネットワークアプリケーションが正常に動作しない場合があります。
 p.105 「ファイアウォール」
詳細についてはソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

現象

「インフォメーションメニュー」の「マニュアルびゅーわ」がグレーになって使用できない。

確認と対処

- Windowsの再インストール前にバックアップした「マニュアルびゅーわ」を復元してください。
 p.244 「マニュアルびゅーわのバックアップ」
- 「マニュアルびゅーわ」を使用できない場合、当社のユーザーサポートページから当社作成の電子マニュアルをダウンロードすることができます。
ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、マニュアルごとファイルを開いてご覧ください。
 p.245 「電子マニュアルのダウンロード」

インストール時の不具合

現象

Windowsの再インストール画面で、HDDの順番が実際の接続と異なる。

確認と対処

- Windowsを再インストールする場合に、HDDの認識順位が、実際の接続と再インストール時の画面表示で異なる場合があります。

HDDを2台以上装着している場合は、2台目以降のHDDのケーブルを外してから再インストールを行ってください。




p.190 「Windows Vistaのインストール」

現象

Windowsの再インストールがマニュアルどおりにできない。

確認と対処

- 本書の手順は、 p.18 「本製品の仕様とカスタマイズ」で記載している製品仕様でインストールすることを前提に説明しています。周辺機器を増設している場合は、手順が異なることがあります。各機器に添付のマニュアルもあわせてご覧ください。
- 本書の手順は、HDDのフォーマット後にインストールを行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点は『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。
- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

現象

Windows VistaリカバリDVDを光ディスクドライブにセットして再起動しても、「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されない。

確認と対処

- 光ディスクドライブの起動順位を HDD よりも下に設定している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行して、起動順位を変更してください。



p.169 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」





システム診断ツールを使う

ここでは、「システム診断ツール」について説明します。

システム診断ツールとは、本機の調子が悪いときに、不具合の原因がハードウェアにあるかどうかを診断するためのツールです。システム診断ツールは、本機に添付の「ドライバCD」に収録されています。

▶システム診断を実行する

システム診断の実行方法は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を入れ、ドライバCDを光ディスクドライブにセットします。
「自動再生」画面が表示された場合は、 をクリックして画面を閉じてください。
- 2** [スタート] - [▶] - [再起動] をクリックして、本機を再起動します。
Windowsが起動できないときは、 +  +  を押して、コンピュータを再起動します。
- 3** 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、消えた後、「Kernel Loading・・・ Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
- 4** 診断が終了したら、診断結果を確認します。
「F」が表示された場合は、表示された項目に不具合がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。
- 5** 光ディスクドライブからドライバCDを取り出し、電源を切ります。
これでシステム診断は完了です。

トラブル時に役立つ機能

ここでは、トラブルが発生した場合に役立つWindowsの機能について説明します。

▶セーフモードでの起動

本機が起動できない場合や、ディスプレイで表示できない解像度を選択して表示ができなくなってしまった場合などには、セーフモードで起動してみてください。

セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

- 1** コンピュータの電源を切り、20秒程放置してから、電源を入れます。
- 2** 「EPSON」と表示され、消えた直後に **[F8]** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。
Windowsが起動してしまった場合は、再起動してからやりなおしてください。
- 3** 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、**[↑]** または **[↓]** を押して「セーフモード」を選択し、**[↵]** を押します。
セーフモードで起動できた場合は、不具合に対する対処を行ってください。

▶システムの復元

本機の動作が不安定になった場合、「システムの復元」を行ってWindowsを以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻すことで、問題が解決できることがあります。

復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に、自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

システムを復元する

システムを復元ポイントの状態に戻す方法は次のとおりです。システムの復元を行う前に、HDDのデータをほかのメディアにバックアップしておくことをおすすめします。

- 1** [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「システムツール」 - 「システムの復元」を選択します。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3** 「システムの復元」画面が表示されたら、「推奨される復元」を選択し、[次へ] をクリックします。
復元ポイントを自分で指定したい場合は、「別の復元ポイントを選択する」を選択して [次へ] をクリックし、ポイントを選択して [次へ] をクリックします。

- 4** 「復元ポイントの確認」と表示されたら、内容を確認し、[完了] をクリックします。
- 5** 「システムの復元を開始すると…」と表示されたら、[はい] をクリックします。
コンピュータが再起動します。
- 6** 再起動後、「システムの復元は正常に完了しました。…」と表示されたら、[閉じる] をクリックします。
これでシステムの復元は完了です。

復元ポイントを手動で作成する

復元ポイントを手動で作成する方法は次のとおりです。

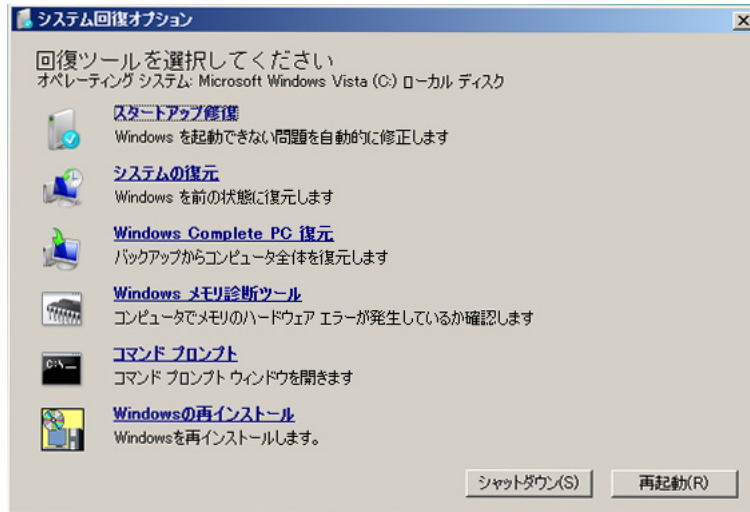
- 1** [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「システムツール」 - 「システムの復元」を選択します。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3** 「システムの復元」画面が表示されたら、「システムの保護」をクリックします。
- 4** 「システムのプロパティ」画面が表示されたら、復元ポイントを作るドライブ（ローカルディスク）にチェックを付けて、[作成] をクリックします。
- 5** 「復元ポイントの作成」と表示されたら、説明を入力し、[作成] をクリックします。
- 6** 「復元ポイントは正常に作成されました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。
以上で復元ポイントの作成は完了です。

▶ Windows回復環境 (Windows RE) を使う

本機のHDD内の「消去禁止領域」には、「Windows回復環境 (Windows RE)」が設定されています。Windowsに不具合が起きると、HDD内のWindows REが自動的に起動し、不具合に対する対処を行うことができます。

Windows REの項目

Windows REには、次の項目があります。



<イメージ>

- **スタートアップ修復**
Windowsを起動できない問題を自動的に修正します。Windowsが起動できないときは、まずスタートアップ修復を行ってみてください。
- **システムの復元**
コンピュータの状態を以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻します。
- **Windows Complete PC復元**
バックアップしてあったデータを使用してコンピュータ全体を復元します。Windows Vista Home Premium、Windows Vista Home Basicには、Windows Complete PC復元のためのバックアップ機能はありません。
- **Windowsメモリ診断ツール**
メモリにハードウェアエラーが発生しているかどうかを確認します。
- **コマンドプロンプト**
コマンドプロンプトウィンドウを開きます。

「システム回復オプション」画面が表示されたら

Windowsに不具合が起きると、HDD内のWindows REが自動的に起動し、「システム回復オプション」画面が表示されます。

「システム回復オプション」画面が表示されたら、次の手順でWindows REの項目を表示させ、対処を行います。

- 1 「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- 2 「回復オプションにアクセスするには…」と表示されたら、「ユーザー名」を選択し、パスワードを設定していた場合には「パスワード」にパスワードを入力して [OK] をクリックします。
- 3 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

HDD内のWindows REを手動で起動する

HDD内のWindows REは、手動で起動することもできます。


手動で起動する方法は、次のとおりです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置してから、電源を入れます。
- 2 「EPSON」と表示され、消えた直後に **F8** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。
Windowsが起動してしまった場合は、再起動してからやりなおしてください。
- 3 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、「コンピュータの修復」を選択し、**↵** を押します。
- 4 「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- 5 「回復オプションにアクセスするには…」と表示されたら、「ユーザー名」を選択し、パスワードを設定していた場合には「パスワード」にパスワードを入力して [OK] をクリックします。
- 6 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

DVDのWindows REを使用する

Windows REは本機に添付の「Windows VistaリカバリDVD」にも収録されています。HDD内に設定されているWindows REを誤って消去してしまった場合などに使用してください。


DVDに収録されているWindows REの起動方法は、次のとおりです。

- 1** コンピュータの電源を入れ、Windowsが起動したら、「Windows VistaリカバリDVD」を光ディスクドライブにセットします。
「自動再生」画面が表示されたら  をクリックし、画面を閉じてください。
- 2** [スタート] - [▶] - 「再起動」をクリックして、本機を再起動します。
- 3** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。
一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindows Vistaが起動してしまいます。Windows Vistaが起動してしまった場合は、手順2へ戻ります。
- 4** 「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- 5** 「修復するオペレーティングシステムを選択し…」と表示されたら、「Microsoft Windows Vista」が選択された状態で [次へ] をクリックします。
- 6** 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。

処置を行ってもなおらない場合には、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください、テクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明および対処法
No Floppy Drive Detected !	FDDが検出できません。コンピュータの電源を切り、ケーブルが接続されているか確認して下さい。 FDDを使用しない場合は、「BIOS Setupユーティリティ」でFDDを無効に設定します。  p.159 「BIOS Setupユーティリティの操作」
Reboot and Select proper Boot device or Insert Boot Media in selected Boot device and press a key	HDDが検出できません。コンピュータの電源を切り、OSがインストールされているHDDにケーブルが接続されているか確認してください。
CPU temperature too high	CPUが高温になっています。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。
CPU FAN rotating lower than 500rpm!!!	CPUファンが正常に動作していません。コンピュータの電源を切り、20秒以上待ってから再起動してください。
CPU over voltage error	CPUの電源電圧が異常です。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。
Chassis FAN rotating lower than 400 rpm !!!	シャーシファンが正常に動作していません。コンピュータの電源を切り、20秒以上待ってから再起動してください。

付録

本機をご使用になる際に役に立つ情報や、本機の仕様などについて説明します。

「お手入れ」	242
「データのバックアップ」	243
「電子マニュアルのダウンロード」	245
「セキュリティチップ（TPM）によるデータの暗号化」	246
「HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成」	247
「リチウム電池の交換」	255
「CMOS RAMの初期化」	258
「コンピュータ内部のケーブル接続」	260
「コンピュータを廃棄するときは」	261
「機能仕様一覧」	263

お手入れ

本機は精密な機械です。取り扱いに注意して、定期的にお手入れを行ってください。



お手入れは、本機の電源を切った状態で行ってください。

▶本機のお手入れ

本機のお手入れ方法について説明します。

外装

コンピュータ本体の外装の汚れは、中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で、軽く拭き取ってください。

キーボードやマウスの外装の汚れも同様です。



ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。


通風孔メッシュ

コンピュータ本体左側面の通風孔（吸気用）にあるメッシュにホコリなどがたまると、空気の通りが悪くなります。

通風孔メッシュのホコリは、定期的に乾いた柔らかい布で取り除いてください。

コンピュータ本体内部

本体内部にホコリなどがたまっている場合は、エアスプレーで吹き飛ばしてください。

 p.122 「本体カバーの取り外し・取り付け」



- 作業するときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火災の原因となります。
- 電源ユニットは絶対に分解しないでください。けがや感電・火災の原因となります。



- 作業時は、誤って本体内部の部品を傷つけないよう注意してください。
- 水分を含ませたティッシュや化学ぞうきんなどは、使わないでください。水分や化学物質により故障の原因となります。

データのバックアップ

Windowsを再インストールすると、Windowsがインストールされるドライブ（通常Cドライブ）に保存しているデータはすべて消去されます。Windowsを再インストールする前に、必要なデータのバックアップを取っておいてください。

▶バックアップ方法

作成したファイルやInternet Explorerの「お気に入り」など、HDD内のデータをバックアップする方法やバックアップしたデータを復元する方法は、本機の「インフォメーションメニュー」にある「PCお役立ち情報」で詳しく紹介しています。

「PCお役立ち情報」から見る

バックアップ方法や復元方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」－「正しく安全に使う！」項目の「Windowsシステム」



見たい情報を
クリック

<画面は予告なく変更される場合があります>

マニュアルびゅうわのバックアップ

マニュアルびゅうわのデータは、Cドライブの「お知らせ」フォルダにあり、Windowsを再インストールすると削除されます。Windowsを再インストールする前に、Cドライブの「お知らせ」フォルダをほかのメディアなどに必ずコピーして保存してください。

ほかのメディアなどに保存した「お知らせ」フォルダは、Windowsを再インストールした後にCドライブにコピーして元に戻します。

電子マニュアルのダウンロード

当社のユーザーサポートページからは、お使いのコンピュータや周辺機器の電子マニュアル（PDF・HTMLなど）をダウンロードすることができます。紙マニュアルをなくしてしまった場合や「マニュアルびゅーわ」のデータを削除してしまった場合などにご利用ください。

電子マニュアルのダウンロードは、次の場所から行います。

「インフォメーションメニュー」－「ユーザーサポート」－「ダウンロード」－「マニュアル」



製造番号を入力して検索

<画面の内容は予告なく変更される場合があります>



制限

ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、「マニュアルびゅーわ」で見えることはできません。マニュアルごとにファイルを開いてご覧ください。

▶ダウンロードできるそのほかのデータ

「ユーザーサポート」－「ダウンロード」からは、次のデータもダウンロードすることができます。必要に応じてご利用ください。ダウンロードできるデータはお使いの機種により異なります。

- 最新のBIOS
- ドライバ
- ユーティリティ
- お問い合わせ情報
- 壁紙

セキュリティチップ (TPM) によるデータの暗号化

本機に搭載されているセキュリティチップ (TPM) を使用すると、本機に保存されているデータを高度に暗号化することができます。TPMのセキュリティ機能の使用方法は、『セキュリティ機能 (TPM) 設定ガイド』(別冊) をご覧ください。



TPM のセキュリティ機能で設定したパスワードは絶対に忘れないでください。忘れた場合、それまでに暗号化したデータの復元ができなくなります。

使用上の注意

これは管理者向けの機能です。TPMのセキュリティ機能を使用する場合は、内容を十分に理解し、お客様の責任において暗号化を行ってください。

TPMのセキュリティ機能使用前の準備


TPMのセキュリティ機能を使用するには、BIOSの設定と「セキュリティチップユーティリティ」のインストールが必要です。


● BIOSの設定

「BIOS Setupユーティリティ」の設定値を次のように変更します。

「Security」メニュー画面－「TPM Function」: Enabled (有効)

購入時は、「Disabled」に設定されています。

 p.159 「BIOS Setupユーティリティの操作」

 p.179 「Securityメニュー画面」

● セキュリティチップユーティリティのインストール

購入時、本機に「セキュリティチップユーティリティ」はインストールされていません。TPMのセキュリティ機能を使用するには、セキュリティチップユーティリティのインストールを行う必要があります。

インストール方法は、『セキュリティ機能 (TPM) 設定ガイド』をご覧ください。

HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成

ここでは、HDD領域（ドライブ）を分割・変更して使用方法について説明します。

▶HDD領域を分割して使用する（概要）

HDD領域（ドライブ）の分割

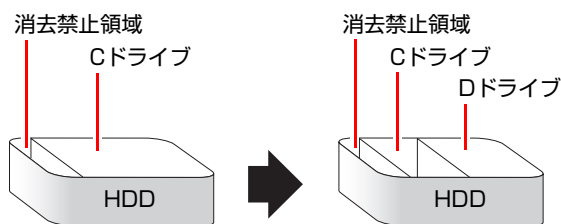
HDD領域は、いくつかに分けて、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。

HDDを分割したひとつひとつを「HDD領域」または「パーティション」とも言います。

また、Windowsで使えるHDD領域が、「ドライブ」になります。

<1台のHDDを分割する>


例：1つのHDD領域（Cドライブ）を、2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割します。



参考

消去禁止領域

「消去禁止領域には、「Windows回復環境（Windows RE）」が設定されています。

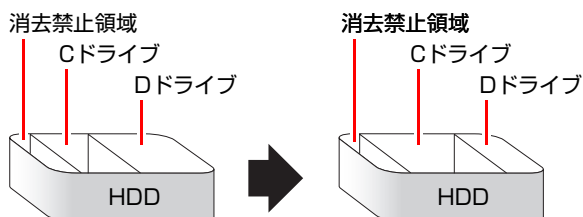
 p.236 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」

HDD領域（ドライブ）のサイズの変更

すでに分割されているHDD領域のサイズ（容量）を変更することもできます。

<ドライブのサイズを変更する>

例：Cドライブのサイズを大きくします。



この場合は、CドライブとDドライブを削除して、分割しなおす必要があります。

▶Cドライブを分割・変更する

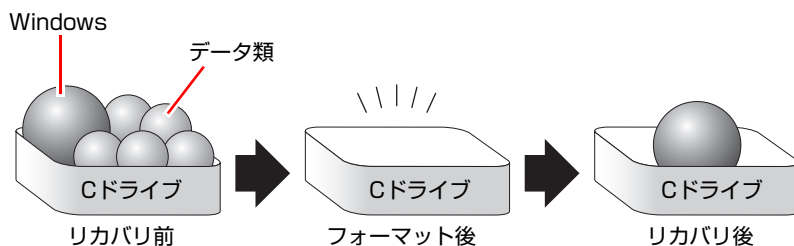
Cドライブ分割のメリットとデメリット

Cドライブを分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。
Cドライブを分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

●メリット

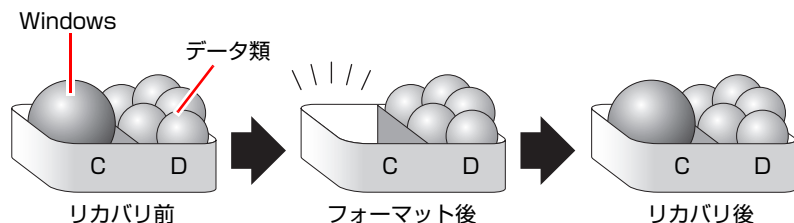
HDD領域を分割してデータの保存先を分けておくことで、リカバリ時に最小限の作業で元の環境に復帰することができます。

<HDD領域が1つの場合>



リカバリ（Windowsの再インストール）を行うと、Cドライブのデータはすべて消去されます。

<HDD領域を分割した場合>



たとえば、WindowsやソフトウェアはCドライブに、作成したデータなどはDドライブに保存しておきます。

この状態でリカバリ（Windowsの再インストール）を行うと、消去されるのはCドライブのみとなるため、Dドライブのデータは、リカバリ後、すぐにそのまま使用することができます。




HDDが分割されている状態でリカバリを行うときは、万一に備えてCドライブ以外のドライブの重要なデータをバックアップしてください。

● デメリット

- Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割を行うには、リカバリ（Windowsの再インストール）が必要です。
- HDD 領域を変更すると、変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD 領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により、容量が制限されます。


Cドライブの分割・変更の流れ

Cドライブの分割・変更は、リカバリ（Windowsの再インストール）中に行います。サイズ（容量）を変更するには、まず変更するドライブを削除してからサイズを指定して再作成します。


Cドライブ以外のドライブの変更方法は、 p.251 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。

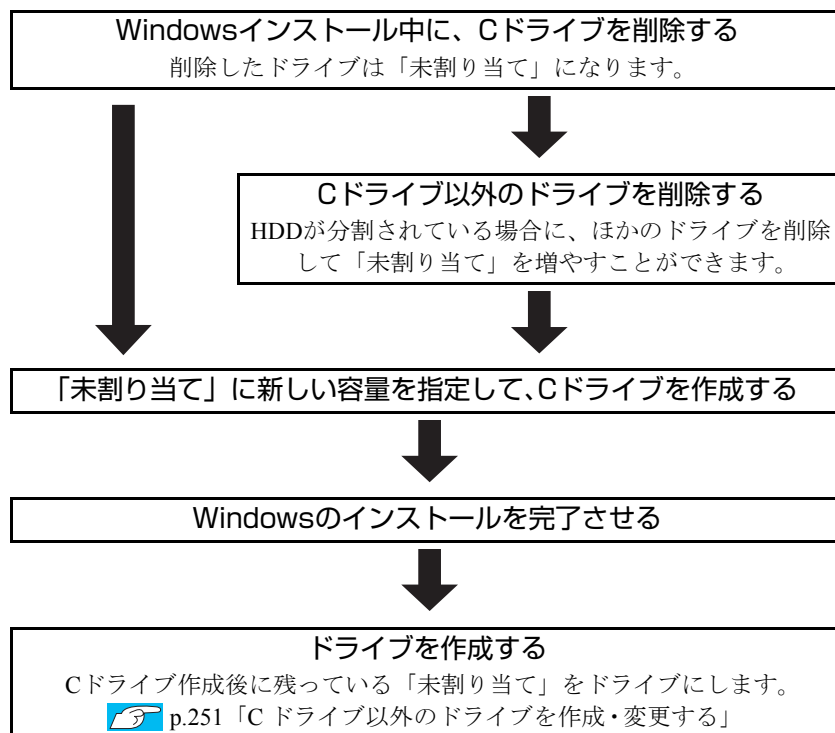


ドライブを分割・変更すると、分割・変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。必要に応じてバックアップを取っておいてください。

 p.243 「データのバックアップ」


Cドライブの分割・変更の流れは次のとおりです。

作業は  p.250 「Cドライブを分割・変更する」に従ってください。



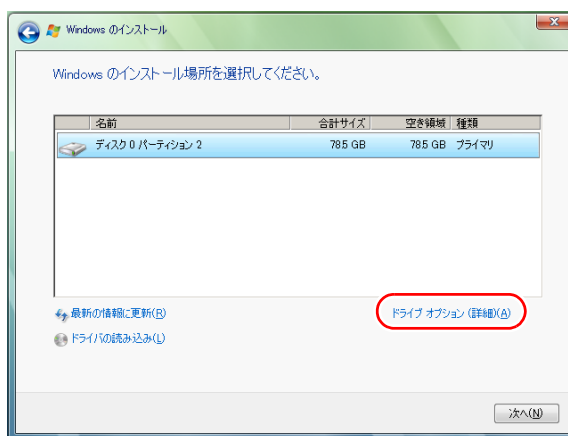
Cドライブを分割・変更する

Cドライブの分割・変更をする場合は、Windowsの再インストールが必要です。

 p.190 「Windows Vistaのインストール」の手順11を次の手順に読み替えて、Windowsのインストールを行ってください。

<p.190 「Windows Vistaのインストール」の手順11の読み替え>

1 「ドライブオプション（詳細）」をクリックします。



2 「ディスク0パーティション2」(Cドライブ) が選択された状態で「削除」をクリックします。

3 「このパーティションを削除すると…」と表示されたら、[OK] をクリックします。

削除したパーティション (Cドライブ) が「未割り当て領域」となります。

4 次のとおり作業を続けます。

<Cドライブを分割したい場合>

(1) 「ディスク0未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。
手順5に進みます。

<Cドライブの容量を増やしたい場合>

すでにHDDが分割されている場合は、Cドライブ以外のドライブを削除して未割り当ての領域を増やします。ただし、削除したドライブのデータは消えてしまいます。


(1) そのほかのパーティションもCドライブと同様に削除し、「ディスク0未割り当て領域」を増やします。

(2) 「ディスク0未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。
手順5に進みます。

5 Cドライブのサイズを決めます。サイズを入力し、「適用」をクリックします。 Cドライブには、40GB (40000MB) 程度を割り当てることをおすすめします。

6 「ディスク0パーティション2」(Cドライブ)が選択された状態で、[次へ]をクリックします。

Windows Vistaのインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは20分~40分かかります。

続いて  p.190 「Windows Vistaのインストール」手順12に進みます。


手順12の画面が表示されるまで、キーボードやマウスは操作しないでください。

▶Cドライブ以外のドライブを作成・変更する

ここでは、Cドライブ以外のドライブを作成・変更する方法について説明します。


次のような場合にご覧ください。

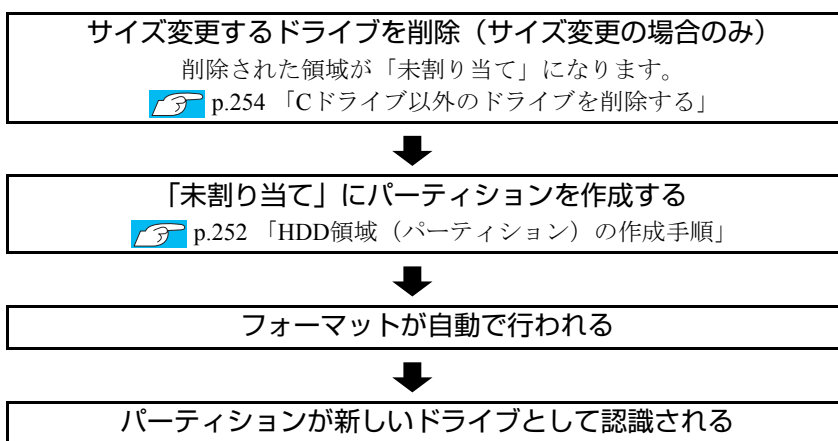
- Cドライブ以外のドライブのサイズを変更する場合
- Windowsの再インストール中にCドライブを分割して作成・変更された「未割り当て」をドライブにして使用する場合
- HDDを増設・交換した場合

Cドライブ (Windowsの入っているドライブ) の分割・変更を行う場合は、 p.248 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

ドライブ作成・変更の流れ

ドライブの作成の流れは次のとおりです。

作業は  p.252 「HDD領域(パーティション)の作成手順」に従ってください。



※ HDD内の「未割り当て」にパーティションを作成すると、パーティションは、Windows上でドライブ (DやEなど) として利用できるようになります。

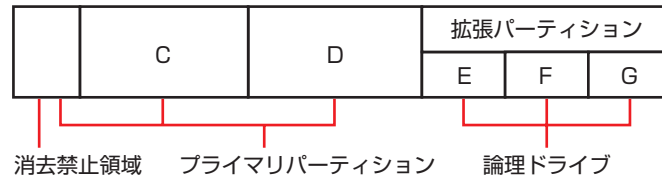
参考

パーティションとは

ドライブの作成・変更を行う画面（ディスクの管理）では、HDD領域のことを「パーティション」と言います。パーティションには、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」があります。

- 1つのHDDに作成できるパーティションは最大で4つです。消去禁止領域もパーティションの1つです。
- パーティションを作成すると、自動的に3つ目まではプライマリパーティションとなり、4つ目は拡張パーティションとなります。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

<パーティションの組み合わせの例>

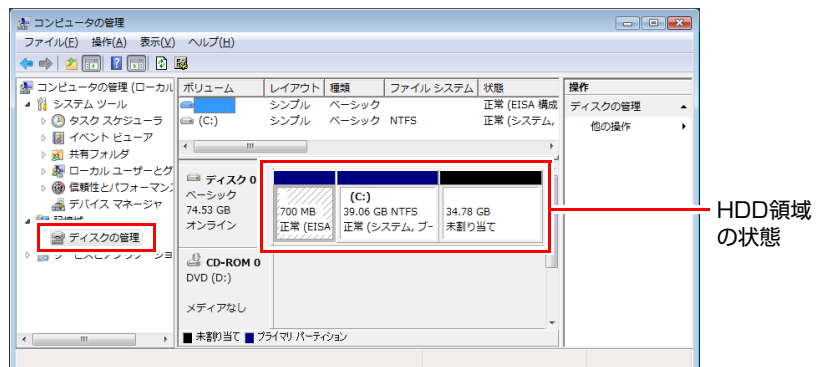


HDD領域（パーティション）の作成手順

HDD領域（パーティション）を作成する手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとメンテナンス」 - 「管理ツール」 - 「コンピュータの管理」をダブルクリックします。
- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3 「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左の「ディスクの管理」をクリックします。

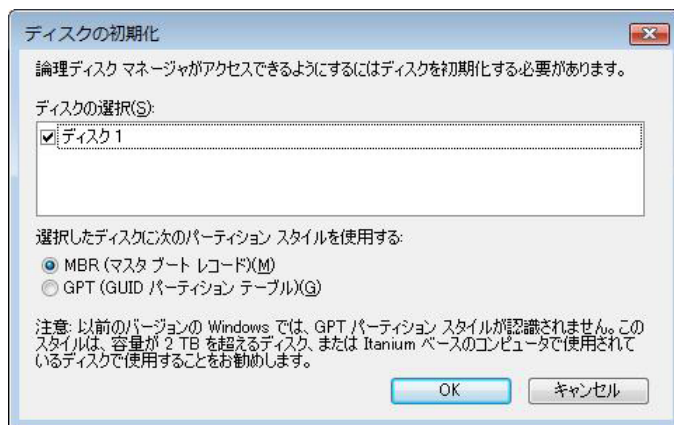
HDD領域の状態が表示されます。



<イメージ>

<新しいHDDを増設した場合>

「ディスクの初期化」画面が表示されます。[OK] をクリックして、ディスクの初期化を行ってください。



- 4 パーティションを作成したい「未割り当て」の領域を右クリックして、表示されたメニューから「新しいシンプルボリューム」をクリックします。
- 5 「新しいシンプルボリュームウィザード」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 6 「ボリュームサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して、[次へ] をクリックします。
- 7 「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、ドライブ文字を選択して [次へ] をクリックします。
- 8 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 9 「新しいシンプルボリュームウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。

フォーマットが開始します。フォーマットが完了したら、HDD領域（パーティション）の作成は終了です。

▶Cドライブ以外のドライブを削除する

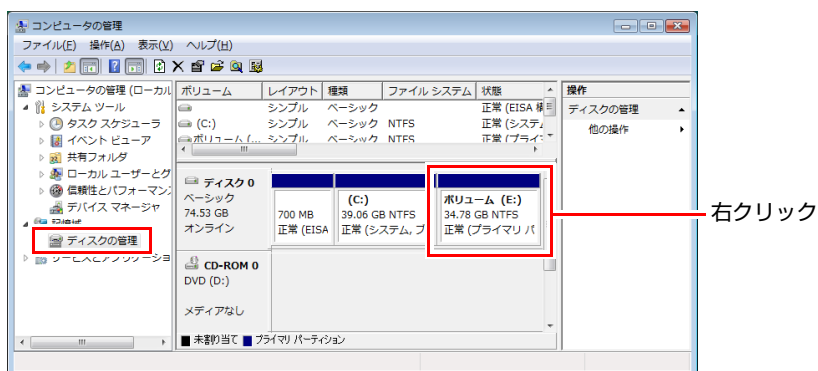
Cドライブ以外のドライブ（Dドライブなど）のサイズを変更するには、変更するドライブを削除してから、作成しなおします。

ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。ドライブ内の重要なデータは、CドライブやCD-Rメディアなどにあらかじめバックアップを行ってください。

ドライブを削除する手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとメンテナンス」 - 「管理ツール」 - 「コンピュータの管理」をダブルクリックします。
- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3 「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左の「ディスクの管理」をクリックします。


HDD領域の状態が表示されます。



<イメージ>

- 4 削除したいドライブ（パーティション）の領域を右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの削除」をクリックします。
- 5 「・・・続行しますか？」と表示されたら [はい] をクリックします。

パーティションを削除すると、「未割り当て」になります。「未割り当て」をパーティションとして使用したい場合は、パーティションの作成を行います。

 p.252 「HDD領域（パーティション）の作成手順」

リチウム電池の交換

「BIOS Setupユーティリティ」で設定した情報は、マザーボード上のリチウム電池により保持されます。

本機で使用するリチウム電池は、次のとおりです。

- CR2032（または同等品）

リチウム電池は消耗品です。コンピュータの使用状況により異なりますが、寿命は約3年です。

日付や時間がおかしくなったり、BIOSで設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。このような場合は、リチウム電池を交換してください。




- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- コンセントに電源プラグを接続したままで作業をしないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



- 内蔵リチウム電池の交換は、本機の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。




リチウム電池の交換を行うと、現在のBIOSの設定情報は初期値に戻ります。リチウム電池の交換を行う前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。

 p.181 「BIOS の設定値」

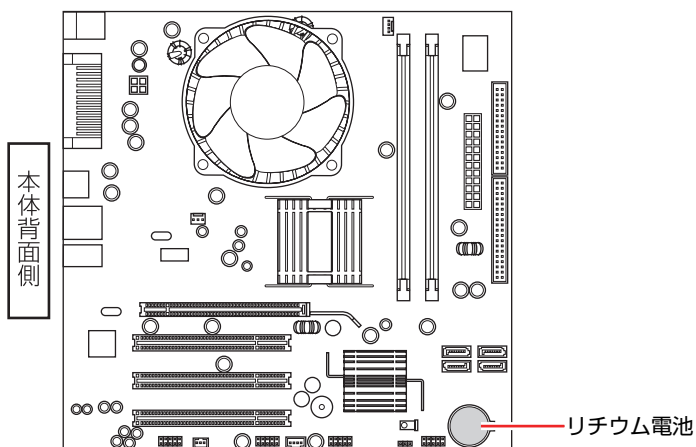
リチウム電池を交換する手順は、次のとおりです。作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。

- 1 コンピュータ本体および接続している周辺機器の電源を切ります。**
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 コンピュータ本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。**
- 3 本体カバーを取り外します。**


 p.122 「本体カバーの取り外し・取り付け」

4 リチウム電池の位置を確認します。

リチウム電池は、マザーボード上の次の位置にあります。



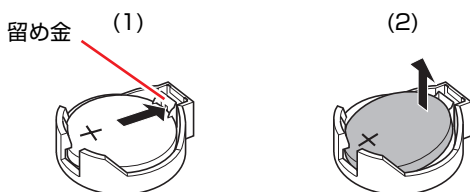
5 作業の妨げになる拡張ボードがあれば、取り外します。

 p.135 「拡張ボードの取り付け・取り外し」

6 リチウム電池を抜きます。

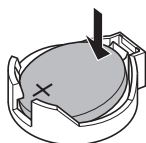
(1) 電池ホルダの留め金を押します。

(2) リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。




7 新しいリチウム電池を取り付けます。


刻印面(+側)が表側になるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。取り付けると「カチッ」と音が鳴ります。






8 手順5で拡張ボードを取り外した場合は、元どおりに取り付けます。

 p.135 「拡張ボードの取り付け・取り外し」

9 本体カバーを取り付けます。

 p.122 「本体カバーの取り外し・取り付け」

10 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

- 11** コンピュータの電源を入れます。
- 12** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「CMOS Checksum Bad」と表示されたら、を押して、BIOS Setupユーティリティを実行します。
 p.160 「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 13** 「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」を実行します。
 p.164 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」
- 14** 日付、時刻やそのほか変更する必要がある項目の再設定を行います。
- 15** 「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択してBIOS Setupユーティリティを終了します。

CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した各種情報などが保存されています。通常は、CMOS RAMを初期化する必要はありません。BIOS Setupユーティリティで設定したパスワードを忘れたり、BIOSの設定を誤ったりして本機が起動しなくなった場合には、CMOS RAMを初期化することで動作が可能になります。



警告

- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- コンセントに電源プラグを接続したままで作業しないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。





注意


- CMOS RAMの初期化は、本機の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



制限

- CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報は初期値に戻ります。CMOS RAMを初期化する前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。
 p.181 「BIOSの設定値」
- BIOSで管理者パスワードを設定し、HDDのアクセスを制限していた場合、CMOS RAMの初期化を行っても、HDDへのアクセス制限を解除することはできません。HDDへのアクセス制限を設定したHDDは、管理者パスワードを忘れると使用できなくなります。
 p.168 「HDDアクセス制限」

CMOS RAMの初期化の手順は、次のとおりです。作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。

- 1** コンピュータ本体および接続している周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。
 p.122 「本体カバーの取り外し・取り付け」

- 4** 拡張の妨げになる拡張ボードがあれば、取り外します。
 p.135 「拡張ボードの取り付け・取り外し」
- 5** リチウム電池を取り外します。
 p.255 「リチウム電池の交換」手順6
- 6** 約1分間放置します。
- 7** リチウム電池を取り付けます。
 p.255 「リチウム電池の交換」手順7
- 8** 手順4で拡張ボードを取り外した場合は、元どおりに取り付けます。
 p.135 「拡張ボードの取り付け・取り外し」
- 9** 本体カバーを取り付けます。
 p.122 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 10** コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。
- 11** コンピュータの電源を入れます。
- 12** 「EPSON」と表示後、「CMOS Checksum Bad」と表示されたら、 を押して、BIOS Setupユーティリティを実行します。
 p.160 「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 13** 「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」を実行します。
 p.164 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」
- 14** 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。
- 15** 「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択してBIOS Setupユーティリティを終了します。

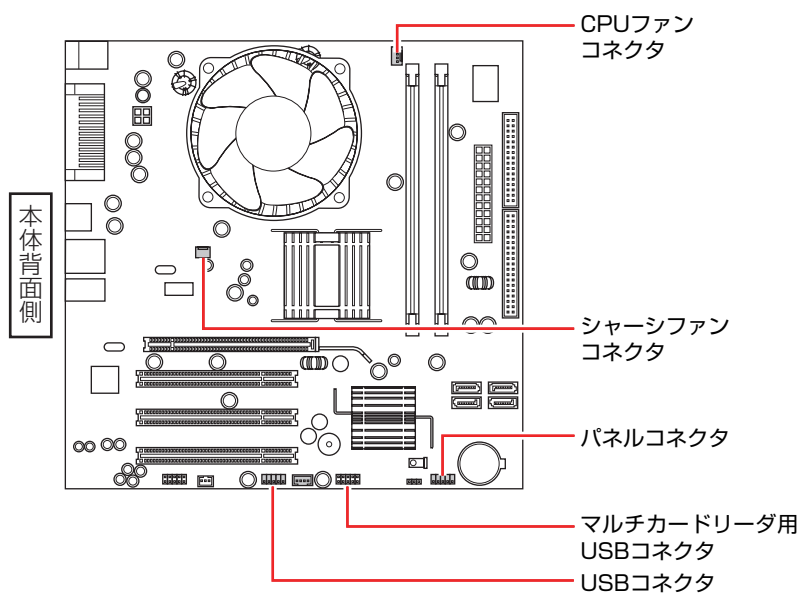
コンピュータ内部のケーブル接続

本機の内部には何本かのケーブルがあり、マザーボードに接続されています。通常はこれらのケーブルを外したり接続したりする必要はありません。誤って外してしまった場合には、次の図を参照して、正しく接続してください。



各種ケーブルは、本書で指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、ケーブルが焼損する場合があります。

コネクタ位置 (マザーボード上)



コンピュータを廃棄するときは

本機を廃棄するときは『サポート・サービスのご案内』（別冊）の「コンピュータの廃棄・譲渡について」をご覧ください。

▶HDDのデータを消去する

本機を廃棄する前にHDDのデータを消去してください。

ドライバCDに収録されている「システム診断ツール」では、HDD内のデータをすべて消去することができます。

消去を開始すると、HDDのデータは元には戻りません。必要に応じてデータをバックアップしてください。



データ消去の結果について、当社および開発元の Ultra-X 社は責任を負いません。HDD のデータ消去・廃棄は、お客様の責任において行ってください。

消去されるデータ

<複数のHDDを接続している場合>






この機能で消去できるデータは、シリアルATAコネクタ0に接続されているHDDのデータのみです。複数のHDDを接続している場合、2台目以降のHDDのデータを削除したいときは、HDDをシリアルATAコネクタ0に接続してからデータの消去を行ってください。

<RAID機能を使用している場合>

RAIDを構成しているすべてのHDDのデータが消去されます。

データの消去

HDD内のデータを消去する手順は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を入れ、ドライバCDを光ディスクドライブにセットします。
「自動再生」画面が表示されたら、をクリックして画面を閉じてください。
- 2** [スタート] - [▶] - [再起動] をクリックして、本機を再起動します。
- 3** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Kernel Loading・・・Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
- 4**  +  を押して診断を中止した後、どれかキーを押します。
- 5** 選択項目画面が表示されたら、 で「HD Erase」を選択して  を押します。

- 6** 選択項目画面が表示されたら、で「Full Erase」を選択してを押します。
- 7** 選択項目画面が表示されたら、「No Verify」を選択してを押します。
「!!WARNING!!」画面が表示されます。
消去が開始されると、途中で止めることはできません。
消去を中止する場合は、を押すと、「システム診断ツール」画面に戻ります。
- 8** キーボードで「Yes」と入力します。
消去が始まります。
消去には、しばらく時間がかかります。かかる時間はHDDの容量によって異なります（40GBのHDDの場合で約30分）。
- 9** 「Erase of HDO :Passed Press any key to continue.」と表示されたら、ドライバCDを光ディスクドライブから取り出して、コンピュータの電源を切ります。
これでデータの消去は完了です。

機能仕様一覧

CPU	プロセッサ	インテルCore 2 Quadプロセッサ、インテルPentium Dual-Coreプロセッサ、インテルCore 2 Duoプロセッサ、インテルCeleronプロセッサ（購入時の選択による）
	ソケット	LGA775Socket
チップセット		インテルG31 Expressチップセット
BIOS		AMI BIOS
セキュリティチップ (TPM)	対応規格	TPM 1.2
	コントローラ	Infineon SLB9635TT 1.2
メインメモリ		PC2-5300 DIMM (DDR2-667 SDRAM) を使用して最大約3GB利用可能
ビデオ	メモリ	メインメモリより最大286MBを使用
	コントローラ	インテルG31 Expressチップセット内蔵
サウンドコントローラ		インテルハイ・デフィニション・オーディオ
記憶装置	HDD	1台内蔵（シリアルATA II）（容量、台数は購入時の選択による）
	光ディスクドライブ	1台内蔵（シリアルATA）（種類、台数は購入時の選択による）
	FDDまたはマルチカードリーダー（オプション）	オプション選択された場合、3.5型FDDまたはFDD付マルチカードリーダーを1台内蔵
インタフェース	USB	7：USB2.0（前面側×3、背面側×4）
	LAN	1：RJ-45 1000Base-T/100Base-TX/10Base-T対応 自動認識
	サウンド	前面側：ヘッドフォン出力コネクタ×1、マイク入力コネクタ×1 背面側：ライン入力コネクタ×1、ライン出力コネクタ×1、マイク入力コネクタ×1
	ディスプレイ	1：アナログRGB ミニD-SUB 15ピン
	キーボード	1：IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン
	マウス	1：IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン
	パラレル	1：セントロニクス社準拠 D-SUB 25ピン マルチモード双方向 ECP/EPPサポート
	シリアル	1：RS-232C準拠 D-SUB 9ピン
ドライブベイ	3.5型ドライブベイ	1
	5.25型ドライブベイ	2
	HDDベイ	3
外部拡張スロット	PCI Express x16	1：ボード長230mmまで搭載可能
	PCI	1：ボード長190mmまで搭載可能 2：ボード長312mm（フルサイズ）まで搭載可能
キーボード		109 USBキーボード（6点入力対応）（種類は購入時の選択による）
マウス		ホイール付USBオプティカルマウス（種類は購入時の選択による）
カレンダー時計内蔵		内蔵リチウム電池によりバックアップ
電源容量		300W
入力電圧		AC100V～240V（50/60 Hz）※AC100Vでのみ動作保証
温湿度条件		温度：10～35℃ 湿度：20～80%（ただし、結露しないこと）
外形寸法（縦置き時）		本体：約179（幅）×396（奥行）×368（高さ）mm（突起部除く）
質量		本体：約9.8kg（最小構成時）
消費電力		375W（最大）／1.6W（スリープ時）／1.0W（電源オフ時）

索引

数字

109 USBキーボード	56
109 USBキーボードユーティリティ	22
インストール	199
109 USBキーボードユーティリティCD	22, 186
3.5型2DD	63
3.5型2HD	63
3.5型FDD	63
3.5型ドライブ	
取り付け・取り外し	142
取り付け・取り外し後の作業	146
3.5型ドライブベイ	25, 120
5.25型ドライブ	
取り付け・取り外し	147
取り付け・取り外し後の作業	150
5.25型ドライブベイ	25, 120

A

ADD2ボード	88
Adobe Reader	22
インストール	195
セットアップ	196
ADSL	98
Advancedメニュー画面	174

B

BIOS	157
BIOS Setupユーティリティ	159
HDDアクセス制限	168
起動	159
起動(Boot)デバイスの順番を変更する	169
終了	163
設定項目	171
設定値	181
設定値を元に戻す	164
操作	160

パスワードを設定する	165
------------------	-----

BitLocker	70
Bootメニュー画面	178

C

Caps Lock	58
CATV	98
CDメディア	
読み込み・再生	82
CMOS RAMの初期化	258
COAラベル	21
COM	117
Cドライブ	188
分割・変更する	248
Cドライブ以外のドライブ	
削除する	254
作成・変更する	251

D

DVDメディア	
読み込み・再生	83
DVI-Dケーブル	29
DVI-Dコネクタ	29
DVI-Iケーブル	29
DVI-Iコネクタ	29

E

Exit & Discard Changes	163
Exit & Save Changes	163
Exitメニュー画面	180

F

FDDアクセスランプ	63
FDDイジェクトボタン	63
FDDケーブル	143
FDDコネクタ	139

FDD(フロッピーディスクドライブ)	ユーザー登録.....197
使う.....63	
不具合.....219	
FD(フロッピーディスク).....63	
製品保護上の注意.....8	
使う.....63	
フォーマット.....65	
G	
gooスティック.....23, 101	
インストール.....200	
H	
HDDアクセス制限.....168	
HDDアクセスランプ.....25	
HDD設定変更サービス.....68	
HDD(ハードディスクドライブ).....67	
暗号化.....70	
購入時の状態.....68	
使う.....67	
データ消去.....261	
取り付け・取り外し.....151	
取り付け・取り外し後の作業.....156	
HDDベイ.....120	
HDD領域	
分割・変更・作成.....247	
I	
Intel Matrix Storage Manager.....22	
Internet Explorer.....99	
情報バー.....101	
追加機能.....101	
ISDN回線.....98	
i-フィルター 30日版.....23, 107	
インストール.....196	
管理パスワード.....108	
J	
Java2 Runtime Environment.....22	
JWord Plugin.....23, 101	
インストール.....199	
L	
LAN機能.....95	
LANケーブル.....32, 95	
接続.....32	
LANコネクタ.....26, 32, 95	
M	
Mainメニュー画面.....172	
MS-IME.....57	
N	
Nero 8 Essentials.....22, 84	
インストール.....198	
使い方.....85	
Nero 8 Essentials CD-ROM.....22, 186	
Norton Internet Security 90日版.....23	
インストール.....196	
ファイアウォール機能.....105	
NTFSファイルシステム.....68	
Num Lock.....58	
O	
OS.....15	
P	
PCI Express x16スロット.....134	
PCISロット.....134	
PCお役立ち情報.....43, 45, 243	
Powerメニュー画面.....176	

- S**
- Scroll Lock 58
 - Supervisor Password (管理者パスワード) 165
- T**
- TPM 246
- U**
- USB 86
 - USB機器 86
 - 接続と取り外し 86
 - 使う 86
 - USBコネクタ 25, 26
 - USBハブ 61
 - User Password (ユーザーパスワード) 165
 - Uボタン 59
- V**
- VGAケーブル 29
 - VGAコネクタ 26, 29
- W**
- Wakeup On LAN 96
 - Webフィルタリング 107
 - Webフィルタリングソフトウェア 107
 - インストール 196
 - Windows
 - インストール 190
 - 強制的に電源を切る 54
 - セットアップ 38
 - ヘルプ 43
 - Windows Complete PC復元 236
 - Windows Defender 106
 - Windows Media Player 93
 - Windows RE 236
 - Windows Update 102
 - Windows VistaリカバリDVD 22, 186
 - Windows.oldフォルダ 221
 - Windows回復環境 236
 - Windowsメール 99
 - 初期設定 100
 - Windowsメモリ診断ツール 236
 - WinDVD 22, 83
 - インストール 199
 - WinDVD CD-ROM 22, 186
- あ**
- アース線 33
 - アース端子 33
 - アイコン 16
 - アップデート
 - BIOS 158
 - Windows 102
 - アナログ電話回線 98
- い**
- 色 88
 - インストール
 - 109 USBキーボードユーティリティ 199
 - Adobe Reader 195
 - gooスティック 200
 - i-フィルター 30日版 196
 - JWord Plugin 199
 - Nero 8 Essentials 198
 - Norton Internet Security 90日版 196
 - Webフィルタリングソフトウェア 196
 - WinDVD 199
 - 拡張ボードのドライバ 195
 - セキュリティソフトウェア 196
 - セキュリティチップユーティリティ 202, 246
 - 不具合 232
 - 本体ドライバ 194

マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版	200	USBコネクタ	61
インターネット	97	接続	30
インフォメーションボタン	44, 59	キーボードコネクタ	26
インフォメーションメニュー	22, 44	キーロック表示ランプ	56
お		記憶装置	
オーディオ機器の接続	91	不具合	219
お手入れ		起動順位の変更	169, 178
外装	242	機能キー	56
コンピュータ本体内部	242	機能仕様一覧	263
お問い合わせ情報シール	21	休止状態	112
オペレーティングシステム	15	有効にする	113
音量の調節	44, 93, 94	強制的に電源を切る	54
		記録メディア	8
か		く	
解像度	88	クラシック表示	47
外部オーディオ機器	91	クリック	36, 62
書き込み		け	
光ディスクメディア	84	警告メッセージ	239
拡張スロット	26, 120, 134	ケーブル接続	
拡張パーティション	252	ドライブ装置	140
拡張ボード		こ	
増設に関する不具合	217	高パフォーマンス	110
取り付け・取り外し	135	コピーコントロールCD	79
取り付け・取り外し後の作業	138	困ったときに	206
各部の名称と働き	25	コマンドプロンプト	236
カスタマイズ	18	コントロールパネルの表示	47
カテゴリの表示	47	コンピュータウイルス	99, 104
かな入力	57	コンピュータ内部のコネクタ	260
管理者	49	コンピュータの廃棄	261
管理者パスワード	165	コンピュータ本体の不具合	208, 216
管理パスワード		コンピュータ名	38
i-フィルター 30日版	108	コンピュータを購入時の状態にする	190
き			
キーボード	56		

さ

再インストール	184
必要なメディア	186
再起動	53
再生	
CDメディア	82
DVDメディア	83
音声	93
サウンド機能	91
サウンドコネクタ	26, 91
サウンドドライバ	22
サウンドユーティリティ	94
サウンドレコーダー	93
サポート情報検索	46
サポート・サービスのご案内	21, 206

し

システム診断ツール	23, 233
HDDのデータ消去	261
システムの拡張	119
システムの復元	46, 234, 236
自動更新	102
シャットダウン	50, 52
周辺機器	
増設・交換に関する不具合	217
終了方法	50, 51
消去禁止領域	68
使用できるマイク	92
省電力	110
省電力機能	47, 110
不具合	216
省電力状態	
移行する	114
時間経過で移行させない	114
種類	112
注意	111

復帰方法	116
------------	-----

使用・保管時の注意	7
初期設定ツール	40
初期値に戻す	164
シリアルATAケーブル	141
シリアルATAコネクタ	139
シリアルATA (Serial ATA)	67, 79
シリアルコネクタ	26, 117
シングルチャネル	130

す

数値キー	56
スクロール	62
スタートアップ修復	236
スタートボタン	16
スタートメニュー	16
スピーカ	91
接続	32
不具合	228
スリープ	50, 51
スリープ状態	112
スリープボタン	59, 115
スロットカバー	135

せ

制御キー	56
製品保護上の注意	7
セーフモード	234
セキュリティ機能	246
セキュリティソフトウェア	23, 104
インストール	196
セキュリティ対策	46
セキュリティチップユーティリティ	23
インストール	202, 246
設定	190
セキュリティチップ (TPM)	246

不具合	217	ディスプレイ	
セキュリティロックスロット	26, 118	接続	29
接続と取り外し		設定	90
USB機器	86	ディスプレイの電源を切る	112
設定値を元に戻す	164	データの暗号化	246
セットアップ		デスクトップ	16
Adobe Reader	196	デュアルチャネル	130
Windows	36, 38	電源コード	
セットアップ完了後の作業	42	接続	33
前面	25	電源コネクタ	26
そ		電源スイッチ	25
増設		電源設定	110
3.5型ドライブ	142	電源の入れ方	37, 53
5.25型ドライブ	147	電源の切り方	52
HDD	151	電源プラン	110
拡張ボード	135	内容変更	111
ソフトウェアの不具合	229	電源ランプ	25
た		表示	116
ダウンロード		電源を切る	50, 52
電子マニュアル	245	電子マニュアル	
タスクバー	16	ダウンロード	245
タブ	16	電池ホルダ	256
ダブルクリック	62	添付されているソフトウェア	22
ち		と	
直接入力モード	57	ドライブCD	22, 186
つ		ドライブの装着	
通常の終了	50, 51	3.5型ドライブ	142
通知領域	16	5.25型ドライブ	147
通風孔	26	HDD	151
て		ドライブベイ	25, 120
ディスクの管理	203	ドライブ名	188
		ドラッグアンドドロップ	62
		とらぶる解決ナビ	45, 206
		トラブルが解決しなかったら	46
		トラブルが発生したら	206

取り付け・取り外し

3.5型ドライブ	142
3.5型フェイスプレート	127
5.25型ドライブ	147
5.25型フェイスプレート	128
HDD	151
拡張ボード	135
フロントパネル	125
本体カバー	122
メモリ	130

取り付け・取り外し後の作業

3.5型ドライブ	146
5.25型ドライブ	150
HDD	156
拡張ボード	138
メモリ	133

「取り外し」アイコン 87

な

ナローバンド 97

に

日本語入力システム	57
日本語入力モード	57
入力キー	56
入力装置	
不具合	225

ね

ネットワーク	95
接続	32
ネットワーク機能	95
使う	95
ネットワークドライバ	22

は

パーティション	252
ハードディスクドライブ (HDD)	67
暗号化	70
廃棄 (コンピュータ)	261
ハイブリッドスリープ	112
背面	26
パスワード	165
パスワードを設定する	165
バックアップ	67, 190
パラレルコネクタ	26, 117
バランス	110
ハングアップ	54

ひ

光ディスクドライブ	25
使う	79
不具合	221
光ディスクドライブアクセスランプ	25
光ディスクドライブイジェクトホール	25
光ディスクドライブイジェクトボタン	25
光ディスクメディア	
書き込み	84
製品保護上の注意	8
光ファイバー (FTTH)	98
ビデオドライバ	22
ビデオボード	29, 88, 138
表示機能	88
表示装置	
設定	90
不具合	227
標準ユーザー	49

ふ

ファイアウォール 105

フェイスプレート		ホットキー	59
取り外し・取り付け	127	ボリューム	93, 94
フォルダメニュー	48	本機でできること	24
不具合		本体カバー	
FDD(オプション)	219	取り外し・取り付け	122
HDD	220	本体ドライバ	
インストール	232	インストール	194
キーボード	225	ま	
起動	208, 215	マイク	91, 92
コンピュータ本体	208, 216	マイク使用時の音量調節	94
省電力機能	216	マイク入力コネクタ	25, 26, 91, 92
スピーカ	228	マウス	62
セキュリティチップ(TPM)	217	製品保護上の注意	9
装置の増設・交換	217	接続	31
そのほか	218	操作	62
ソフトウェア	229	使い方	36
ディスプレイ	227	不具合	226
光ディスクドライブ	221	マウスコネクタ	26
マウス	226	マウスポインタ	36
メモリ	219	マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版	23
復元ポイントの作成	46, 235	マニュアルびゅうわ	22, 45
普通のスリープ	112	バックアップ	244
復帰方法	51	マルチカードリーダー	
省電力状態	116	使う	63
プライマリパーティション	252	み	
ブロードバンド	97	右クリック	62
フロッピーディスクドライブ(FDD)	63	め	
プロバイダ	97	メモリ	
フロントパネル		仕様	129
取り外し・取り付け	125	増設・交換後の作業	133
へ		装着	129
ヘッドフォン出力コネクタ	25, 91	取り付け・取り外し	130
ほ		不具合	219
ボタン	16		

も

文字キー	56
文字を入力するには	57

ゆ

ユーザーアカウント	48
作成	48
種類	49
ユーザーアカウント制御画面	49
ユーザーサポート	46
ユーザー登録	
i-フィルター 30日版	197
マカフィーSiteAdvisor Plus 30日版	201
ユーザーパスワード	165
削除	167

よ

読み込み・再生	
CDメディア	82
DVDメディア	83

ら

ライセンス認証	39
---------------	----

ライティングソフト	84
ライトプロテクト	66
ライン出力コネクタ	26, 92
ライン入力コネクタ	26, 92

り

リカバリ	184
リチウム電池の交換	255
リフレッシュレートの設定	90
リモートブート	96
領域の作成	203

れ

冷却ファン	26
-------------	----

ろ

ローマ字入力	57
録音	
音声	93
音量調節	94
論理ドライブ	252

Memo

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼動システムなど極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用は意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でのご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本製品は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合を生じることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人 電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示）

有寿命部品について

当社のコンピュータには、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスク、冷却用ファンなど）が含まれています。有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日約8時間、1ヶ月で25日間のご使用で約5年です。

上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。

なお、長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。

JIS C 61000-3-2適合品

本製品は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しております。

パソコン回収について



当社では、不要となったパソコンの回収・再資源化を行っています。

PCリサイクルマーク付きの当社製パソコンおよびディスプレイは、ご家庭から廃棄する場合、無償で回収・再資源化いたします。

パソコン回収の詳細は下記ホームページをご覧ください。

<http://shop.epson.jp/pcrecycle/>

著作権保護法について

あなたがビデオなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

テレビ・ラジオ・インターネット放送や市販のCD・DVD・ビデオなどで取得できる映像や音声は、著作物として著作権法により保護されています。個人で楽しむ場合に限り、これらに含まれる映像や音声を録画または録音することができますが、他人の著作物を収録した複製物を譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載（改編して掲載する場合も含む）するなど、私的範囲を超えて配布・配信する場合は、事前に著作権者（放送事業者や実演家などの隣接権者を含む）の許諾を得る必要があります。著作権者に無断でこれらの行為を行うと著作権法に違反します。

また、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ご注意

1. 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
2. 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成いたしました。が、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
4. 運用した結果の影響につきましては、3項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

- Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Media、ActiveX、BitLocker、Internet Explorerは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Core、Core Inside、Pentium、Celeronはアメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。
- PS/2はInternational Business Machinesの登録商標です。
- Symantec、Symantec ロゴ、Norton Internet Security、LiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。
- McAfeeおよびマカフィーは、米国法人McAfee, Inc. またはその関連会社の米国またはその他の国における登録商標です。
- Adobe、Adobe ロゴ、Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。

The logo graphic consists of a blue horizontal bar with three white diagonal stripes on the right side, positioned above a white rectangular box.

shop.epson.jp